筑波大学博士（国際日本研究）学位請求論文

ジェンダーに関わる現代日本語表現の研究

－「女子力」を中心に－

馬　雯雯

2020 年度

目次

第 1 章　研究背景と目的 1

1.1　研究背景 1

1.2　研究目的 2

1.3　本研究の構成と各章の概要 3

第 2 章　先行研究と本研究の位置づけ 5

2.1　はじめに 5

2.2　言語とジェンダー研究 5

2.2.1　言語使用とジェンダー研究 5

2.2.2　ジェンダー表現研究 7

2.3　「女子」に関する研究 12

2.4　「女子力」に関する研究 19

2.5　本研究の位置づけ 22

2.6　本研究の理論的枠組み 23

2.7　研究方法 27

2.7.1　本研究で扱うデータ 27

2.7.2　分析方法 29

2.8　本章の小括 30

第 3 章　「女子力」の意味分析 34

3.1　はじめに 34

3.2　接尾辞「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけ 34

3.2.1　接尾辞「力」に関する先行研究 34

3.2.2　データ 35
3.2.3　頻度から見た「力」による派生語の全体像 36
3.2.4　「力」による派生語の分類 37
3.2.4.1　分類方法について 37
3.2.4.2　【ありか】 39
3.2.4.2.1　「もの」 39
3.2.4.2.2　「組織・社会」 40
3.2.4.2.3　「人間」 41
3.2.4.3　【性質】 41
3.2.4.4　【用途・目的・影響先】 42
3.2.5　考察 44
3.2.6　「女子力」の位置づけ 45
3.3　「女子力」とは 46
3.3.1　データと分析方法 46
3.3.2　「女子力」を知ったきっかけ 47
3.3.3　「女子力」に対する定義 48
3.3.3.1　「女子力」とジェンダー 48
3.3.3.2　「女子力」と能力 50
3.3.3.3　行為化された「女子力」 54
3.4　本章の小括 56

第 4 章　「女子力」からの連想語 57
－「女性」と形容詞のコロケーションとの対照から－ 57
4.1　はじめに 57
4.2　データと分析手順 57
4.3　結果と分析 58

4.3.1　「女子力」からの連想語 58
4.3.2　「女子力」を表す語 62
4.3.3　「女性」と形容詞のコロケーション 64
4.3.3.1　「女性」に関する先行研究 65
4.3.3.2　データと分析方法 66
4.3.3.3　「女性」と共起する形容詞の全体像 67
4.3.3.4　「女性」の直前にある形容詞 68
4.3.4　「女性」と形容詞のコロケーションと「女子力」 71
4.4　本章の小括 72

第 5 章　「女子力」の使用の様相 73
5.1　はじめに 73
5.2　データと分析方法 73
5.3　「話し手」の視点から見る「女子力」の使用 74
5.3.1　データ 75
5.3.2　相手 75
5.3.3　「女子力」の対象 76
5.3.4　表現および意図 81
5.3.5　本節のまとめ 85
5.4　「聞き手」の視点から見る「女子力」の使用 85
5.4.1　データ 86
5.4.2　分析 86
5.4.2.1　相手 86
5.4.2.2　「女子力」の対象 88
5.4.2.3　表現および意図 90

5.4.3 「女子力」の揺らぎ 95
5.4.4 本節のまとめ 98
5.5 「女子力が高いね」に対する返答の様相 98
5.5.1 データ 98
5.5.2 分析 99
5.5.2.1 「応答しない」およびその理由 99
5.5.2.2 「応答」およびその内容 100
5.5.3 考察とまとめ 104
5.6 本章の小括 105

第 6 章 「女子力」に対する評価の様相 107
6.1 はじめに 107
6.2 「評価」「評価表現」の捉え方 107
6.3 データと分析の枠組み 108
6.3.1 データ 108
6.3.2 分析の枠組み 109
6.4 結果と分析 111
6.4.1 「女子力」の捉え方の全体像 111
6.4.2 「女子力」を巡る評価表現 112
6.5 分析の小括 119
6.6 「女子力」に対する捉え方の二面性 121
6.7 終わりに 122

第 7 章 本研究のまとめと今後の展望 124
7.1 本研究のまとめ 124
7.2 本研究の意義 127

7.3　今後の展望 129

付録I－調査票 131

付録II－「力」の派生語リスト 134

参考文献 143

参考資料 150

参考ウェブサイト 151

使用データ 151

博士論文に関わる研究発表活動 152

第１章　研究背景と目的

1.1　研究背景

日本語には「女子力」ということばがある。それはジェンダーを表す「女子」と接尾辞「力（りょく）」によって形成された派生語で、新語・流行語として生まれ、定着してきた[1]。「女子」と「力」の結び付きによって、「女子力」は女子の力、女子が持つ能力を示し、ジェンダーの要素と能力の要素を混在させている。

意味合い、語感には違いがあるが、「女子」は「女性」「女」「婦人」と並んで、女性を指すことばである。「力」は漢語接尾辞で、それによる派生語は多々挙げられる。「影響力」「想像力」「経済力」「語彙力」といった普通に使われている語がある一方、「老人力」「鈍感力」といった特徴的な新しい語も挙げられる。その中で、「老人力」は作家・画家である赤瀬川原平によって提唱された概念で[2]、1998 年の「新語・流行語大賞」のトップテンにも選出された[3]。「老人力」の前接語を観察すると、それは「想像力」「語彙力」の前接語と異なっており、人物を表す語が「力」の前接語を担うことが特徴的である。このような人物を表す語が接尾辞「力」の前接語を担う派生語には、「老人力」の他に、「女子力」も挙げられる。本研究は、接尾辞「力」による派生語のグループに位置づけられ、ジェンダーに関わりを持つ「女子力」に注目を当て、考察する。

接尾辞およびそれによる派生語に関する先行研究は語構成・意味・用法などの観点からなされたものが多いが、本研究は、ことばとジェンダーの観点から、派生語の「女子力」を分析する。生物的な性と区別し、ジェンダーは社会的・文化的・歴史的に形成された性に関わる概念である。言語学においては、ジェンダーの視点を持って分析を行った研究は数多く蓄積されてきた。その中で、語彙・表現とジェンダーを結び付けた研究では、辞書や新聞に使われる女性と男性を表す表現の非対称性、冠として職業名などの

---

[1] 『大辞林』（第三版）によれば、接尾辞「力」には「りょく」と「りき」という 2 つの読み方があるが、本研究における接尾辞「力」は「りょく」を指す。

[2] 「老人力」は「物忘れ、繰り言、ため息等従来、ぼけ、ヨイヨイ、耄碌として忌避されてきた現象に潜むとされる未知の力」（筑摩書房：1998）である。

[3] 「新語・流行語大賞」は自由国民社が創設した賞である。自由国民社によると、「この賞は、1 年の間に発生したさまざまな「ことば」のなかで、軽妙に世相を衝いた表現とニュアンスをもって、広く大衆の目・口・耳をにぎわせた新語・流行語を選ぶとともに、その「ことば」に深くかかわった人物・団体を毎年顕彰するもの」である。なお、この大賞は 2004 年により「ユーキャン新語・流行語大賞」に改称された。詳しくは https://www.jiyu.co.jp/singo/を参照されたい。

前につけられ、その職業に従事している人が女性であることを表す「女子○○（女○○、女性○○）」について盛んに検討されてきた（寿岳 1979、田中 1984、中村 1995、遠藤 1997、佐竹 2001、田中他 2006,2009a、徐 2013a,2013b など）。「女子（女、女性）」は職業名以外のことばと結合することによって、どのようなことばを形成し、また、どのような特徴が見られるだろうか。本研究はジェンダーを表す「女子」に焦点を当て、職業名ではなく、接尾辞「力」と結合することで、どのような特徴が見出されるのかを究明する。

「女子力」は「力」による派生語の 1 つとして、そのグループの中にどのように位置づけられるのか。日本語には「女性らしさ」ということばもあるが、「女子力」はそれとどのような関連があるのか。また、「女子力」は日常会話でどのように使われているのか。「女子力」はどのように評価されているのか。このような問題意識の下で、本研究の目的は以下の通りである。

1.2　研究目的

本研究は、ジェンダーに関わる現代日本語表現の特徴を明らかにする。具体的には、ジェンダーを表す「女子」と接尾辞「力」によって形成された派生語である「女子力」の特徴を、多角的な視点から明らかにする。「女子力」はジェンダーに関わる現代日本語表現のキーワードとして挙げられる。それは、新語・流行語として生まれた「女子力」が次第に定着し、インターネットや雑誌、テレビといったメディアおよび、日常生活で普通に使われているからだけではなく、ジェンダーに関わる既存の表現である「女性らしさ」と関わりを持つからでもある。

「女子力」ということばについての分析を通して、ジェンダーに関わる新しい表現の「女子力」と「女性らしさ」という既存の表現との関連を明らかにすること、「女子力」ということばと「ジェンダー規範」との関連を明らかにすること、さらに、語彙研究のアプローチの新しい可能性を示すことを目的とする。

本研究の研究課題は以下の 4 点にまとめられる。

課題 1 :「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけおよび、「女子力」を巡る定義・解釈から、「女子力」の意味分析を行う。（➡3 章）

課題 2 :「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語から、「女子力」に関わる三領域、「女子力」と「女性らしさ」との関連を明らかにする。（➡4 章）

課題 3 :「女子力」を使用する相手、対象となる事柄、具体的な表現、意図、受け取り方といった要素から、「女子力」の使用の様相を明らかにする。（➡5 章）

課題 4 :「女子力」に対する評価における語彙・表現から、「女子力」に対する評価の様相、「女子力」の捉え方の特徴を明らかにする。（➡6 章）

1.3　本研究の構成と各章の概要

本研究は 7 つの章から構成されている。第 3 章からは、本研究の分析結果を記している。本研究は主に「女子力」とは「どのような」ものなのかから分析をはじめ、「女子力」の内実を明らかにする。その上で、「女子力」は「どのように」使用されているのか、評価されているのかという課題に移り、「女子力」の使用の様相および「女子力」に対する評価の様相を明らかにする。本研究の分析結果を示す各章のつながりは以下の図 1-1 の通りである。

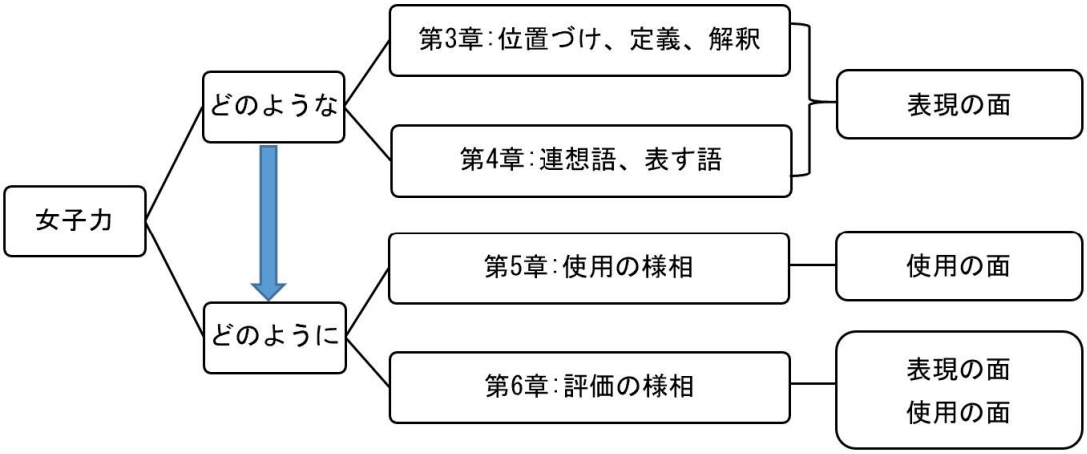

図 1-1　「女子力」に対する研究の構成

各章の概要は以下の通りである。

第 1 章では、研究背景、研究目的および研究課題を述べる。

第 2 章では、まず、先行研究を概観した上で、本研究の位置づけを述べる。次に、本研究の理論的枠組みおよび本研究で扱うデータ、本研究の分析方法を提示する。

第 3 章からは、本研究の分析結果を記している。第 3 章では、「女子力」とは「どのような」ものかという問いに焦点を当て、分析を行う。まず、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用い、「力」による派生語から「女子力」の位置づけを明らかにする。そして、「女子力」を巡る記述における言語的標識の軸から、「女子力」はどのように解釈・定義されているのか、「女子力」の意味分析を行う。

第 4 章では、続けて「女子力」とは「どのような」ものかという問いに着目する。まず、「女子力」からの連想語および「女子力」を表す語に焦点を当て、「女子力」に関わる三領域、「女子力」と「女性らしさ」との関連を明らかにする。次に、「女子力」から連想される語、「女子力」を表す語から形容詞を取り出して、それらを中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションと比較することで、「女子力」の特徴を明らかにする。

第 5 章からは、「女子力」は「どのように」使われるのか、評価されるのかという問いに移って、分析を行う。第 5 章では、「女子力」の使用の様相の分析結果を示す。まず、「話し手」の視点から、「女子力」の使用の様相を明らかにする。次に、「聞き手」の視点から、「女子力」の使用の様相を明らかにする。最後に、「女子力が高いね」という発話に対し、聞き手がどのように返答をするのかについての分析結果を示す。

第 6 章では、「女子力」を巡る評価表現に着目し、「女子力」は「どのように」大学生・大学院生（女性・男性）に評価されるのかを分析した上で、「女子力」の捉え方の特徴を示す。

終章である第 7 章では、本研究のまとめおよび意義、今後の展望を述べる。

第 2 章　先行研究と本研究の位置づけ

2.1　はじめに

本章では、先行研究および本研究の位置づけを述べる。まず、2.2 節では、言語使用とジェンダー研究、ジェンダー表現研究の順で「言語とジェンダー」に関する先行研究を概観する。次に、2.3 節では、「女子」の先行研究について述べる。続いて 2.4 節では、「女子力」に関する先行研究を紹介する。そして、2.5 節では、先行研究と本研究の関連および本研究の位置づけを述べる。2.6 節、2.7 節では、本研究の理論的枠組みおよび本研究で扱うデータと分析方法を示す。最後に、2.8 節では、本章を小括する。

2.2　言語とジェンダー研究

中村（1995）によると、言語学における「言語とジェンダー」の研究は言語使用とジェンダー研究およびジェンダー表現研究という 2 つの流れに分けられる[4]。本節 2.2 節では、日本語における言語使用とジェンダー研究、ジェンダー表現研究に関する先行研究を概観する。

2.2.1　言語使用とジェンダー研究

中村（1995）は、言語使用とジェンダー研究は女性と男性のことばの使い方の差異、「発音・語彙・文構造・会話の仕方など、言語の様々なレベルにおける性差を明らかにし、性差の背後にあるメカニズムをさぐろうとする」（p.7）分野である。日本語における言語使用とジェンダー研究は主に文末形式、人称詞、談話、ジェンダーと言語イデオロギーに注目したものが多い。

まず、文末形式に焦点を当てた研究はマグロイン（1997）、小川（1997）、尾崎（1997）、鈴木（1998）、遠藤（2002）、水本（2006）、増田（2016）などが挙げられる。その中で、尾崎（1997）は、職場における男女の話し言葉を資料に、「「わ」の使用」「「だ」の不使用」「「だわ」の使用」の 3 つの観点から、文末形式を分析した。まず、終助詞の「わ」は男性による使用が皆無で、女性のみに使われているが、その使用率は低く、衰退に向

[4] この 2 つの流れははっきりと分けられない場合があると中村（1995）も指摘しているが、その主な研究対象および注目されるところは異なるので、本節では、この 2 つの流れに従い、先行研究を概観する。

かっていると述べている。そして、助動詞「だ」の不使用について、女性の間ではまだ普通に見られるが、30 年代以下の世代ではその「不使用」は衰退に向かっていると記述している。また、助動詞「だ」＋終助詞「わ」（＝「だわ」）の使用について、男性のみならず女性の使用も皆無に近い。「死語」「旧女性専用形式」に近づいていると指摘している。遠藤（2002）は、男性の話し言葉の文末表現に注目して、分析を行っている。男性は職場の雑談でも 1）敬体を多用すること、2）女性専用とされていた「あら」「のよ」「わ」の使用が見られることを示している。増田（2016）は、尾崎（1997）が明らかにされた文末形式の「「わ」の使用」「「だ」の不使用」「「だわ」の使用」の傾向は 20 年が経過して、どのように変化したかを目的に、女性文末形式の使用実態を分析した。その結果、1993 年から約 20 年後、女性専用とされる形式はなくなることなく、依然として使われているが、若年層を中心にその使用は衰退しつつあり、尾崎（1997）が指摘した傾向がより一層進んだと述べている。

人称詞に関する先行研究は金丸（1993,1997）、桜井（2002）、小林（1997,2016）などが挙げられる。その中で、桜井（2002）は、職場別、場面別、年代別、話し手別に、男性の発話の中に見られる「おれ」「ぼく」の使用実態を分析した。小林（2016）では、自然談話を資料に、日常生活における自称詞の特徴を分析している。女性、男性の自称詞については、女性では、「わたし」「あたし」が中心的に使われるが、男性では、「おれ」「ぼく」「わたし」が中心的に使われる。そして、「うち」「自分」「こっち」は使用例が少ないが、男女ともに見られるものである。一方、「名前」「親族呼称」「愛称」など、他者からの呼称をそのまま自称詞とする使用するのは、女性が見られるが、男性による使用は少ないと述べている。

談話の特徴を考察したものは Ide（1990）、内田（1997）、井出（1997）、鈴木（1997）、中島（1997）、因（2003,2006）などがある。その中で、Ide（1990）では、ポライトネス理論および「位相語」という社会言語学の知見の下で、女性の言葉遣いと男性の言葉遣いの差異およびその原因を分析している。鈴木（1997）は普通体の発話を取り上げ、丁寧さと発話行為の視点から、女性が使えないとされる言語形式と丁寧さの関係を論じている。中島（1997）は、職場における談話をデータに、女性、男性に使われる疑問表現を分析した。その結果、「女性的」および「男性的」とされる疑問表現は、男女共通に使う中立的疑問表現の方に移りつつあり、男女のことばの性差は年々縮まる傾向にあると指摘している。因（2006）は、小説、漫画、エッセイなどに現れたジェンダー標示形

式の使用の分析を通し、ジェンダー標示形式がストラテジーとして談話において使われ、様々な役割を果たしていることを述べている。

以上の先行研究は、主に女性を中心に、男女の言葉遣いの使用実態、およびそこに見られる差異に焦点を当てたものである。一方、中村（2001,2002,2006,2007a,2007b,2012）、宮崎（2016）は言語イデオロギーと結び付けて、男女の言葉遣いの形成の原因を追及した。例えば、中村（2006）は明治時代の「女学生ことば」の成立過程を示しながら、「女学生ことば」は女子学生の言語実践によって自然に形成されたのではなく、明治の近代化という政治過程において、作り上げられたものであると主張している。そして、中村（2007a）は「女ことば」を「言語イデオロギー」、言説によって形成された「信念・知識・規範」と捉え、鎌倉・室町・江戸、および近代など各時代の言説の分析を通し、「女ことば」の歴史的形成を分析した。「女ことば」は各時代の政治的・経済的な社会過程に合わせる形で刻々と変わっていて、政治的・経済的な働きを担ってきた（中村 2007a：11-12）と指摘している。

また、宮崎（2016）は、日本の中学校における長期のエスノグラフィーを基に、生徒たちの一人称の使用および一人称実践へのメタ語用的解釈を分析した。その結果、低く評価される女性性が伴う「アタシ」と比べて、中性的かつカジュアルの「ウチ」がより好ましいこと、男性の自称詞とされる「ボク」「オレ」は女子の使える自称詞として正当化されること、男性の自称詞とされる「ボク」は男性が使う場合、逆に好ましくないことを指摘している。そして、生徒たちの言語実践へのメタ語用的解釈は、ジェンダー言語イデオロギーの変容につながっていると述べている。

2.2.2　ジェンダー表現研究

中村（1995）によると、ジェンダー表現研究はある言語においてジェンダーがどのように表されているのかを研究する分野である。取り組む問題については、中村（1995）は以下のように記述している。

女を指すのに使われる言葉にはどのようなものがあるのか、それは男を指す言葉とどのように異なっているのか、それらの言葉はどのように女を表わしているのか、その異なり方は体系的にどのように捉えられるのか、なぜそのように異なった言葉が使われるようになったのか。

（中村 1995：7）

日本語のジェンダー表現研究には、辞書や新聞に使われる語彙・表現に見られる女性差別を考察したものが多い。ことばと女を考える会（1985）は、国語辞典を取り上げ、見出し語や語釈、用例に頻出する女性差別を考察している。例えば、『岩波国語辞典』[5]の「女」という見出し語の「気持がやさしい、煮えきらない、激しくない等」という語釈および『新明解国語辞典』[6]の「女」という見出し語の「狭義では、気が弱く、心のやさしい、決断力に欠けた消極的な性質の人をさす」という語釈は女性を差別するものになると指摘している[7]。遠藤（1997）は一年分の新聞記事における人物紹介欄と雑誌広告の欄を対象として[8]、女性を表す語彙・表現を考察し、男性を表す語彙・表現との相違とそこに女性に対する不公平さや偏見があると述べている。例えば、人物紹介欄の女性の名付けでは、「負けず嫌い」「意地っぱり」のような性質を表すものと「行動派」「肝っ玉かあさん」のような行動力と包容力を評価する語しか見られないが、男性の名付けでは、「生き字引」「第一人者」「アイデアマン」のような人物の知的能力を評価する語が多いと記述している。そして、「女性副知事」「女性エコノミスト」「主婦作家」などのように、「女性」「主婦」などをつけて、その女性の職業、地位を表す語が多く、女性を有徴化していると記述している。

中村（1995）は、女と男を表す表現の非対称性を総合的に分析し、それを「人間＝男観」と「女＝性観」という概念で説明している。「人間＝男観」は、「僕」「少年」「兄弟」「彼ら」などの男を指す語が女も含んで総称的に使用される例に代表されるような男を人間の基準とする考え方で、「女＝性観」は、女は基準から逸脱した存在として「女という性」によって規定されるとする考え方である。佐竹（2011）は語彙の構造や語構成に潜むジェンダーイデオロギーおよび「男ことば/女ことば」という概念における語彙の性別化という問題を取り上げて、語彙とジェンダーの関係を論じている。その結果、語彙構造は 1）人は男である、2）男が人であるという 2 つの意味規則によってジェンダ

---

[5] 『岩波国語辞典』第三版　岩波書店　1980 年

[6] 『新明解国語辞典』三省堂　1983 年

[7] 「女」の語釈に対して、『岩波国語辞典』では「男」の語釈には、「強くしっかりしている、激しい等」と記述され、『新明解国語辞典』では、「男」の語釈には、「狭義では、弱い者をかばう、積極的な行動性を持った人を指す」」と記述されると指摘している。

[8] 具体的には、『朝日新聞』「ひと」欄、『毎日新聞』「ひと」欄、『読売新聞』「顔」欄のそれぞれ 1990 年の 7 月から 1991 年 6 月の 1 年分の記事と『朝日新聞』の広告欄の雑誌広告の 1991 年 6 月から 1992 年の 5 月の 1 年分である。

一化されると指摘している[9]。そして、「男女」「夫妻」「父母」「新郎新婦」といった両性を並べた複合語は「上下・優劣・主従・良否・善悪」といった複合語と同じく前項要素がプラス価値、後項要素がマイナス価値という「価値評価図式」を有するもので、そこには、男性の価値の優位性の意味が含まれると述べている。また、「順序」の常識に位置づけ、より広いコンテキストで捉える場合、このようなパターンの複合語の構成のあり方にジェンダーの力関係が含意され、「女と男の序列意識を強化している」（p.197）と主張している。冠として職業名などの前につけられ、その職業に従事している人が女性であることを表す「女性○○（女子○○、女○○、女流○○）」についても盛んに検討されてきた[10]（寿岳 1979、田中 1984、佐竹 2001、田中 2006,2009a、徐 2013a,2013b など）。寿岳（1979）は初めてこの現象に目を向け、「女○○」は女性にとっては不快な感情を抱かせる指し方であると指摘した上で、それと「女性○○」「女流○○」のニュアンスの異なりについて、以下のように述べている。

女でよくがんばっていますという賞讃の気持がある時は女性○○、あるいはもっと奉って、女流○○ということばを与え、でしゃばってせんでもいいことをするというひんしゅくの気持があるときは、女○○という。

（寿岳 1979：141）

つまり、「女性○○」「女流○○」は「女○○」より心地よいように見えるものの、それはただの形式の置き換えで、女性に対する偏見の表れであることに変わりがないと述べている。そして、「女○○であれ、女性○○であれ、要するに男ではない人間が、男のすることをしているという目を持たないようにしてゆく作業の方が、ことばを大切にする」（p.141）ということを主張している。

田中（1984）は、「女○○」「女性○○」「女流○○」という形式を「女性冠詞」と名付けた上で、これらは「女性を“男性＝人間”から区別するための徴づけ」（p.195）であると指

---

[9] 佐竹（2011）によると、「人は男である」は「少年・青年・若者」という人の意味でしか使われないはずの語が一般的に普通に男性を意味するということを指す。「男が人である」は「兄弟・父兄」のような男性を意味する語は時に女性も含んで使われることを指す。

[10] 具体的な語としては、「女性社員」「女子従業員」「女刑事」「女流ピアニスト」などが挙げられる。

摘している。

佐竹（2001）は、寿岳（1979）およびそれ以降の「女性冠詞」に関する研究を概観した上で、一般の言語生活における「女性冠詞」の扱われ方や使われる時の意識について検討したものであるが、冒頭でその結論を以下の 5 点にまとめている。

①「女○○」を「女性○○」などに言い換えることは根本的な解決にならない。
② 「女○○」「女性○○」にある偏見問題は、女性冠詞の研究として発展した。
③ この二〇年間に「女○○」は減って「女性○○」が増えた。
④ 実際に使われる「女性○○」の多くは、新しさ、珍しさを意味している。
⑤ 偏見の根本問題の解決はなく、ことばのすり替えが行われている。

（佐竹 2001：73）

田中他（2006,2009a,2009b,2011,2017）は、朝日新聞・毎日新聞・読売新聞の朝刊・夕刊（半月分）を対象とし、「新聞紙面に表われるジェンダー」を調査して、結果を報告したものである。本調査は 1985 年からほぼ 5 年おきに実施されている。田中他（2017）はその第 6 回の調査結果の報告で、下記の 3 つの軸から分析を行っている。

①「女性強調」…女性としての存在や役割をもっぱら強調し、女性であることを突出させて注目させる。
②「女性隠し」…女性の存在を紙面の背景に退かせ、女性の姿をみえなくさせる。
③「ダブルスタンダード表現」…女性を男性とは異なった規準を用いて表現する。

（田中他 2017：18-19）

その中で、「女性強調」は、1）女性を報道する際に、「女優」「女性職員」「女子学生」「女流作家」などのように、職業や肩書きの前に、「女」「女性」「女子」「女流」という「女性冠詞」をつけ、報道される人は女性であるということを強調する傾向、2）「主婦」「夫人」などのような他者との関係によって女性を表し、女性のジェンダーを強調する傾向、3）「清楚な美少女」「4 人の子どもを持つ母でもある」「主婦の視点でのアドバイス」などのような「女らしさ」「母親らしさ」「主婦役割」を表現することによって「女性」に関するステレオタイプを強調する傾向ということである。一方、「女性隠し」は

女性の存在を背後に隠れる傾向で、具体的には、男性を世帯・家族の代表者として表現すること、「○○さん（男性）の妻」のように、女性が男性（夫）に付随して、紹介、表現されること、「少年」「青年」「青少年」などのような男性標準を内包した語の使用することを指す。さらに、「ダブルスタンダード表現」は女性と男性を記事にされる際に、「女性」には「さん」、男性には「氏」を使い分ける傾向[11]、同一地位と業績を有する女性と男性が報道される際に、男性は「業績・公的役割」、女性は「美・ケアの役割」に記事にされ、女性と男性の両性に対して異なる基準が適用されることを指す。

その結果、「女性強調」「女性隠し」「ダブルスタンダード」という 3 つのタイプの女性に関わる「差別表現」は少しずつ減少してきているが、「男性を暗黙の標準とする表現がいまだ脈々と継続している」（p.114）と指摘している。そして、男性に関する表現の変化としては、以前はあまり注目されなかった服装、容姿の言及や「男性○○」「男○○」という男性を強調する表現も増えてきていて、「多様化」「女性化」という現象が新聞から読み取れると述べている。

徐（2012a,2012b,2013a,2013b,2013c）は、「女子○○」「女性○○」「女流○○」「婦人○○」「女○○」という形式を「女性標示語」と名付けた上で[12]、新聞記事および言語コーパスにおける「女性標示語」を言語的側面および社会的側面から分析、考察を行い、全体的には、「女性標示語」の使用が減少している傾向、「女性○○」に収斂する傾向、「男性標示語」の使用が増えている傾向が見られると指摘している。佐々木（2000,2003）は①「男盛り・女盛り」②「愛嬌・かわいい・初々しい」③「雄々しい・男気・女々しい（マイナス）」④「駆け込み寺・大黒柱・総領息子」⑤「縁遠い・出戻り・サラリーマン」⑥「家政婦・看護婦」⑦「奥さん・鬼婆・売れ残り」⑧「親父・親分・やくざ」⑨「大根足・グラマー」⑩「悪漢・英雄」⑪「狐・一匹狼」⑫「あぐら・くすくす」⑬「オヤジギャル・キャリアウーマン」⑭「青二才・悪童」⑮「青臭い・高嶺の花」などのジェンダーに関わる語彙を取り上げ、意味によってそれらを①「男性と女性では意味が異なる表現」②「女性や子供に期待されている性格」③「男性に期待されている性格」④「男性上位社会のしくみの中で生まれた表現、家制度の名残」⑤「性別役割分業を前提に生まれた語」⑥

---

[11] 田中他（2017）によると、「さん」は「氏」より、日常的で親近感があるが、権威ということにおいては、「氏」は権威的な印象を与え、「さん」は「氏」より下にあるという印象を与えがちである。

[12] なお、徐（2012a,2012b,2013a,2013b,2013c）は「女子～」「女性～」「女流～」「婦人～」「女～」と表記している。

「性別役割分担から生まれた女性の職業」⑦「呼称・その他（女性）」⑧「呼称・その他（男性）」⑨「男性が女性の体の特徴をプラス・マイナス評価している表現」⑩「男性を表す付随語・形容詞」⑪「ある動物が女性・男性にたとえられる表現」⑫「文化的な差異から生まれた語」⑬「男・女の地位・役割の変化に伴って生まれた表現」⑭「社会の価値観の変容によって死語化していく表現」⑮「その他」という 15 に分類した上で、使用例および社会背景などを示している。そして、佐々木（2006：1-2）は、佐々木（2000,2003）に収録された女性に関わる表現は「男性の視点から作り出されたものであり、男性優位の中で「男性の願う女性・願わない女性」という一方的な視点によって女たちが表現されてきている」と指摘する一方、「濡れ落ち葉」「アッシー君」といった男性に関わる表現は「女性が男性をモノや商品と同列に評価する」ということも反映していると述べている。佐々木（2018）は、視点を 21 世紀に置き、ジェンダーに関わる語彙・表現を分析したものであるが、佐々木（2018）では、ジェンダーは「文化的な差異であり、「男らしさ」「女らしさ」という社会的分類を指すもの」（p.3）であることを確認した上で、「ワーキングママ」「オヤジギャル」「キャリアウーマン」「ニューハーフ」などのジェンダーに関わる新しい表現を取り上げて、分類を行っている。例えば、「ワーキングママ」は「性別役割分業を前提に生まれた語」で、「オヤジギャル」「キャリアウーマン」「ニューハーフ」は「男・女の地位・役割の変化に伴って生まれた表現」であるなどの分類の試案を提示している。そして、女性だけではなく、男性も「ジェンダー表現による差別」を受けていて、「じじむさい」「粗野」「なよなよ」「女々しい」「濡れ落ち葉」「粗大ゴミ」などが例として挙げられ、その中で、男性は「男らしさ」というジェンダー規範から逸脱する場合、「なよなよ」「女々しい」ということばで制裁されることがあると述べている。

2.3　「女子」に関する研究

本節では、「女子」に関する先行研究を見る。「女子」はジェンダーを表すことばの 1 つである。『広辞苑』（第七版）によると、「女子」は 1）女の子、娘、2）女、女性、婦人という 2 つの意味がある。また、「女子教育」「女子学校」などのように、「女子」は教育に関する語と結合して、使われることが多い。歴史的に見た「女子」ということばの多用の契機および女子教育の用語としての定着について、広井（1999）は以下のように述べている。

一婦一夫制や男女同権、女子教育の振興を主張した明治初期の啓蒙思想家の言論では、女よりも女子や婦人が好まれたものと考えられる。

漢語の持つ堅さや格調の高さ、学術的なイメージのためか、明治初期の言論の場では、女に代わり女子が代表的な女性呼称として使われるようになる。

1880 年代後半に女子は「にょし」から「ぢょし」へと変化するとともに、女子教育の用語として定着し、女というよりも女の子のイメージが濃厚になっていくのだろう。

（広井 1999：123）

広井（1999）の指摘から、明治初期に女子教育の振興などを主張した啓蒙思想家の言論が「女子」ということばの多用および女子教育の用語として定着した契機になったということが分かる。遠藤（1983）も明治初期に注目して、当時の辞書[13]と『女学雑誌』を資料に、「女」「女子」「女性」「婦人」「女流」の実態を調査し、報告した。読み方については、「女子」は「にょし」から「じょし」に移行したこと、意味の面では、「女子」は「女の子」の意味と、一般の「女」の意味があり、年齢的に見れば、「女子」は幼女期から成人までの女性を表すと指摘している。使い方の面では、「女子」は複合語をつくる場合、「女子教育」「女子手芸学校」「女子高等教育」のように、教育に関する語と結合することが多いと述べている。そして、その原因については、「女子」は「女」「女性」「婦人」と区別して、「女の子供」の語義を持っているためであると指摘している。遠藤（1982）は国語辞典や新聞を資料に、「女」「女性」「女子」「婦人」と「男」「男性」「男子」「紳士」の女性、男性に関する類義語を調査し[14]、その中で、「女子」は「「女子の工員」「女子職員」のように修飾語として使われている」が、「…の女子」のような独立の役割として使われている例はない」（p.11）と述べている。つまり、「女子」は単独で使われることは少ないと指摘している。Nakamura（1990）は「女」を中心に、「女子」「女性」「婦人」という女性の一般呼称を分析したが、「女子」について以下のように記述している。

---

[13] 対象とした辞書は『言海』（大槻文彦 1891 年）、『日本大辞林』（物集高見 1894 年）などである。詳しくは遠藤（1983）を参照されたい。

[14] 対象とした辞書は『新選国語辞典』（小学館、1981）、『岩波国語辞典』（岩波書店、1980）、『学研国語辞典』（学研、1981）、『新明解国語辞典』（三省堂、1981）、『学研国語大辞典』（学研、1981）の 5 辞典で、対象とした新聞は 1982 年の『朝日新聞』と『毎日新聞』のそれぞれ 1 ヶ月のすべての面である。

The emphasis in *zyosi* on `childishness` implies negative meanings of clumsiness, immaturity, irresponsibility, or incapability. The use of *zyosi* to an adult woman means that the speaker regards the woman as immature. Thus, only superiors or associates would use *zyosi* to an adult woman. Therefore, *zyosi* co-occurs only with socially lower vocational terms such as __ *-syain* (employee), __ *-zyuugyooin* (clerk), __ *-paato* (part-time worker), __ *-roodoosya* (worker).
(「女子」ということばの「childishness」についての強調は、そのことばに「不器用」「未熟」「無責任」「無能」というネガティブな意味を含むことを意味する。成人の女性に対して「女子」を使うのはその女性が「未熟」とされているので、上司と同僚だけが成人の女性に対して、「女子」を使う。そのため、「女子」は「社員」「従業員」「パート」「労働者」といった社会的地位が低いことばとしか共起して使われない。)

(Nakamura 1990：156 日本語訳筆者)

徐（2013a）は新聞記事に現れる「女子○○」の使用実態、接続制約およびその要因について、分析した[15]。「女子」は「教育関連」「スポーツ関連」「職業関連」の語彙と共起して現れ、出現頻度では、「教育関連」＞「スポーツ関連」＞「職業関連」の順になっている。そして、「女子○○」の使用から、現代になっても男性は無標、女性は有標という傾向と、「人＝男」というイデオロギーが観察されるが、「女子○○、男子○○」のように両者を並べる平衡表現の使用例も少なくないと指摘している[16]。「女子」はこのような使用実態を呈しているのは、「女子の語義」という言語学的要因と「フェミニズム運動の影響」「メディア側のガイドラインの公布」「新聞の送り手側と受け手側に起きた変化」という社会的要因が関わっていると述べている。林（2009）は女性の一般呼称を表す日中同形語である「女子」「女性」「婦女」「婦人」を取り上げ、それによる複合語、用法・意味の分析を行っている。そのうち、日本語の「女子」と中国語の“女子”は複合語の形成、意味・用法においては、いくつかの相違点があると指摘している。複合語においては、日本語の「女子」と中国語の“女子”はともに「教育関係」の語の前につけられ、複合語を形成するが[17]、日本語の「女子」が「教育全般」や「教育団体の一部」を表す語

[15]『朝日新聞』の 2006 年から 2010 年までの 5 年間の各年 2 ヶ月分（4 月と 10 月）を対象とした。

[16] 徐（2013a）によれば、「平衡表現」は「女優」「男優」、「女子選手」「男子選手」、「女性作家」「男性作家」などのような均衡的な表現を指す。

[17] その例として、林（2009）は「女子教育」「女子中学」と“女子教育”“女子中学”を挙げている。

彙と共起していることに対して、中国語の“女子”は「教育全般に使っているが、教育団体の一員を指すことはない」（p.86）。そして、中国語の“女子”は職員という会社の一員を表す語彙と共起せず、“女子职员（女子職員）”ということばはないと述べている[18]。意味用法においては、「女子」と“女子”は比較的年齢層の若い女性を指すことは共通しているが、中国語の“女子”は年齢層の高い女性も指すことは日本語の「女子」と異なっているところである。「“女子”は「女子」より年齢的に幅広く使われる」（p.89）と示している[19]。

このように、「女子」に関する先行研究は主に「女子」の意味、「女子」の使用、用法を検討してきた。意味においては、「女子」は「女の子」と「女」の意味があり、幼女期から成人までの女性を表している（遠藤 1983）。日中同形語としての「女子」“女子”の比較により、日本語の「女子」は年齢層の若い女性を指すのに対して、中国語の“女子”は年齢層の高い女性まで指すことは異をなしている（林 2009）。使用、用法の面では、「女子」は単独で使われることは少なく（遠藤 1982）、教育に関する語と結合して使われることが多い（遠藤 1983、林 2009、徐 2013a）。また、「女子」は職業、スポーツに関する語の前につけられ、その人の性別を標示して使われることも多い（徐 2013a）。「女子」ということばにおいては、「不器用」「未熟」「不能」というネガティブな意味を含意するため、上司や同僚だけが成人の女性に「女子」を使い、「女子」は社会的な地位の低いことばとのみ共起して用いられる（Nakamura1990）。また、現代になっても、「女子○○」の使用には、男性は無標、女性は有標という傾向および「人＝男」というイデオロギーが現れている（徐 2013a）。なお、「女子」による複合表現は以下の表 2-1 に示したものが挙げられる。

---

[18] 林（2009）は「女子医学生」「女子留学生」「女子職員」と“女子医学生”“女子留学生”“女子职员”を例として挙げている。

[19] 林（2009）は“年華已逝的風塵女子”（年月のすでに死去した商売女）を例として挙げている。

表 2-1　「女子」による複合表現①

共起語の特徴	主たる先行研究	語例
教育関連	遠藤（1983）	女子教育、女子手芸学校、女子高等教育、女子職業学校、女子修技学校
	徐（2013a）	女子生徒、女子高生、女子高校生、女子学生、女子中学生、女子大生、女子留学生
職業関連	徐（2013a）	女子職員、女子店員、女子社員、女子アナ、女子刑事、女子従業員、女子工員、女子読者
スポーツ関連	徐（2013a）	女子選手、女子ゴルファー、女子ボクサー、女子コーチ、女子レスラー、女子主将

遠藤（1983）、徐（2013a）をもとに筆者作成

意味、教育・職業・スポーツに関連する語との結合から、「女子」ということばは盛んに検討されてきたが、このような「女子」とはまた異なる使い方が現れるようになった。

2000 年代の半ばになると、「肉食女子」「理系女子」「カメラ女子」という「○○女子」の形の語および「女子力」「女子会」も様々なメディアでよく見られるようになった（田中他 2017）。『現代用語の基礎知識』（2014 年度版）より、「女子」という分野が新しく設定されるようになり、「女子」は「世相語」「日本語事情」「時代観察」とともに、「時代・流行」という上位分野の下に並べられている[20]。そこには、「オヤジギャル」「森ガール」「肉食女子」「歴女」「ガールズトーク/女子会」といった「女子」に関わる様々な新語・流行語が挙げられている。2014 年度版から『現代用語の基礎知識』の「女子」の分野に挙げられている「女子」による複合表現は以下の表 2-2 にまとめることができる。

[20] 2017 年度版は「女子」ではなく、「女子/女」である。そして、2018 年度、2019 年度版は「ジェンダー」である。

表 2-2　「女子」による複合表現②

年	複合表現
2014	こじらせ女子、女子会、女子力、肉食女子、腐女子、ぽっちゃり女子、理系女子
2015	こじらせ女子、女子会、女子力、肉食女子、腐女子、マウンティング女子、理系女子
2016	女子会、女子力、肉食女子、腐女子、マウンティング女子、理系女子
2017	女子会、女子力、肉食女子、腐女子、マウンティング女子、理系女子
2018	女子力、肉食女子、モグラ女子
2019	女子力、肉食女子

『現代用語の基礎知識』（2014 年度版～2019 年度版）をもとに筆者作成

このような新語・流行語として使われている「女子」は「女子生徒」「女子選手」の「女子」とは異なる意味を持っている。馬場（2012）は前者の「女子」について、以下のように述べている。

「○○女子（ガール）」という言葉は、グループを括る基本属性となるだけでなく、それぞれの嗜好対象を媒介にして「仲間意識」を涵養し、他者との関係性を構築する鍵概念となっているのである。しかもその括りは内発的な「自称」であるために内側に閉じることはなく、社会的身分や年齢を超えてネットワーク状に結び付いていくのだ。

（馬場 2012：12）

つまり、「○○女子」における「女子」は自称的で、身分や年齢不問であるとともに、他者との仲間意識が内包されることばでもある。

河原（2012）は「女子」と「婦人」「女性」とを対照しながら、「女子」の意味変容を分析した上で、「女子」の新しい用法は「日本社会がこの言葉に長年与えてきた意味を自分なりに読み替え」（p.27）たものであると述べている。そして、「女子会」が意味するように、「女子」の新しい用法には、女性同士の絆を意識させる側面があると指摘し

ている。また、新しい意味が付与された「女子」はブームになり[21]、ファッション誌の「女子」はこの「女子」ブームの火付け役であり、牽引役である（米澤 2014：2）。米澤（2014）は、ファッション誌を資料に、「女子」の誕生、広がりおよびそこに見られる女性の生き方、価値観などについて論じている。まず、「女の子」や「女子」と呼ばれない年齢の女性に対して、「女の子」と呼びはじめたのは、1999 年に「28 歳、一生“女の子”宣言！」をコンセプトとして、宝島社によって創刊された雑誌の『Sweet』である。この雑誌は「女子」「大人かわいい」ファッションを牽引して、年齢や立場を超え、従来の「常識」を打ち破るファッションを女性に提示して、「女子」を誕生させたと指摘している。そして、ファッション誌でアピールされている「女子」は「常識・年齢・立場」にとらわれず、伝統的な意味での「女子」の年齢を過ぎて、大人になっても、可愛いスタイルで生きられる、良妻賢母の規範を捨てようと提案している。また、ファッション誌の「女子」は人のために服を選び着ることではなく、自分の好きな服を選び、着るという価値観も見られると指摘している。

上記の「女子」に関する先行研究の概観から、「女子」は 2 つの枠組みで検討されてきた。1 つは「女性」「女」「婦人」と並んで、女性の一般呼称としての「女子」である。それは「生徒」「職員」「選手」といった教育および職業、スポーツに関わる語の前につけられ、性別を表現している用法がよく見られる。本研究では、この枠組みで検討されてきた「女子」を「一般呼称としての「女子」」と呼ぶ。もう 1 つは新しい意味が付与され、新語・流行語としての「女子」である。本研究では、この枠組みで検討されてきた「女子」を「新語としての「女子」」と呼ぶ。なお、この 2 つの枠組みで検討されてきた「女子」のそれぞれの特徴を以下の図 2-1 にまとめることができる。

[21] 米澤（2014）の指摘によると、女子ブームは、21 世紀の初頭に漫画家である安野モヨコの「女子」「女子力」の多用によってはじまって、ファッション誌を中心に広がりを見せたブームである。

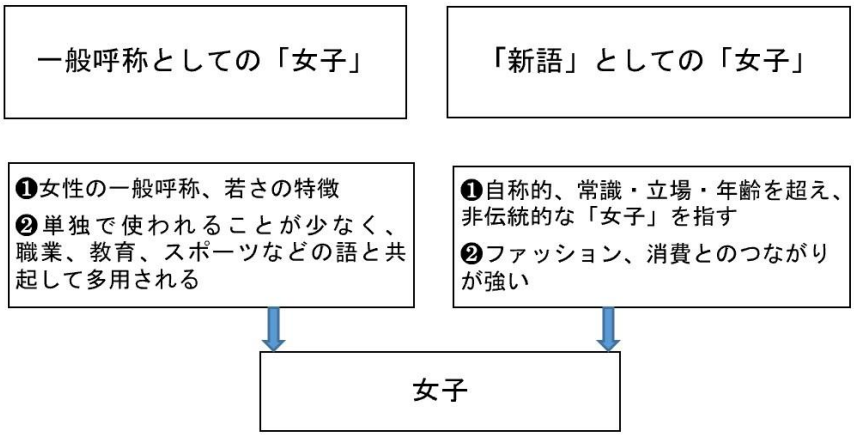

図 2-1　「女子」の 2 つの側面

本研究の研究対象である「女子力」は「新語としての「女子」」に位置づけられる。それは、新しい意味が付与された「女子」による複合表現の一語で、そこにも「常識・年齢・立場」にとらわれず、良妻賢母という規範を捨てようという誕生の社会的背景がある。では、新語・流行語としての「女子力」はどのように検討されてきたのか。それについては次節で述べる。

2.4　「女子力」に関する研究

「女子力」に関する先行研究としては、中島（2010）、河原（2012）、米澤（2014）、近藤（2014）、大上他（2016）、菊地（2016,2019）が挙げられる。なお、中島（2010）は言語学の語構成論に関する研究で、河原（2012）、米澤（2014）、近藤（2014）、大上他（2016）、菊地（2016,2019）は社会学分野の研究である。

中島（2010）は漢語接尾辞の「度・系・力」に焦点を当て、新造語における「度・系・力」の用法を考察している。そのうち、「力」による新造語の用法は以下の 3 つに分けられると指摘している。

① 語基が表す行為や属性を能力として表すもの、そして、ある行為と隣接関係にあるものを語基で示し、その行為ができるという能力を表すものである。（例：読書力、清潔力）

② 能力の担い手を表す語を指示することによって、そのような担い手がもつべき能力、もつことを期待される能力、あるいは第三者が活かすべき能力を表し、合成語の意味に当然さや義務といったモダリティを付与するものである。（例：女子力、患者力）

③ 語基の表す否定的な意味合いを注目すべき能力として再定義するものである。（例：鈍感力、老人力）

（中島 2010：171-173 下線筆者）

このように、中島（2010）は「女子力」「患者力」というパターンの語には「当然さや義務」といったモダリティの用法が内包されると主張している。中島（2010）の新造語に見られる特徴についての指摘は非常に示唆に富んでいるが、新造語と新造語ではない語がどのように関わっているか、そして、「女子力」「患者力」というパターンに属する各語に表れる「担い手」はそれぞれどのような能力を持つべきか、期待されるのかということは課題として残っていると思われる。

河原（2012）は「女子力」が爆発的な影響力を持って広がったのは、「女子力」が消費と直結していることが背景にあったと指摘している。そして、雑誌における「女子力」の使用例を挙げながら、「女子力」は男性に向けての「力」だけではなく、女性の消費、生活文化、関心事、職場で発揮する能力を包括的にまとめられることばで、「対男性だけでなく、広く対社会的な女性の総合能力を表す言葉として用いられるようにもなった」（p.23）と指摘している。また、雑誌における「ツヤッと輝く四十代女子力」といったキャッチフレーズを挙げながら、「女子力」は「閉塞感が漂う社会の現状を打破する一端を担うまでになった」（p.24）とも言えると述べている。

米澤（2014）は「女子」はファッション誌を抜きに語れないと指摘した上で、日本のファッション誌を対象に、「女子」の誕生、「大人女子」といった「女子」ブームを分析した。そして、ファッション誌における「女子力」について以下のように述べている。

ファッション誌の「女子力」とは装いの持つ力なのだ。装いの力としての「女子力」は、基本的に男性に向けられているものではない。むしろ、「女子」として生きていくための原動力となっているものである。装いの力によって、「女」は「女子」となる。

妻や母といった社会的役割、良妻賢母規範を軽やかに脱ぎ捨てるファッション誌の「女子力」はもっと評価されるべきであろう。

（米澤 2014：191）

近藤（2014）は 256 件の雑誌記事を分析対象に、雑誌記事における「女子力」が指向する目的およびその目的によって異なる「女子力」の意味内容を質的に分析したものである。「女子力」が指向する目的は「異性（男性）指向」「自分指向」「同性（女性）指向」「仕事指向」という 4 つのカテゴリーに分けられると指摘している。そのそれぞれの意味内容は以下の通りである。

表 2-3　「女子力」の指向する目的およびその意味内容

目的	意味内容
異性（男性）指向	「美しさ」「家事スキル」「気が利くこと」により、モテ・恋愛・結婚が上手くいくこと
自分指向	美しくなることで充足感を感じること
同性（女性）指向	美しくなって女性を引き付ける力のこと
仕事指向	１）女性の社会進出、男並みに働くこと、2）仕事の能力に結び付く「女子」的特性、3）仕事と家事・育児の両立

近藤（2014）をもとに筆者作成

近藤（2014）は、このような目的を指向する「女子力」が女性の社会での活躍に結び付くという側面からは「女子力は、フェミニズムにとって一つの希望である」(p.33) が、「男性指向」の「価値観」、「美しさ」への「執着」、「家事・育児負担」の「押し付け」といった点においては、「女子力」には依然として問題点があると指摘する。

菊地（2016,2019）はアンケート調査を通し、「女子力」の使用実態を記述した上で、ポストフェミニズムの観点から「女子力」を考察し、「女子力」は「ジェンダー規範と能力主義の結合」で、「ポストフェミニズムの日本における存在を表現している」（菊地 2019：124）ことばだと述べている。なお、菊地（2019：98）はポストフェミニズムを「フェミニズムを終わったものとして認識させ、フェミニズム的な価値観を周縁化し、それによってジェンダーとセクシュアリティの秩序を再編する社会状況」と定義する。

大上他（2016）は、「女子力」および「男らしさ・女らしさ」に関する先行研究を整理して検討した結果、「女子力」には「比較的短期間に努力し，ノウハウに基づいて行動すれば獲得・維持できるもの」（p.184）と捉えられている側面があり、その点が「女らしさ」とは異なるとする。

このように、先行研究では、「女子力」に対する捉え方、評価の仕方は異なっている。河原（2012）は「女子力」に対して、おおよそ肯定的に捉えている。その知見から、「女子力」は男性に向けてのものだけではなく、社会的な総合能力を表すことばで、閉塞感が漂う社会の現状を打破する役割も果たしている。米澤（2014）は「女子力」は男性に向けてのものではなく、社会的な役割・良妻賢母の規範を脱ぎ捨てるもので、もっと評価されるべきだと指摘している。このことから「女子力」に対してポジティブな評価をしていることがうかがえる。一方、近藤（2014）の指摘から、「女子力」はポジティブな側面もあるが、「男性指向」の「価値観」、「美しさ」への「執着」、「家事・育児負担」の「押し付け」といったネガティブな側面もある。菊地（2016,2019）は米澤（2014）の主張と異なり、「女子力」は「ジェンダー規範と能力主義の結合」だと指摘している。大上他（2016）は「女子力」を「女らしさ」と結び付け、それらの異なりを指摘している。

2.5　本研究の位置づけ

本節では、先行研究と本研究の関連および本研究の位置づけを述べる。

まず、先行研究で概観したように、これまでのジェンダー表現研究においては、冠として職業・身分を表すことばの前につけられる「女子○○」という語彙グループについて検討されてきた。そして、「女子」は「女性」「女」「婦人」の類義語、「男子」の対義語としてその意味・用法が論じられてきた。この枠組みの中に検討されている「女子」は「女性」「女」「婦人」と並ぶ、女性の一般呼称である。本研究はこれを「一般呼称としての「女子」」と呼ぶ。一方、言語はダイナミックに変化し、「女子」には新しい意味が付与され、使われるようになった。「女子」に関する検討もファッションにおける「女子」の使われ方、「女子」に関わる新造語に広がってきた。本研究は、この枠組みで検討されている「女子」を「新語としての「女子」」と呼ぶ。「女子力」は「新語としての「女子」」に位置づけられ、「新語としての「女子」」と接尾辞「力」によって形成された派生語である。

また、「新語としての「女子」」およびそこに位置づけられる「女子力」についての研究は社会学のアプローチからなされるものが多いが、本研究は言語学のアプローチから「女子力」を研究する。それは言語学のアプローチはよりミクロのレベルから「女子力」の特徴を把握することができるからである。「女子力」という新しい表現を研究するのは、現代日本社会におけるジェンダーに関わる表現の一端を解明することができる。

2.6　本研究の理論的枠組み

本研究が依拠する理論的枠組みは語彙論、ジェンダー論、語用・メタ語用論、アプレイザル理論（Appraisal theory）である。

語構成から見れば、本研究の研究対象である「女子力」は接尾辞「力」と「女子」の結合によって形成された派生語である。本研究の分析はまず語彙論に依拠する。

語彙は語のグループで、その語のグループの1つ1つの語は語彙素と呼ぶ（斎藤2016）。語彙論は「語彙とその元である語彙素とを考察の対象とし、両者の有するさまざまな特質を明らかにしようとする研究分野」（斎藤 2016：8）である。語彙論の研究においては、「通時的研究」と「共時的研究」があり、「通時的研究」は語彙を歴史的に研究する分野である。一方、「共時的研究」は語彙の量的特徴を明らかにする「計量語彙論」と質的特徴を明らかにすることを目的とする「語彙体系論・分類論」に分けられる（斎藤2016）。本研究は接尾辞「力」による派生語という語彙グループに属する「女子力」の特質を明らかにするが、語のまとまりの中でこそその語の実質が正確に確定することができる（斎藤2016）。そのため、本研究は「女子力」を中心に論を進めていくが、「女子力」が属するグループに注目して、そのグループから「女子力」の特徴を把握することも視野に入れて、分析を行う。また、上述したように、語彙論の「共時的研究」は語彙の量的な特徴を明らかにする計量語彙論と語彙の質的特徴を明らかにする語彙体系論・分類論に分けられる。本研究は主に分類の視点から「力」による派生語およびその中の「女子力」の質的特徴を炙り出す。

ジェンダーは元来インド＝ヨーロッパ語族やセム語族で、名詞やその他の語においての男性と女性または男性、女性、中性の区別のことを指すことばであった（高橋2014:11）が、1960年代以降の「第2波」のフェミニズムによって、生物的な性と区別して、社会的・文化的・歴史的に形成された性に関わる概念として導入された（高橋 2014、中村2002など）。ジェンダーには「本質主義」と「構築主義」という2つのアプローチが挙

げられる。中村（2002：25-27）は「本質主義」に立つ言語とジェンダーの捉え方は 1）ジェンダーは二項対立で、女性と男性は異なった言葉遣いをする、2）ジェンダーは属性で、話し手のジェンダーは言語行動に与える影響は一様である、3）ジェンダーは言語以前の存在で、話し手は「女だから」特定の言語行動を行うという 3 つの特徴が挙げられるとする。一方、「構築主義」に立つ言語とジェンダーの捉え方として、1）ジェンダーは多様である、2）ジェンダーは変化する、3）ジェンダーは主体に内在している本質ではなく主体が行う行為である、4)「ことばを使う行為」によって能動的に多様なジェンダー・アイデンティティを作り上げているのであるという特徴を挙げる。

本研究は先行研究を踏まえ、ジェンダーを社会的・文化的・歴史的に形成された概念と捉えている。そして、中村（2002）の主張する「構築主義」に立つ言語とジェンダーの関係の捉え方を前提とし、分析を進める。特に「女子力」と「女性らしさ」の関係を論じた部分（第 3 章、第 4 章）では、この理論に負うところが大きい。

語用論は、「言語学の諸部門のなかで，発話の効力が発生するメカニズムを探求する部門である」（山岡他 2010：11)。「女子力」に関わる発話について、使う相手、相手との関係、発話の効力、「女子力が高いね」に対する返答といった「女子力」の使用の様相を究明するには、語用論の知見に依拠して、分析を行う。同時に、メタ語用論の知見にも依拠する。メタ語用は「なされていること（語用）が「言い訳」なのか,「謝罪」なのか等を解釈したり，社会・文化・言語的に適切にコミュニケーションに従事することを可能にしたり」（吉田 2011：61）する概念である。メタ語用的発話の特徴の一つは引用（小山 2016）で[22]、その引用は他人または自分自身のかつての言語使用をもとのコンテクストから切り離して、「再現（レプリカ）/具現化」する言語使用である（坪井 2016、小山 2009、Silverstein1993)。メタ語用は実際の言語使用とずれるところがあるが、言語使用について解釈したり、考えたりするものは「二次的なデータ」ではなく、言語使用と同じ重要なデータである（宮崎 2016、Hanks1993)。

本研究の「女子力」にまつわる使用のデータには以下の例が示すように、引用を用い、当時の状況を描きながら提示されているものが多いので、第 5 章の分析では、このようなメタ語用的データにおける引用および当時の状況の描写・解釈にも注目して分析、考察を行う。

---

[22] 直接引用と間接引用の両方を指す。

例:（1）飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。

（2）母に女子力を磨きなさいと軽く言われた。面倒くさいな、と感じた。

（3）あんたも真似しろ！と冗談交じりに言う。

「女子力」に対する評価の様相、「女子力」の捉え方の特徴を明らかにするため、本研究の第 6 章では、アプレイザル理論（Appraisal theory）を用いて、分析を行う。アプレイザル理論（Appraisal theory）は選択体系機能言語理論（SFL）から発展し、Martin & White（2005）らを中心に提案された理論である（佐野 2010）。アプレイザルという語について、Martin（2000）は以下のように述べている。

The term appraisal will be used here for the semantic resources used to negotiate emotions, judgements, and valuations, alongside resources for amplifying and engaging with these evaluations.

（Martin 2000：145）

アプレイザルという語は,ここでは，感情，判断，価値について交渉するための意味的選択肢のことを指す.また，これらの評価の程度を拡張・縮小する選択肢，及び，これらの評価との距離や関わり方を示す選択肢もこれに含まれる。

（日本語訳は佐野 2010 による）

この理論を応用した日本語の先行研究は、今西（2006）、佐野（2010,2012a,2012b）、神田（2013）、金（2014）、関（2014）などが挙げられる。その中で、今西（2006）は、アプレイザル理論を用い、スポーツ記事に表れる主観性を分析した。その結果としては、同じトピックを扱っても、新聞社によりそこに織り込まれた主観性が異なること、客観的な記事もあるが、書き手の主観的な評価を巧みに加え、読み手に劇的な印象を与える記事もあることが明らかになった。

佐野（2010）はアプレイザル理論を用いて、『日本語書き言葉均衡コーパス』に収録されている「Yahoo!ブログ」をデータとして利用して、ブログにおける評価表現の使い分けの特徴を分析した。金（2014）はアプレイザル理論を応用して、評価的意味を表す

日本語複合動詞の用法と文脈を分析した。具体的には、例として挙げられている「飾り立てる」の意味は「評価性という側面において文脈と密接に関わっていることが明らかになった」（p.60）。そして、「笑い返す」「吹っ切れる」「包み隠す」「変わり果てる」といった評価的な意味を表す複合動詞はアプレイザル理論を基に分類でき、その結果を日本語教育に活用できる可能性があると指摘している。神田（2013）はアプレイザル理論を用いて、ブログのデータを扱い、「草食男子」ということばから見られる過渡期にある男性性を分析した。「草食男子」には伝統的な「男性性」から分化した新しい男性性が見られると指摘している。また、英語では、言語習得、談話分析、アカデミックライティングなどの分野で、アプレイザル理論を応用した研究も挙げられる（Painter2003、Harvey2004、Derewianka2007 など）。

一方、日本語の例を用いながらアプレイザル理論の枠組みを詳細に解釈した研究としては佐野（2010,2012a,2012b）が挙げられるため、以下では、主に佐野（2010,2012a,2012b）を参考して、アプレイザル理論について説明する。

アプレイザル理論では、評価を engagement（形勢・やり取り）、attitude（態度評価）、graduation（程度評価）の 3 つに分けている[23]。それぞれの定義を以下の表 2-4 に示す。

表 2-4　アプレイザル理論における評価の分類およびその定義

分類	定義
engagement（形勢・やり取り）:	評価者の立場と読み手・テクストのディスコースに含まれる第三者の立場との距離を示すことで表される評価である。
attitude（態度評価）:	評価極性を示すことで表される評価であり、ここには感情表現を示すことで表される評価も含まれる。
graduation（程度評価）:	漸次的な表現（「とても」・「すごく」など）を用いることで示される評価である。

佐野（2010）をもとに筆者作成

表 2-4 から、アプレイザル理論における評価は、主に、評価者の立場と読み手、第三

[23] 括弧内の日本語訳は佐野（2010）を引用した。

者の立場との距離を示すもの、評価極性（肯定か否定か）、感情を示すもの、「とても」「すごく」といった程度を示すもので表されることが分かる。本研究は「女子力」に対する態度を示す記述における語彙・表現に着目するため、表 2-4 で示されている attitude（態度評価）の枠組みに基づき、分析を行う。なお、attitude（態度評価）はさらに評価極性、評価基準、表現の直接性/間接性という 3 つの観点から捉えられる。その内容は第 6 章で詳述する。アプレイザル理論を用いることで、「女子力」はどのように評価されるのか、そこにどのような表現があるのか、その評価表現はどのように分布するのかを明らかにすることができる。同時に、「女子力」ということばの意味と使用およびそこに内包される内容についての捉え方を明らかにすることができる。

2.7　研究方法

2.7.1　本研究で扱うデータ

本研究は、「女子力」についての記述式のアンケート調査から収集した文字データおよび『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）のデータを分析対象とする。

本研究のアンケート調査は主に記述式の形で行った。この方法を採用したのは、事前に設定された選択肢が調査協力者の回答に影響を与えることを避けるためである。同時に、「女子力」に関わる定義・解釈、評価における言語的標識・語彙・表現に焦点を当てた分析を行うためでもある。さらに、本研究は「女子力」は具体的にどのような表現で使われるのかということに着目するとともに、その使用を巡る話し手・聞き手のメタ語用的解釈にも注目して、分析を行うため、記述式の形でデータを収集した。

研究目的・課題に合わせ、本研究のアンケート調査[24]は以下の 9 つの調査項目を設けた。

問 1:「女子力」ということばを知っていますか。知っているなら、どのようにして知ったのかを教えてください。（選択肢あり）

問 2 : 問 1 で「知っている」と答えた方におたずねします。あなたが考える「女子力」とは何ですか。「知らない」と答えた方におたずねします。「女子力」とは何だと

[24] 詳細は本論文末の「付録I－調査票」を参照されたい。

思いますか。

問 3 :「女子力」から連想する形容詞を挙げてください。

問 4 :「女子力」に対してどのようなイメージを持っていますか。（選択肢あり）
その理由：

問 5 :「女子力」を表す形容詞を挙げてください。

問 6 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。

問 7 :「女子力」及びそれを含むことばを誰かに使われたことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方でその時の自分の反応を具体的に教えてください。

問 8 :「女子力が高いね」と言われたら、それに対しての返事はしますか。するなら、どのような発話をしますか。しないなら、その理由を教えてください。

問 9 :「女子力」に関して考え方や意見があれば、自由にご記入ください。

アンケート調査の対象は首都圏のある大学の 10 代～20 代の大学生・大学院生（合計：64 名，女性：33 名，男性：31 名）である。10 代～20 代に絞った理由は 2 点による。1 つは、「女子力」は新語・流行語として誕生、定着して、若い世代の間でよく使われるためである。もう 1 つは、ジェンダーに関わる表現に対して、若い世代はどのように解釈・定義し、評価するのかを見たいためである。

アンケートの調査期間は 2019 年の 8 月から 9 月上旬にかけてである。なお、調査は Google フォームを利用して、実施した。

アンケート調査の他に、本研究は国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

のデータも用いた。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』は、「現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって 1 億 430 万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している」（国立国語研究所）ものである。そして、検索には Web 検索アプリケーション『中納言』を用いた[25]。本研究では、「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけおよび「女性」と形容詞のコロケーションを把握するにあたって、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を利用する。

2.7.2　分析方法

本研究は、全体的には表現の面および使用の面から、「女子力」を分析する。分析方法は下記の通りにまとめられる。

表現の面の分析では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、「力」による派生語の分類から、「女子力」の位置づけを行う。その上で、アンケート調査のデータを扱い、「女子力」を巡る定義・解釈における言語的標識に焦点を当て、「女子力」の意味分析を行う（第 3 章）。第 4 章では、まず、アンケート調査から収集したデータを扱い、「女子力」からの連想語と「女子力」を表す語から、「女子力」に関わる三領域、「女性らしさ」との関連を明らかにする。その上で、「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞を取り上げて、それらと中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションとの比較から、「女子力」の特徴を記述する。なお、「女性」と形容詞のコロケーションは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータを用い、KH Coder で抽出する[26]。また、コロケーションの定義は立場により異なっており、堀（2009 : 7）はコロケーションを「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する習慣的な共起関係を言う」と定義する。山田（2007 : 48）はコロケーションを名詞と動詞（バラが咲く）、形容（動）詞と名詞（きれいなバラ）、副詞と動詞（ひっそり咲く）といった異なる品詞

---

[25] 『中納言』はコーパスを検索することができる Web アプリケーションで、「短単位検索」「長単位検索」「文字列検索」の 3 種類の検索方法によって、コーパスに付与された形態論情報を組み合わせた検索を行うことができる。

[26] KH Coder は、樋口耕一によって開発されたテキスト型データを統計的に分析するための無料ソフトである。詳しくは樋口（2014）を参照されたい。

に属する語が結び付いた表現と捉えている。本研究のコロケーションは山田（2007）が指摘している形容（動）と名詞、具体的には形容（動）詞と「女性」が結び付いた表現を指している。田野村（2009：22）は「コロケーションの研究は何かへの利用、応用が達成されて初めて価値をもつもの」であると述べるが、現在、コロケーション情報は言語教育研究、語彙研究、文法研究、辞書作成などにおいて盛んに利用されている。本研究ではジェンダーに関わる表現の特徴を明らかにするためにコロケーションの視点を用い、分析を行う。それは言語と社会に関わる領域の研究にもコロケーションに関する情報は重要な役割を果たせると考えるからである。

使用の面の分析では、アンケート調査から収集した文字データにおける「女子力」を巡る引用および当時の状況の描写に焦点を当て、分析を行う。分析の際に、まず、「女子力」を使った相手の性別、相手との関係、対象となる事柄を分析する。そして、引用の内容および引用動詞といった引用に関わる標識から、「女子力」を使う当時の状況、意図、受け取り方などを中心に「女子力」の使用の様相を分析する。その上で、「女子力が高いね」およびそれに対する応答に着目して、「女子力が高いね」に対する返答の様相を明らかにする（第 5 章）。第 6 章では、アンケート調査のデータを扱い、アプレイザル理論を分析の枠組みとして、「女子力」の意味、内容、使用を巡る評価を分析する。具体的には、アプレイザル理論における態度評価（attitude）を用いて、評価者の心情を示す表現（affect）、「女子力」の持ち主の「習慣・性格・行動」を示す表現（judgement）、「女子力」ということばの意味・使用・内容を述べる表現（appreciation）から、「女子力」を巡る評価表現を明らかにする。その上で、「女子力」の捉え方の特徴を明らかにする。

2.8　本章の小括

ここまでは、先行研究を概観した上で、本研究の研究方法などを述べてきた。

日本語におけるジェンダー表現は、固定しているのではなく、時代の変化とともに更新されている。寿岳（1979）は初めて「女性○○」「女○○」「女子○○」「婦人○○」「女流○○」などの女性のみを有標にする表現に目を向けた研究である。それ以降もこれらの表現は盛んに検討されてきた（田中 1984、佐竹 2001、田中他 2006、徐 2013a,2013b など）が、徐（2014）は「女性○○」「女○○」「女子○○」「婦人○○」「女流○○」の使用は全体的に減少しつつあり、「女性○○」に収斂する傾向を呈していると述べている。田中他（2017）は男性の性別を強調する「男性○○」などの表現も増えてきたと指摘している。このように、

女性のみを有標にする言語現象にはわずかながらも変化が見られる。そして、「看護婦」「看護士」を「看護師」に、「保母」を「保育士」に、「スチュワーデス」を「客室乗務員」に呼ぶようになったという変更も見られる。既存のことばの減少、変更の他、日本語には「森ガール」「理系女子」「草食男子」「ワーキングママ」「イクメン」「キャリアウーマン」「女子会」などの新しい造語も生まれてきた。これらの新しい造語は日本語のジェンダー表現を変えつつ、言語とジェンダーを結び付けていることを示している。また、これらの新しい表現の広がりにおいては、メディアは大きな役割を果たしていることも強調しておきたい。

「女子力」も従来から存在することばではなく、漫画家の安野モヨコにより 2000 年前後に初めて使われ、新しく生まれたことばである。そして、「女子力」は一時期盛んに使われていて、2009 年の「ユーキャン新語・流行語大賞」にもノミネートされている。インターネットや雑誌、テレビといったメディアから日常生活にまで浸透している。「女子力」は「女子学生」「女子学校」「女子社員」「女子選手」などの伝統的な意味で使われている「女子」と異なり、21 世紀の初頭にはじまった「女子」ブームにおける一語で、「常識・年齢・立場」を超え、良妻賢母の規範を切り捨てようという誕生の背景がある。しかし、「常識・年齢・立場」を超え、良妻賢母の規範を切り捨てようというのは、あくまでも雑誌などのメディアによってアピールされている女性の価値観、生き方であり、紙面から離れた「女子力」はメディアによってアピールされている通りにポジティブに解釈・評価され、使われるとは限らない。また、良妻賢母という規範を切り捨てようというアピールの中にポジティブな側面が見られる反面、「女子力」がある人はこのよう人で、「女子力」がない人はこのような人で、「女子力」がある人になりたいなら、このようなことをすべきだという「女性があるべき姿」の新しい規範がメディアによって生み出されていると言える。

先行研究で述べたように、ジェンダーに関わる表現は女性を指すことばと男性を指すことばの非対称性、女性に対する偏見、差別などに焦点を当て、検討されたものが多い。本研究は「男子力」にも触れるが、主として「女子力」そのものに注目して、その意味、使用・評価の様相を分析していく。また、「女子」を抜きに「女子力」が語れないほど、「女子」と「女子力」は密接につながっている。先行研究で概観されたように、「女子」は 2 つの枠組みで検討されてきた。1 つ目の枠組みでは、「女子」の意味、「女性○○」「女○○」とともに、「女子」による複合表現「女子○○」が盛んに検討されてきた。この枠組

みで検討されてきた「女子」はより伝統的な意味での「女子」に傾いている。かつ、体系的に「女子」はどのような語と結合するのかということと、それらの語の特徴および「男子○○」との比較に着眼したものである。このような着眼点の下で、体系的にジェンダーに関わる表現の特徴および、意味するところを掴むことができるが、個々の語の特徴を深く捉えるのは難しい。そして、体系的にジェンダーに関わる表現を分析する時、新語は見逃されがちである。しかし、ジェンダーに関わる新語こそ、日本のジェンダー表現を更新しつつ、日本のジェンダーの状況を記している。よって、本研究は、先行研究のように量的・体系的にジェンダー表現を見るのではなく、ジェンダーに関わる現代日本語表現のキーワードとしての「女子力」のみに着目して包括的に分析する。

また、先行研究で概観したように、「女子力」についての研究は社会学のアプローチからなされるものが多い。その中で、近藤（2014）は、「女子力」はフェミニズムにとって希望になるが、「男性指向」の「価値観」、「家事・育児負担」の「押し付け」といった点では、依然として問題点があること、菊地（2016,2019）は「女子力」は「ジェンダー規範と能力主義の結合」であることを指摘している。しかし、これらの先行研究では、「女子力」と既存概念の「女性らしさ」の関連はまだはっきりされていない。上述したように、「女子力高いね」「女子力だね」はメディアだけではなく、日常会話にも登場している。日常会話では、「女子力」がどのように使われているのか、男女別、話者別に見て、どのような共通点と相違点があるのか、まだ課題として残されている。本研究は言語学のアプローチから、よりミクロのレベルで、「女子力」の表現の面および使用の面の特徴を明らかにする。

本研究は言語学のアプローチを用いて、「女子力」は「どのような」ものなのかから分析をはじめる。「女子力」は新しい意味が付与された「女子」の枠組みに位置づけられることは先行研究のまとめから明らかになった。一方、語構成の観点からは、「女子力」はまた接尾辞「力」による派生語の語彙グループに位置づけられる。本研究の第 3 章のはじめでは、「力」による派生語の語彙グループに着目して、「想像力」「経済力」などと比べて、「女子力」がどのように特徴づけられるのかを分析する。つまり、本研究のはじめから、「女子力」ということばのみに目を向けるのではなく、よりそれが位置づけられる体系および他の語彙素の分析から「女子力」の特徴を炙り出す。その上で、「女子力」ということばに焦点を当て、その意味分析を行う。第 4 章では、「女子力」が関わる領域を明らかにする。つまり、第 3 章、第 4 章では、位置づけ、意味、関わる領

域という「女子力」の静的な特徴を明らかにする。第 5 章からは、「女子力」の使用の様相および「女子力」に対する評価の様相という動的な特徴を分析する。「女子力」は男性にも使えるのか、使えるなら男性はそれをどのように受け取っているのか、また、調査回答者が「話し手」と「聞き手」として語る「女子力」の使用の様相は同じだろうか、違うなら、それはなぜかといった課題に向き合う。「女性らしさ」との関連、「女子力」が関わる領域、「女子力」の使用の様相を明らかにした上で、第 6 章では、「女子力」はどのように評価されるのかを明らかにしたい。

第 3 章　「女子力」の意味分析

3.1　はじめに

本章では、「女子力」の意味分析を行う。まず、3.2 節で、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) を用いて、接尾辞「力」による派生語（以下場合によって「○○力」とも表記する）から見る「女子力」の位置づけを行う。次に、3.3 節では、アンケート調査から収集した文字データに表れる言語的標識を分析の軸に[27]、「女子力」はどのように大学生・大学院生に解釈され、定義されるのか、「女子力」の意味分析を行う。最後に、3.4 節では、本章を小括する。

3.2　接尾辞「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけ

漢語接尾辞である「力」は、前接語と結合して「力・能力・はたらき」などの意味を表す派生語を形成する[28]。その例としては、「遠心力・語彙力・経済力・影響力」などがある。そして、近年、「市民力・区民力・患者力」といった「人間」を表す語、「地域力・学校力」といった「組織・社会」を表す語を前接語とする特徴的な派生語も見られるようになった。また、「老人力・鈍感力」などの前接語と接尾辞がミスマッチに見える派生語もある。これらは、「力」と結合して形成された造語の前接語はバリエーションに富んでいることを示している。では、「女子力」は「○○力」の中でどのように位置づけられるのか。本節では、「○○力」の分類によって、「○○力」という「力」による派生語の語彙グループから見る「女子力」の特徴およびその位置づけを把握する。

3.2.1　接尾辞「力」に関する先行研究

漢語接尾辞に関する先行研究は数多蓄積されてきているが、その多くは「的・系・派・化・風」に注目したものである（王 2000、影山 2007、山下 2011,2015、趙 2013 など）。一方で、「力」に関する先行研究はそれほど多くなく、管見の限りでは、野村（1978）、中島（2010）が挙げられるのみである。

---

[27] 本研究で言う「言語的標識」は「なんか」「じゃあ」といった談話標識と異なっており、「女子力」を巡る定義・解釈において特徴的に表れ、「女子力」に混在するジェンダーの要素および能力の要素を表せるものである。

[28] 漢語接尾辞は他に「式・風・的・系・化」などが挙げられる。

野村（1978）は接尾辞の用法の分類で、「力」についてわずかではあるが触れている。そこでは、「力」は体言型の接尾辞で、意味による下位分類では「精神・抽象」に属する接尾辞であると指摘している[29]。

中島（2010）は「度・系・力」に焦点を当て、新造語における「度・系・力」の用法を考察し、その中で、「力」の用法を以下の 3 つに分けている。

① 語基が表す行為や属性を能力として表すもの、そして、ある行為と隣接関係にあるものを語基で示し、その行為ができるという能力を表すものである[30]。

② 能力の担い手を表す語を指示することによって、そのような担い手がもつべき能力、もつことを期待される能力、あるいは第三者が活かすべき能力を表し、合成語の意味に当然さや義務といったモダリティを付与するものである[31]。

③ 語基の表す否定的な意味合いを注目すべき能力として再定義するものである[32]。

（中島 2010：171-173 下線筆者）

中島（2010）は新造語における「力」の用法を上記の 3 つに分けていて、非常に示唆に富んでいる。しかし、これは新造語のみについての分類で、「力」による派生語の全体像を示すものではない。本節は「力」による派生語の全体の把握から、「女子力」の位置づけを行う。

3.2.2　データ

本節は国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）のデータを用いて、コーパスを検索することができる Web アプリケーション『中納言』で「○○力」の用例を抽出した[33]。具体的には、「短単位検索」で、1）キー「品詞：大分類：名詞」、

---

[29] 野村（1978）は「力」「系」といった接尾辞を「接辞性字音語基」と称する。
[30] 中島（2010）は、その例として「営業力」「スピーチ力」「読書力」「爆笑力」「清潔力」などを挙げている。
[31] 中島（2010）は、その例として「患者力」「女子力」「市民力」などを挙げている。
[32] 中島（2010）は、その例として「遊び力」「孤独力」「鈍感力」などを挙げている。
[33] 検索日は 2020 年 7 月 31 日である。

2）後方共起 1「キーから 1 語　書字形出現形：力 AND 語彙素読み：リョク」を指定して、検索した。なお、検索した際、すべての年代、ジャンルを対象とした。

この抽出方法で 27,766 件の検索結果が得られた。Excel で「キー」と「力」を組み合わせて、リストアップした結果、計 1,172 件の「キー＋力」が抽出できた。その中で、「高＋速力」「無＋能力」「本願力（リキ）」といった本研究の対象外のものも観察され[34]、これらを対象から除外した。最終的には、「○○力」という接尾辞「力」による派生語は 922（異なり）で、使用頻度総数は 26,571 となる。

3.2.3　頻度から見た「力」による派生語の全体像

「力」による派生語にはどのようなものがあるか、まず、頻度順に「○○力」の上位 50 語を示す[35]。

表 3-1　「力」による派生語（頻度順の上位 50 語）

	「○○力」（異なり語数：55 語）
1～50 位	原子力（4,234）、労働力（2,125）、影響力（1,072）、競争力（962）、想像力（714）、説得力（613）、軍事力（583）、集中力（525）、経済力（438）、生産力（387）、生命力（384）、防衛力（372）、技術力（372）、判断力（331）、抵抗力（302）、記憶力（298）、免疫力（283）、行動力（265）、指導力（243）、表現力（224）、攻撃力（211）、拘束力（199）、精神力（195）、支配力（195）、購買力（189）、推進力（182）、英語力（169）、創造力（161）、洞察力（150）、思考力（144）、治癒力（143）、強制力（138）、理解力（136）、決断力（131）、破壊力（130）、抑止力（129 ）機動力（124）、注意力（123）、忍耐力（116）、収益力（116）、政治力（108）、輸送力（107）、発言力（104）、開発力（103）、実行力（102）、遠心力（101）、既判力（100）、持久力（99）、演技力（99）、信用力（96）、成長力（94）、瞬発力（88）、対応力（87）、摩擦力（87）、老人力（84）

（　）内は頻度を実数で示したものである

[34]「本願力」「功徳力」「誓願力」といった語の「力」は「りき」と読むことが多いので、対象外とする。

[35] ここに示した以外のものは、本論文末の「付録Ⅱ－「力」の派生語リスト」で示す。

「力」による派生語においては、「原子力」が最も使用頻度が高い語である。その次は、「労働力」「影響力」となる。上位 50 語の頻度合計は 19,267 で、総数の 26,571 の過半数（73%）を占める。したがって、「○○力」の異なり語数は多いが、頻繋に使われるのは一部だけであると考えられる。

3.2.4　「力」による派生語の分類

本節では、「力」による派生語を分類する。その中で、「女子力」はどのように位置づけられるのかを探る。

3.2.4.1　分類方法について

「力」による派生語の分類に先立って、単純語の「力（ちから）」を見る。単純語の「力（ちから）」は「どこにある力か、誰が持っている力か」「どのような性質を有する力か」「誰/何に対して影響のある力か」という 3 つの側面から捉えられる。下記の例文（1）から力は「物質の表側」にあり、例文（2）（3）（4）（5）から力は「彼女の母」「自然」「大手企業」「彼女」が持つということが観察でき、例文（3）と（5）から、力は「大きな」「素晴らしい」という性質を有することが読み取れる。また、例文（4）と（5）から、その力は「市場」「トラブル」に対して影響のある力ということが読み取れる。このように、単純語の「力（ちから）」に関して、「どこにある力か、誰が持っている力か」「どのような性質を有する力か」「誰/何に対して影響のある力か」という特徴が読み取れる。

例：（1）物質の表側にある力を観察する。（作例）
（2）彼女の母は、この国でも一番の力を持つ呪い師だ。（作例）
（3）自然は大きな力を持っている。（作例）
（4）その大手企業は市場を支配する力を持っている。（作例）
（5）彼女はトラブルに対応する素晴らしい力を持っている。（作例）

また、「どこにある力か、誰が持っている力か」および「どのような性質を有する力か」は力の静的な特徴であるが、「誰/何に対して影響のある力か」は力の動的な特徴である。この 3 つの側面を図式化すると、以下の図 3-1 になる。

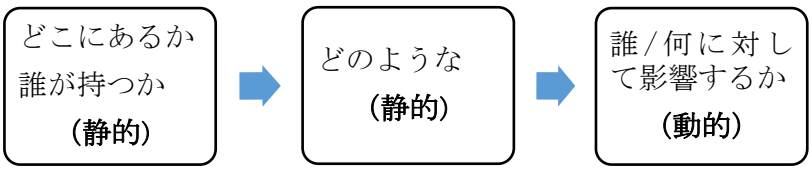

図 3-1　「力（ちから）」の 3 つの側面

単純語である「力（ちから）」のこのダイナミックな特徴を切り口に接尾辞「力」による派生語も「どこにある力か、誰が持っている力か」「どのような力か」「誰/何に対して影響のある力か」という順で整理する。そこで、「力」による派生語は【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】という 3 つに大別できる。また、この 3 つのカテゴリーに分類できないものを【その他】にする。以下では、それぞれのカテゴリーについて説明する。

【ありか】どこにあるか、誰が持っているか

まず、「力」による派生語は【ありか】というカテゴリーに分けられる。このカテゴリーに属する語の前接語から、その力が内在する「もの・組織・主体」が分かる。つまり、前接語からその力は「どこにあるか、誰が持っているか」ということが読み取れる。一方、同じく前接語から【ありか】の特徴が読み取れるが、その【ありか】の内実は異なる。データから、【ありか】はさらに、1）もの、2）組織・社会、3）人間という 3 つに分けられた。

【性質】どのような力か

次に、「力」による派生語は【性質】に分類できる。このカテゴリーに属する語から、その力はどのような力か、その力はどのような性質を有するかということが読み取れる。

【用途・目的・影響先】何のために使われるか

続いて、「力」による派生語を【用途・目的・影響先】に分類できる。このカテゴリーに属する語の前接語から、力の用途、目的は何か、その力は何のために使われるか、その力の影響先はどのようなことであるかという特徴が読み取れる。

【その他】

【その他】に属する語は以上の 3 つの分類に入らない、他の特徴を有する語である。

以下では、各分類の語例および用例を挙げながら、分析を行う。その上で、この分類の下に「女子力」はどのように位置づけられるのかを説明する。

3.2.4.2　【ありか】

【ありか】のタイプから、その力はどこにあるか、誰が持っているかが読み取れる。前接語と「力」の間に「…に内在する/…にある」「…が持っている」を挿入することができる。例えば、「背筋力」は「背筋に内在する力/背筋にある力」に言い換えられる。「地域力」は「地域が持っている力」に言い換えられる。

一方、同じく前接語はその力の【ありか】を示すが、【ありか】の特徴は異なる。まず、【ありか】は「もの」という特徴が観察された。この「もの」は抽象と具象の観点から、さらに❶❷に分けることができる。❶の「もの」は抽象的であるが、❷の「もの」は具象的である。続いて、【ありか】は「組織・社会」という特徴が観察された。また、これらの組織・社会は人間によって構成される。最後に、【ありか】は「人間」であるという特徴が読み取れる。例えば、「老人力」「人間力」「個人力」といった語の前接語は人間を表す語で、これらの語は意志を持つ主体を示す。なお、【ありか】の分類の詳細は下記の表 3-2 のようにまとめられる。

表 3-2　【ありか】分類の詳細

	詳細		
ありか	もの	❶	抽象的なもの
		❷	具象的なもの
	組織・社会	人間の組織・社会、集団	
	人間	意志を持つ人間	

3.2.4.2.1　「もの」

表 3-2 から、力の【ありか】を示す語は「もの」「組織・社会」「人間」という 3 つに分けられる。本節から 3.2.4.2.3 節までは【ありか】に焦点を当て、分析する。まず、「もの」について分析する。

「もの」は力の内在するものを示すタイプである。この「もの」はさらに抽象的なものと具象的なものに分けられる。その語例、用例は以下のようである[36]。なお、語例の括弧内は頻度である。

抽象的：軍事力（583）、経済力（438）、生命力（384）、技術力（372）
具象的：原子力（4,234）、背筋力（26）、脚筋力（4）、毛管力（3）、腹筋力（3）

（6）徳川時代になってからの鎖国政策、大船建造禁止は、堺市のとどめを刺したということになる。紹鷗や利休が活躍したのは、堺市の最盛期であって、この経済力を反映して、庶民的な自由思想を根底とする茶道が生れたのであった。（BCCWJ LBa3_00029『食からみた日本史』3 社会科学）
➡この経済にある力を反映した。（作例）

（7）最近、体力・運動能力の調査というのを毎年やっておりますが、この調査結果によりますと、ここ十年の比較をずっとしてまいりますと、背筋力というのが低下している。（BCCWJ　OM25_00004『国会会議録』参議院/常任委員会/文教委員会）
➡背筋にある力が低下している。（作例）

3.2.4.2.2　「組織・社会」

「組織・社会」は力を所有する組織・社会を示すタイプである。また、この組織・社会は人間によって構成される。その語例は以下のようである。

組織・社会：地域力（48）、警察力（39）、海軍力（37）、チーム力（28）

（8）各球団に「干されている」「過小評価されている」選手が、少なくとも 2 人はいます。その選手を全員取っても、さほどお金はかからないし、しかもチーム力はアップします。（BCCWJ　OC06_02325『Yahoo!知恵袋』スポーツ、アウトドア、車/スポーツ/野球）

[36] 例文後のカッコにある内容は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の略称および用例のサンプル ID、書名/出典、ジャンルを示すものである。

➡しかもチームが持つ力はアップします。（作例）

3.2.4.2.3　「人間」

「人間」は誰がその力が持っているかを前接語から示すタイプである。つまり、このタイプは力の持ち主を直接前接語から示す。このタイプの前接語と力の間に、「としての」を挿入することができる[37]。その語例は以下のようなものが挙げられる。

人間：老人力（84）、人間力（27）、投手力（21）、個人力（6）

（9）これが意外に受けてるんですよ、いままでだったら、「忘れっぽくなった、歳とったな」なんて言ってたようなことも、「老人力がついたんだよ」って言うと、「ああ、そうなんだ」って膝を叩く感じがあるみたい。（BCCWJ　OB5X_00278『老人力』9 文学）

➡老人としての力がついた。（作例）

（10）これからも大変だと思いますがチームのため選手のため、そして自分自身の人間力を磨くため妥協せず頑張ってください。（BCCWJ　OY14_17171『Yahoo!ブログ』Yahoo!サービス/Yahoo!ブログ/練習用）

➡自分自身の人間としての力を磨くため妥協せず頑張ってください。（作例）

3.2.4.3　【性質】

表 3-3　【性質】の語例

	語例（異なり語数：13）
性質 1～10 位	遠心力（101）、求心力（71）、総合力（69）、潜在力（65）、基礎力（17）、水平力（15）、絶対力（15）、中心力（15）、有形力（11）、迫真力（6）、神秘力（3）、ソフト力（3）、基本力（2）

（　）内は頻度を実数で示したものである

[37] 前接語と「力」の間に「としての」を挿入すると、「力」は「ちから」と読む。

【性質】は前接語からその力の性質、状態を示すタイプである。このタイプの派生語からその力はどのような力か、その力の性質、状態が読み取れる。例えば、用例（11）の「国語力は、日本の経済、文化を支えてきた基礎力」から、「国語力」は日本の経済、文化を支えてきた力の一種で、この力は他の日本の経済、文化を支えてきた力と比べて、「基礎的」という性質を有することが読み取れる。また、用例（12）の「福祉施設ではトップダウンはなく、共同作業、要するに総合力を要求される」から「福祉施設」で要求される力は「総合的」という性質を有する力であるということが分かる。つまり、【性質】に属する語の前接語はその力を形容し、その力の性質を明確化する役割を果たしている。

（11）齋藤氏の主張によれば、国語力は、日本の経済、文化を支えてきた基礎力だっていう。（BCCWJ　PM21_00596『ダカーポ』総合/一般/一般週刊誌）

（12）福祉施設ではトップダウンはなく、共同作業、要するに総合力を要求されるので、職員全体の参加意識や共同意識の醸成がきわめて重要である。（BCCWJ LBk3_00053『高齢者ケア施設マニュアル』3 社会科学）

3.2.4.4　【用途・目的・影響先】

表 3-4　【用途・目的・影響先】の語例

	語例（異なり語数：20）
用途・目的・影響先 1~20 位	影響力（1,072）、競争力（962）、想像力（714）、説得力（613）、集中力（525）、生産力（387）、防衛力（372）、判断力（331）、抵抗力（302）、記憶力（298）、行動力（265）、指導力（243）、表現力（224）、攻撃力（211）、拘束力（199）、支配力（195）、購買力（189）、推進力（182）、英語力（169）、創造力（161）

（　）内は頻度を実数で示したものである

【用途・目的・影響先】は前接語からその力の用途、目的、影響先を示すタイプである。そのため、このタイプの派生語は前接語と「力」の間に、「するための」を挿入し

て、「…するための力」に言い換えられる。例えば、以下の用例（13）の「寒さに対する抵抗力」は「寒さに抵抗するための力」に言い換えられる[38]。また、用例（14）、用例（15）はそれぞれ「善悪を判断するための力」「外材と競争するための力」に換言できる。

（13）室内の暗い場所に長く放置して徒長した株は、寒さに対する抵抗力も弱くなります。（BCCWJ　LBf6_00009『よくわかる観葉植物』6 産業）
➡寒さに抵抗するための力が弱くなります。（作例）

（14）詰まるところ、家庭と学校と並んで、教育の場の一つでもあるはずの実社会から受けている影響は彼らの物事を見る目を晦まし、善悪に対する判断力を狂わせ、個人や社会人として持つべき道徳観を曲げてしまう。それが惨めな現状である。（BCCWJ　LBb3_00050『日本の父へ再び』3 社会科学）
➡善悪を判断するための力を狂わせてしまいました。（作例）

（15）この結果、国産材は、外材に対する競争力を失い、その消費量は減少した。（BCCWJ　OW6X_00123『森林・林業白書』農林水産/森林・林業白書（林業白書））
➡国産材は外材と競争するための力を失ってしまいました。（作例）

一方、表 3-4 に挙げられた「英語力」は前接語と「力」の間に「するための」を挿入することができないが、「英語を使う/書く/話すための能力」のように、前接語と力の間に語句を挿入することができ、前接語に関わる能力を表す。また、「バランス力」は「バランスをとるための能力」に言い換えられる。

（16）しかし、どうだろうか。半年や一年の語学留学をしたところで、ほんとうに英語力が身につくものだろうか。（BCCWJ　LBe1_00023『いい女は頑張らない』1 哲学）
➡半年や一年の語学留学をしたところで、ほんとうに英語を使うための能力が身

[38] 前接語と接尾辞「力」の間に「するための」を挿入すると、「力」は「ちから」と読む。

につくものだろうか。（作例）

（17）補助つき自転車にある程度乗れるようになり，補助なし自転車乗りの練習に入る段階で，バランス力を身につけるためによい練習となる。（BCCWJ PB33_00001『どの子も自転車に乗れるようになる新ドリル』3 社会科学）

➡補補助なし自転車乗りの練習に入る段階で，バランスをとるための能力を身につけるためによい練習となる。（作例）

3.2.5 考察

「力」による派生語をその前接語と力の関係から、主に【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】【その他】という 4 つに分ける。【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】それぞれの前接語の特徴は以下の表 3-5 にまとめることができる。【ありか】の前接語は行為性を有さず、分野・領域、物体、組織・社会、人間を表す名詞となる。【性質】の前接語も行為性を有さず、性質を表す語となる。【用途・目的・影響先】の前接語はサ変動詞語幹となる名詞が主で、それらは動作・行為を表し、行為性を有する。【性質】【用途・目的・影響先】の前接語から、その力はどこにあるか、誰が持っているかは分からないが、【ありか】の前接語の一部はその力が内在するものを顕在化させ、一部はその力の持ち主を顕在化させることが上記の分析から明らかになった。

表 3-5 「力」による派生語の前接語[39]

	前接語から持ち主が分かるかどうか	前接語の特徴
ありか	△	分野、物体、組織、人間を表す名詞
性質	×	性質、属性を表す名詞
用途・目的・影響先	×	動作・行為を表す動詞、一部名詞

また、【ありか】の前接語に意志を持たない分野・領域、物体を表す語から意志を持つ人間までが観察された。【組織・社会】はその中間段階に位置する。その前接語が表

[39] 表 3-5 の「×」は前接語から持ち主が分からないことを指し、「△」は前接語から持ち主が分かる語が一部だけであることを指す。

す組織・社会自体は意志を持たないが、その組織・社会は人間によって構成される。そのため、【組織・社会】は「意志性あり」と考えられる。つまり、【ありか】の前接語は意志を持たない「もの」から、中間段階の「組織・社会」を経て、意志を持つ人間までという意志の連続性が見られる（表 3-6）。

表 3-6　【ありか】の前接語[40]

	前接語から持ち主が分かるかどうか	意志について
もの	×	-
組織・社会	△	±
人間	○	+

3.2.6　「女子力」の位置づけ

上記の分析から「力」による派生語は【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】【その他】に分類できる。本節では、この分類とその内実を切り口に「女子力」の位置づけを行う。

まず、【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】【その他】のうち、「女子力」は【ありか】に位置づけられる。つまり、「力」による派生語というグループから見て、「女子力」は、前接語がその力はどこにあるか、誰が持っているかを示すタイプである。続いて、【ありか】の「もの」「組織・社会」「人間」のうち、「女子力」は意志を持つ「人間」に位置づけられる。「女子力」の前接語はその力の持ち主を顕在化させ、前接語からその力の持ち主は誰かということが読み取れる。また、「女子力」の形成、広がり、定着において社会的要因と関わることは、「女子力」を特徴づける。「女子力」は字面から読み取れる「女子の力、女子が持つ能力」にとどまることはない。その意味、関わる領域、使用、およびそれに対する評価から、「女子力」は「女性らしさ」「ジェンダー規範」といったジェンダーの課題と関わっている。これこそが「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけだと考えられる。

以下では、「女子力」の意味分析を行う。

---

[40] 表 3-6 の「×」は前接語から持ち主が分からないことを指し、「△」は前接語から持ち主が分かるが、その持ち主は人間ではなく「意志性」を持つ組織・社会である。「○」は前接語から持ち主が分かる、かつ、その持ち主は意志を持つ人間であることを指す。

3.3　「女子力」とは

本節では、アンケート調査で収集したデータを扱い、「女子力」についての定義や解釈における言語的標識に焦点を当て、「女子力」の意味分析を行う。

3.3.1　データと分析方法

第 2 章で述べたように、本研究のアンケートは 9 つの調査項目について行ったが、本章ではその中から次の 3 つの調査項目に対する回答を取り上げて分析する。

問 1 :「女子力」ということばを知っていますか。知っているなら、どのようにして知ったのかを教えてください。（選択肢あり）

問 2 : あなたが考える「女子力」とは何ですか。

問 6 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。

まず、問 1 の回答から、「女子力」を知ったきっかけを把握する。その上で、問 2 から得られた文字データに表れる言語的標識に焦点を当て、「女子力」はいかに解釈され、定義されるのか、「女子力」の意味分析を行う。また、問 6 から収集した文字データを用いて、行為化された「女子力」を分析する[41]。問 2、問 6 のデータに対する具体的な分析手順としては、まず、問 2 の回答について、「女子力」の定義や解釈に表れる接尾辞の「らしい」「っぽい」、「できる」といった動詞、「得意」といった形容詞を軸に、「女子力」に混在するジェンダーの要素と能力の要素を分析する。次に、問 6 の回答について、授受（補助）動詞の「（て）くれる」「（て）もらう」を軸に、行為によって具現化された「女子力」の特徴を明らかにする。

---

[41] 本章の目的に合わせ、ここで問 6 に対する回答における授受（補助）動詞の「（て）くれる」「（て）もらう」に焦点を当て、分析する。「女子力」の使用については触れず、それは第 5 章に譲る。

3.3.2　「女子力」を知ったきっかけ

「「女子力」ということばを知っていますか。知っているなら、どのようにして知ったのかを教えてください。」という調査項目においては、1 人（男性）を除いて、63 人が「知っている」と回答した。「女子力」を「知っている」と回答した 63 人には、「女子力」を知ったきっかけをたずね、選択肢から「複数選択可」の形で回答してもらった。その結果を以下の図 3-2 に示す。

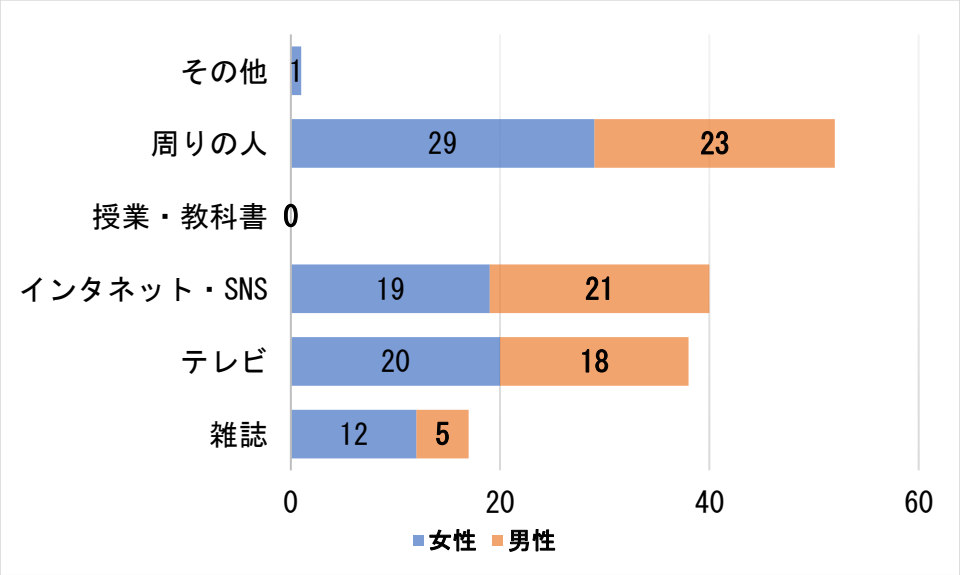

図 3-2　「女子力」を知ったきっかけ

全体的には、「周りの人」を通して「女子力」を知ったと回答した人が最も多く、「インターネット・SNS」「テレビ」「雑誌」の順とつづく。この結果から、コミュニケーションの相手になりうる「周りの人」だけではなく、「インターネット・SNS」「テレビ」「雑誌」といったメディアも「女子力」を知るきっかけになっていることが分かった。男女別に見れば、「インターネット・SNS」「テレビ」を通して、「女子力」を知ったと回答した男女の数は大体同じであるが、「周りの人」および「雑誌」から「女子力」を知ったという回答は女性の方が男性より多い。「女子力」は男性よりも女性の日常コミュニケーションに現れやすいと言える。

3.3.3　「女子力」に対する定義

3.3.2 で述べたように、今回の調査では 1 人（男性）を除いて、63 人が「女子力」を「知っている」と回答した。そのうち、61 人は「あなたが考える「女子力」とは何ですか。」という問いに「女子力」の定義や解釈を記述している。本節では記述された定義や解釈における言語的標識を軸に分析を行う。

3.3.3.1　「女子力」とジェンダー

「女子力」を巡る定義や解釈のキーワードには「女性らしい」「女子らしい」「女の子らしい」「女子っぽい」が挙げられる。下記の【データ 3-1】のように、「女子力」ということばを直接に「女性らしい」「女の子らしさ」「女子っぽさ」の一言で解釈する回答もある。このような回答から、「女子力」は「女性/女の子らしさ」「女子っぽさ」そのものであると捉えられていることがうかがえた。

【データ 3-1：女子力＝女性らしさ】

(1) 女性らしいこと。（女性、10 代）
(2) 女子っぽくあること。（男性、20 代）
(3) 女子っぽさ。（男性、10 代）
(4) 女の子らしさ。（男性、20 代）

「女性らしい」「女子っぽい」のような接尾辞「らしい」「っぽい」による語を用いた回答には、具体的な例を挙げつつ、「女子力」に解釈を与えた記述が見られるものもあった。このような具体的な例からは、「女子力」とされる「女性/女子/女の子らしさ」「女子っぽさ」はどのような要素で構築されるのかを掴むことができる。

【データ 3-2：「女性らしさ」のありか】

(1) 身だしなみの女性らしさ、しぐさ、料理や裁縫ができるか、ハンカチや絆創膏を常に持っているかなど。（女性、20 代）
(2) 髪型やネイルなど女子らしいこと。（女性、20 代）
(3) 女の子・女性らしい言葉遣いや行動。（女性、20 代）
(4) 細やかな気配りができること、装いが女性らしいこと。（男性、20 代）

上記のデータから「女子力」に見られる「女性らしさ」は外見に関連する「身だしなみ」「髪型、ネイル」「装い」で構築されている一方、「言葉遣い、行動」によっても構築されていることが分かる。データにおける「女性/女子/女の子らしさ」「女子っぽい」といった言語的標識に対応する具体的な表象は表 3-7 のようなものである[42]。表 3-7 からは、「女子力」における「女性らしさ」はどこに見られるのか、どのようなものに表れるのか、という「女性らしさ」のありかが分かる。

表 3-7　「女子力」を表す言語的標識とその表象①

言語的標識	その表象	
女性/女子/女の子らしさ	行動	言葉遣い、行動、振る舞い、仕草、気遣い
	外見	身だしなみ、香り、スカート、ピンク、清潔感、装い、髪型、ネイル
女子っぽい	行動	

「男らしさ」「女らしさ」について調査した高井他（2009：68）は質問紙の自由記述欄のデータを用い、「女らしさ」に関しては「優しい、上品、気遣い・繊細、家庭的、かわいい、愛嬌、色気、美しい、控えめ、男を立てる、明るい、あたたかい、思いやり」といった項目が挙げられると指摘する。問 2 に対する回答のデータから観察できる「女性/女子/女の子らしさ」について挙げられた例には「気遣い」以外に、これらと重なる項目は見られない。高井他（2009）の挙げる「女らしさ」の項目は、人柄、性格、美しさなどの属性的な側面に偏っている。一方、表 3-7 に挙げた表象「言葉遣い」「振る舞い」「仕草」「行動」からは、「女子力」に見られる「女性らしさ」が行動的な側面を含むことが分かる。そして、「身だしなみ」「香り」「スカート」「ピンク」「清潔感」「装い」「髪型」「ネイル」などは外見に関する内容であるが、そこにも「女性らしさ」が見られるとされる。このような「女性らしさ」は、努力によってつくられていくものである。つまり、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化することばであると言える。

[42] データには「らしい」およびその名詞化された形の「らしさ」の両方が用いられているが、表 3-7 では「らしさ」でまとめた。

上記の【データ 3-1】についての分析は、「女子力」は「女性/女の子らしさ」「女子っぽさ」そのものであると捉えられていることを示した。そして、【データ 3-2】および表 3-7 についての分析は、「女子力」に見られる「女性らしさ」は行動的な側面が含まれ、「女性らしさ」は「女子力」をつくるという努力によって、構築され、表現されることを示した。West＆Zimmerman（1987）は、ジェンダーという概念を“doing gender”（ジェンダーする）として捉え[43]、“Doing gender means creating differences between girls and boys and women and men, differences that are not natural, essential, or biological.「「doing gender」は、女の子と男の子、女性と男性の間に違いを生み出すということを意味する。そして、その違いは、自然的、本質的、生物的なものではない」（West＆Zimmerman1987：137、日本語訳筆者）”。「女子力」を向上させること、女子力を磨くことは違いを生み出す「doing gender（ジェンダーする）」という行為だと考えられる。上記の【データ 3-2】の（3）における「女の子・女性らしい言葉遣いや行動」から、「女子力」の表象には、女性らしい言葉遣いがある。一方、「女子力」は努力からつくられるものということを上記の分析で示した。「言葉遣い」という側面において、「女子力」を磨いたら、女性らしい言葉遣いが身に付けられると考えられる。同じく、「振る舞い」「仕草」「行動」という行動的な側面および「身だしなみ」「香り」「スカート」「ピンク」「清潔感」「装い」「髪型」「ネイル」などの外見に関する部分から努力して、「女子力」を向上させ、磨いている。この努力のプロセスによって、「女性らしさ」は構築され、表現される。したがって、「女子力」を向上させること、女子力を磨くことは「doing gender（ジェンダーする）」という行為である。

3.3.3.2　「女子力」と能力

「女子力」の「能力」に関わる要素について、能力および評価を表す動詞、形容詞といった言語的標識を軸に分析して探ってみる。まず、「女子力」に対する解釈には「できる」という標識が頻出することが指摘できる。下記はそのデータの一部である。

【データ 3-3：言語的標識の「できる」】

（1）通常女性に期待される、料理や裁縫など手先の器用さを要する仕事をうまくやるこ

[43] 括弧内の日本語訳は中村（2001）を引用した。

とのできる能力。また、化粧やファッションに気を配り、かわいらしく、美しく見せることのできる能力。（女性、20 代）

（2）家庭的な行動ができること。家事とか。（女性、20 代）

（3）料理、家事ができる。身だしなみがきれい。（女性、20 代）

（4）気配りができる。（男性、20 代）

（5）世の中で「女性らしい」とされる、周囲に配慮した振る舞いをすることができること。（女性、20 代）

中島（2010 : 172）が「女子力」といった新造語の意味合いには「もつことを期待される能力」が含まれると指摘する通り、【データ 3-3】の（1）の「できる」ことは「料理や裁縫など手先の器用さを要する仕事をうまくやること」で、そして、その解釈の「通常女性に期待される」は、「女子力」ということばに含まれる能力の要素には「期待される」という特徴があることを示している。（2）は「家事」を例として挙げつつ、「女子力」は「家庭的な行動ができること」とされ、（3）は「家事」の他に「料理」も加えて、「女子力」は「料理、家事ができる」ことと解釈されている。（4）は「女子力」を「気配り」ができること、（5）は「女子力」を「周囲に配慮した振る舞い」ができることと解釈している。

データから得られた「女子力」に対する解釈における「できる」ことの表象（何ができるか）を「家事、料理、手芸」「外見」「気配り」「女性らしさ」「その他」に分けて、下記の表 3-8 にまとめた。

表 3-8　「女子力」を表す言語的標識とその表象②

言語的標識	その表象	
できる	家事、料理、手芸	料理、裁縫、家事、家庭的な行動、洗濯、手先の器用さを要する仕事
	外見	かわいらしく見せること、美しく見せること、清潔感ある行動
	気配り	気遣い、周りへの気配り、気配り、周囲に配慮した振る舞いをすること、細やかな気配り
	女性らしさ	女だからこそ持っている魅力を発揮すること、女性が得意あるいは女性らしいと考えられていること
	その他	身の回りのこと

そして、「できる」の他に慣用句の「気が利く」「気を遣う/遣える」[44]、動詞の「整う」「整える」「取れる」、評価の意味が含まれる「優れている」、存在を表す「ある」、携帯を表す「持つ」、および、評価を表す「上手」「得意」「器用」「いい」「繊細」「高い」といった言語的標識からも、「女子力」に含まれる能力の要素およびその表象がうかがえる。

【データ 3-4：言語的標識の「優れている」など】

(1) ちょっとした時に気がきく。（男性、10 代）

(2) サラダを取り分けるなど気の利いた行動が取れることや身だしなみに気を遣えること。（男性、20 代）

(3) 家事能力が優れていて、女子らしいことが得意、または好きであること。（女性、10 代）

(4) 身だしなみの女性らしさ、しぐさ、料理や裁縫ができるか、ハンカチや絆創膏を常に持っているかなど。（女性、20 代）

[44] データには、「気を使う」と記入されるものもあるが、表記を統一して「気を遣う」とまとめた。

(5) センスがいい、かわいらしいものを持っている、手が器用。(女性、20 代)
(6) 生活力がある。家事ができる。身なりがかわいく整っている。(女性、20 代)
(7) 絆創膏をもっている、料理が上手、裁縫ができる。(男性、20 代)

【データ 3-4】の下線を引いた言語的標識、および、その主語、目的語、修飾成分のコロケーションは「女子力」の能力の要素を構築しているものと言える。「気の利いた行動」が取れること、「身だしなみ」に気を遣えること、「家事能力」が優れていること、「女子らしいこと」が得意、「手」が器用、「センス」がいいということ、および「ハンカチ、絆創膏、かわいらしいもの」を持っていることは「女子力」と捉えられ、評価される。なお、今回集めたデータにおけるこのような言語的標識およびその表象は以下の表 3-9 のようにまとめることができる。

表 3-9 「女子力」を表す言語的標識とその表象③

言語的標識	その表象
優れている	家事能力、身なり
ある	清潔感、生活力、細やかさ
持つ	ハンカチ、絆創膏、かわいらしいもの
取れる、整う、整える	気の利いた行動、身なり、身だしなみ
気を遣う	お化粧やネイル・服・髪、おしゃれ、自分や他人の身だしなみ
得意、上手、いい、器用、高い、きれい	女子らしいこと、料理、裁縫、おめかし、センス、手、女性が得意そうな能力、身だしなみ

また、名詞の「能力」「力」「術」「特技」「度合い」からも、「女子力」に含まれる能力の要素およびその表象が読み取れる。以下の表 3-10 は「女子力」の能力の要素を表す言語的標識およびその表象である。

表 3-10　「女子力」を表す言語的標識とその表象④

言語的標識	その表象
能力	男性がその人を魅力的に思うような行動を選択する能力、家事や美容に関する能力、女性らしさを連想させる能力
力、術、特技、度合い	主婦力、事前準備力、なにかを可愛くする術、女性らしいもの（特技）、世間の考える女の子としての度合い

能力を表す「できる」、携帯を表す「持つ」、存在を表す「ある」、慣用句の「気が利く」「気を遣う」、動詞の「整う/整える」「取れる」、評価の意味が含まれる「優れている」「得意」「上手」「いい」「器用」「高い」「きれい」、名詞の「能力」「術」「特技」「度合い」のような言語的標識は、「女子力」は身に付けられ、評価される能力の一種として捉えられていることを示している。近藤（2014）、菊地（2016,2019）、大上他（2016）でも指摘されているように、「女子力」は生得的なものではなく、努力によって、比較短期間で、後天的に身に付けられるものであると言える。そして、これらの言語的標識に対応する表象の「家事」「料理」「裁縫」「洗濯」「気遣い」といったものから、「女子力」の下位構成要素には伝統的なジェンダー規範の要素が併存していることを見ることができる。また、これが「できる」なら、それが「優れている」なら、または、これが「上手/得意/いい」なら「女子力」と見なされ、評価されることから、「女子力」は一種の能力であると同時に、「女性らしさ」を測定する尺度でもある。

3.3.3.3　行為化された「女子力」

上記の分析では、「女子力」はジェンダーの要素と能力の要素が混在する「女性らしさ」を構築する動的なプロセス、「doing gender（ジェンダーする）」という行為、「女性らしさ」のありか、尺度であることが明らかになった。このような「女子力」が行為として具現化された場合、どのように受け取られるのかを下記の【データ 3-5】から分析する。

【データ 3-5：授受（補助）動詞】

(1) 高校の女友達に絆創膏をもらったときに女子力高いなーと言ったら、でしょーと言われました。（男性、10 代）

(2) BBQ 中で手が汚れた際に、パッとウェットティッシュをくれた人（男女は問わない）に女子力高いねって言った。（男性、20 代）

(3) 言ったことはないが、女性がさりげない気遣いをしてくれたときに、この人女子力高いなと思う。（男性、20 代）

(4) 外でティッシュをすぐに渡してくれた女の友だちに対し、誉め言葉として言ったら、謙遜していた。（女性、20 代）

(5) 同性の友達に対して、彼女がハンカチなどを貸してくれたときなどに軽い調子で「女子力高いね」や「女子だね～」などと言う。相手は笑ったりドヤ顔などをしてのってくれる。（女性、20 代）

(6) 男友達とご飯に行った際、水やおしぼりを持ってきてくれたときに「女子力高いね」とふざけて言ったりする。反応としては「でしょ?」とよく言われることが多い。（男性、20 代）

(7) 飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。（男性、20 代）

(8) 女性の友達に対して。手料理をご馳走してもらった時。感心した様子で「女子力高いね～」ありがとうと嬉しそうにしていた。（男性、20 代）

（1）から（8）までの「女子力」の使用（第 5 章で詳述）に関するデータから、「女子力」は「絆創膏をもらった」「ウェットティッシをくれた」および「してくれた」「渡してくれた」「貸してくれた」「持ってきてくれた」「取り分けてくれた」「ご馳走してもらった」で表される行為で具現化されると言える。そのうち、(1)（2）は「女子力」を表象する「絆創膏」「ウェットティッシュ」が授受の対象となり、(3) から（8）までは「水やおしぼりを持ってくる」「サラダを取り分ける」といった事態が授受の対象となる。益岡（2001 : 27-28）は、授受動詞は「単に事物の授受を表すだけでなく、通常、授受の対象である事物が当事者にとって「好ましい」ものであるという意味を表す」とし、その特徴は「事態の授受を表す補助動詞構文にもそのまま引き継がれる」と指摘する。つまり、「女子力」を象徴する「絆創膏」「ウェットティッシュ」や、「水やおしぼりを持ってくる」「サラダを取り分ける」といった「女子力」と見られる行為は受け取る側にとって好ましいもので、受け取る側は「女子力」の主体の行為から恩恵を受けたことが読み取れる。ここでは、「女子力」に絡むものや事態は好ましいものと評価されている

ことが授受（補助）動詞によって可視化されている。言いかえれば、相互行為において具現化された「女子力」は受け取る側にとって好ましいものと評価されているのである。

3.4　本章の小括

本章では、接尾辞「力」による派生語における「女子力」の位置づけを行い、「女子力」に混在するジェンダーの要素と能力の要素および、行為化された「女子力」の分析から、「女子力」の意味を分析した。

接尾辞「力」による派生語は、【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】【その他】という 4 つの分類に分けられ、【女子力】は【ありか】に位置づけられる。「女子力」の前接語はその力の持ち主を顕在化させ、前接語からその力の持ち主は誰かということが読み取れる。また、「女子力」の形成、広がり、定着において社会的要因と関わることは、「女子力」を特徴づける。これこそが「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけだと考えられる。

「女子力」に混在するジェンダーの要素および能力の要素については、まず、「女性」「女子」「女の子」に接尾辞の「らしい」「っぽい」が結び付いた言語的標識を軸に、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化し、「doing gender（ジェンダーする）」という行為を表し、「女性らしさ」のありかを示していることを明らかにした。そして、「できる」「優れている」「持つ」「ある」「整う」といった動詞、「気が利く」といった慣用句および「得意」「上手」「いい」といった形容詞を軸に分析した結果、「女子力」は能力として捉えられ、評価されることが分かった。また、その能力の内容から、「女子力」には伝統的なジェンダー規範を維持、構築する側面があることを明らかにした。最後に、所持物や行為に具現化された「女子力」は、受け取る側にとって「好ましい」ものや事態として捉えられるということが授受（補助）動詞の分析から分かった。このような意味合いを持つ「女子力」からどのような語が連想されるのか、どのような語で表されるのか。次章では、「女子力」から連想される語、「女子力」を表す語を分析する。

第 4 章　「女子力」からの連想語
－「女性」と形容詞のコロケーションとの対照から－

4.1　はじめに

本章では、「女子力」とつながりを持つ語を手がかりとして、「女子力」の特徴を明らかにすることを目的とする。ここで言う「女子力」とつながりのある語は「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語および、ジェンダーを表す「女性」を指す。

まず、4.2 節で、本章で扱うデータと分析の手順について述べる。次に、4.3 節で、「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語を示した上で、そこに見られる形容詞を取り出し、「女性」と形容詞のコロケーションの対照を行う。最後に、4.4 節で本章の小括を述べる。

4.2　データと分析手順

本節では、データと分析手順を述べる。

本章はアンケート調査によって収集されたデータおよび、言語コーパスのデータを扱う。「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語の分析ではアンケート調査から収集したデータを用いる。「女性」と形容詞のコロケーションの分析では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のデータを使用する。なお、「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語は下記の 2 つの調査項目により収集したものである[45]。

問 3 :「女子力」から連想する形容詞を挙げてください。

問 5 :「女子力」を表す形容詞を挙げてください。

分析の際に、まず、「女子力」からの連想語と「女子力」を表す語から、「女子力」と「女性らしさ」との関連および、「女子力」に関わる領域を明らかにする。そして、中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションを分析する。最後に、「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞を取り上げて、それらと中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションとの対照から、「女子力」の特徴を同定する。

---

[45] 問 4 についての分析は第 6 章に譲る。

4.3　結果と分析

本節では、調査結果と分析を示す。ここで「女子力」からの連想語と「女子力」を表す語を分けて、分析を行う。「女子力」からの連想語は「女子力」と関連のある語を把握することができる。一方、「女子力」を表す語は「女子力」に関わる属性・性質を表す語を把握できる。両方向から分析するのは、「女子力」から連想される語と「女子力」を表す語はそれぞれどのような語があり、その特徴は何かを把握したいからである。

4.3.1　「女子力」からの連想語

辻（2013：375）によると、「連想」は「ある語（句）が与えられたとき、それと関連する他の語（句）あるいは事柄が思い浮かぶ心的作用」である。「語（句）レベルの連想を特に語連想（word association）」と言い、最初に与えられる語を刺激語（stimulus word）、引き出される語を反応語（response word）」（p.375）と呼ぶ。本節では、刺激語である「女子力」からどのような反応語があるのか、つまり、「女子力」からどのような語が連想されるのかを分析する。

本節では、「「女子力」から連想される形容詞を挙げてください。」という問いに対する回答を取り上げ、「女子力」からの連想語を分析する。この調査項目においては、回答なしが 6 人、「わかりません」と回答した人が 1 人で、それらを外した 57 人（女性：28 人，男性：29 人）から回答が得られた。なお、品詞では、挙げられた語の多数は形容詞であるが[46]、形容詞ではない語または語句を挙げる人もいたので、これらの語（語句）も分析の対象とする。

今回収集したデータにおいて、2 回以上記入された「女子力」からの連想語およびその頻度を以下の表 4-1 に示す[47]。

---

[46] 本章での「形容詞」は学校文法における「形容詞」と「形容動詞」の両方を指す。

[47] 異なる表記で記入される場合、表記を統一してまとめた。例えば、表 4-1 の「可愛い」は「かわいい」と「可愛い」の両方が記入されたが、「可愛い」とまとめた。

表 4-1　「女子力」からの連想語およびその頻度

連想語	頻度（合計）	頻度（男女別）	連想語	頻度（合計）	頻度（男女別）
可愛い	36	女性：20	家庭的	3	女性：2
		男性：16			男性：1
きれい	15	女性：8	高い	3	女性：1
		男性：7			男性：2
しとやか	4	女性：2	清潔	3	女性：3
		男性：2			男性：0
美しい	4	女性：2	女の子らしい	2	女性：1
		男性：2			男性：1
優しい	3	女性：2			
		男性：1			

表 4-1 から分かるように、今回のアンケートの回答から得られた「女子力」からの連想語では、2 回以上挙げられたものには、「可愛い」「きれい」「しとやか」「美しい」「優しい」「家庭的」「高い」「清潔」「女の子らしい」がある。そこには、大きな男女差が見られなかった。

前章では、「女子力」を巡る定義・解釈における「女性らしさ」についての回答の記述を高井他（2009）の「女らしさ」に関する項目と比較した結果、「女性らしさ」は「行動」や「外見」から構築され、「女子力」はその構築する動的なプロセスを可視化することばであることを明らかにした。その動的なプロセスの結果は「女子力」からの連想語から示され、以下では、「女子力」の連想語から、「行動」や「外見」から構築される「女性らしさ」は具体的にどのようなものがあるのかについて分析したい。

前章では、「女子力」に見られる「女性らしさ」は「言葉遣い」「振舞い」「仕草」「行動」という行動的な側面および、「身だしなみ」「香り」「スカート」「ピンク」「清潔感」「髪型」という外見に関する側面によって表象されること、「女子力」に見られる「女性らしさ」のありかは「行動」や「外見」にあることを明らかにした。「女子力」を向上する努力によって構築される「女性らしさ」の具体的な特徴は「女子力」からの連想語からうかがえる。上記の「女子力」からの連想語では、「可愛い」「きれい」「しとやか」

「美しい」「優しい」「家庭的」「高い」「清潔」「女の子らしい」が観察された。高井他（2009：68）は、質問紙の自由記述欄のデータを用い、「女らしさ」に関しては「優しい、上品、気遣い・繊細、家庭的、かわいい、愛嬌、色気、美しい、控えめ、男を立てる、明るい、あたたかい、思いやり」といった項目が挙げられると指摘している。「女子力」からの連想語と高井他（2009）が挙げた「女らしさ」の共通する項目は「優しい」「可愛い」「家庭的」「美しい」が挙げられる。また、表 4-1 から、「しとやか」も「女子力」からの連想語として挙げられる。「しとやか」は「日本的な伝統の中で女らしさとして尊重され，要求されてきたような，つつましさ，やさしさ，やわらかさのような要素を重要なものとして含んでいる」（国立国語研究所 1972：286 下線筆者）ことばである。

「女性らしさ」は本来備わっている性質ではなく、つくられるもの（伊藤他 2019、中村 2001 など）[48]であることについて、先行研究ですでに指摘されている。また、「アイデンティティは不変で固定した一貫したものではなく、ディスコースの中で絶えず作られ続けることで変化し、能動的に構造されるもの」（中村 2001:112）で、ジェンダー・アイデンティティも能動的に作られるものである（中村 2001）。「女子力」も「女性らしさ」を構築する手段、資源になり、この手段や資源により、「女性らしさ」というアイデンティティを構築することができる。また、「女子力」は、「女性らしさ」が本質的なものではなく構築物であることを示す象徴的なことばだと言える。

1 回のみ記入された「女子力」から連想される語（語句）を、以下の表 4-2 にまとめた。

表 4-2　「女子力」からの連想語

性格・外見・様子	奥ゆかしい、おしゃれ、大人っぽい、こぎれい、素敵、清楚、可愛らしい、華々しい、麗華、柔らかい、麗しい、清い
家事・料理	家事、手先が器用、料理がうまい
気配り・態度	意識が高い、気がきく、きちんとした、気遣いのある、気を遣える、細かい、こまやか、誠実、丁寧、整う、まじめ、抜かりない、礼儀正しい、マメ

[48] 中村（2001）は「女性らしさ」という概念と区別するために、「女性性」という概念をつくった。

表 4-2 から、「女子力」からの連想語（語句）は主に 3 つのカテゴリーにまとめられる。まず、「奥ゆかしい」「おしゃれ」「大人っぽい」「こぎれい」「素敵」「清楚」「可愛らしい」といった【性格・外見・様子】を表す語が挙げられる。そして、「家事」「料理がうまい」「手先が器用」から、「女子力」からの連想語（語句）には【家事・料理】を表す語（語句）が挙げられる。また、「意識が高い」「気がきく」「きちんとした」「気遣いのある」「気を遣える」「誠実」「丁寧」「礼儀正しい」「マメ」といった語（語句）が示すように、「女子力」からの連想語（語句）には【気配り・態度】を表す語（語句）が挙げられる。

「女子力」に内包される内容は複雑であるように見えるが、表 4-1、表 4-2 を合わせてみると、「女子力」に内包される内容は下記の図 4-1 に示した 3 つの領域から構成されていることがうかがえる。

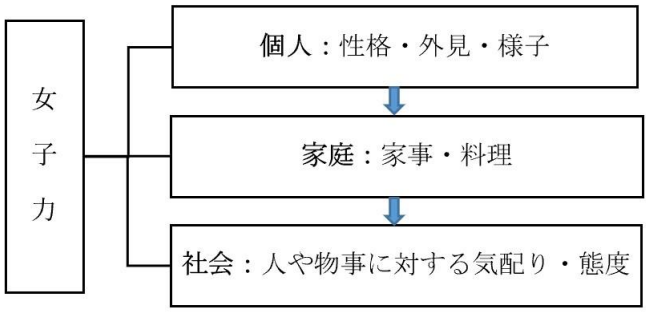

図 4-1　「女子力」の三領域

「女子力」の内容は主に図 4-1 に示した 3 つの領域に大別される。まず、「可愛い」「きれい」「しとやか」「美しい」「優しい」「奥ゆかしい」「大人っぽい」「柔らかい」といった連想語は、「女子力」には【性格・外見・様子】という内容が内包されることを示している。そして、この内容は主に「個人」の領域に関わっている。次に、「家事」「料理がうまい」といった連想語（語句）は、「女子力」には【家事・料理】という内容が内包されることを示している。この内容は主に「家庭」の領域に関わっている。最後に、「意識が高い」「気がきく」「気遣いのある」「気を遣える」「礼儀正しい」「誠実」「抜かりない」といった連想語（語句）は、「女子力」に【人や物事に対する気配り・態度】という内容が内包されることを示している。そして、これらの語（語句）が表すものは一般的

には性別を問わず、人間として望ましい【人や物事に対する気配り・態度】で、それらは能力として「女子力」に集約されることがうかがえる。また、これらの語（語句）は、主に社会において、「対他者」および「対物事」の気配り・態度ということも示している。ここでは、【人や物事に対する気配り・態度】は「社会」の領域に関わっていることが読み取れる。つまり、【人や物事に対する気配り・態度】に属する語（語句）が表す内容は、家族のメンバーを含む社会の人々とのコミュニケーションおよびやり取りに見られるものであるとともに、仕事、勉強といった社会における物事に取り組む姿勢でもある。さらに、これらは、いずれも社会における人間関係、仕事、勉強などの側面で評価されるものである。例えば、「気を遣える」「誠実」「礼儀正しい」などは上司、同僚、友達、見知らぬ人などの人とのコミュニケーションおよびやり取りに見られ評価されるもので、「抜かりない」「まじめ」「きちんとした」などは、仕事や勉強において見られ評価されるものになる。【性格・外見・様子】と同じく、【人や物事に対する気配り・態度】も人に属する特質であるが、後者はより他人とのコミュニケーションおよびやり取りにおいて、物事に対する態度の中にダイナミクス的に具現されるものに傾いている。

このように、「女子力」は【性格・外見・様子】【家事・料理】【人や物事に対する気配り・態度】という 3 つの領域と関わっている。そして、その領域は「個人」から「家庭」「社会」にまで広がっていることがうかがえる。

4.3.2 「女子力」を表す語

本節では、「「女子力」を表す形容詞を挙げてください。」という調査項目に対する回答を取り上げ、「女子力」を表す語にはどのようなものがあり、どのような特徴があるかについて分析を行う。この調査項目に対して、回答なしは 17 人、「わかりません」といった回答を記入した人は 3 人で、それらを外した 44 人（女性：23 人，男性：21 人）から「「女子力」を表す形容詞」の回答が得られた。なお、品詞では、挙げられた語の多数は形容詞であるが、形容詞ではない語（語句）を挙げる人もいるので、「女子力」からの連想語の分析対象と同じく、これらの語（語句）も分析対象とする。

今回収集したデータで、2 回以上記入された「女子力」を表す語を以下の表 4-3 に示す。

表 4-3　「女子力」を表す語およびその頻度

語	頻度（合計）	頻度（男女別）	連想語	頻度（合計）	頻度（男女別）
可愛い	14	女性：8	しとやか	3	女性：3
		男性：6			男性：0
きれい	9	女性：5	あたたかい	2	女性：0
		男性：4			男性：2
家庭的	4	女性：3	上品	2	女性：2
		男性：1			男性：0
女性らしい	4	女性：1	美しい	2	女性：2
		男性：3			男性：0

表 4-3 から、「女子力」を表す語の回答においては、「可愛い」が最も記入された回数の多い語だと分かる。次いで「きれい」となる。これは「女子力」から連想される語の上位 2 位の結果と同じである。つまり、「可愛い」「きれい」は「女子力」ということばから最も連想されやすい語であるとともに、「女子力」を最も表せる語でもある。そして、「家庭的」も「女子力」を表す語として女性にも男性にも挙げられた。また、「女性らしい」「しとやか」「あたたかい」「上品」「美しい」も「女子力」を表す語として挙げられた。表 4-3 から、「女子力」を表す語で、高井他（2009）の「女性らしさ」に関する項目と重なるものとしては、「可愛い」「家庭的」「あたたかい」「上品」「美しい」が挙げられる。「女子力」からの連想語と同じく、これらの重なる項目から、「女子力」と「女性らしさ」の関連が見られ、「女子力」を向上させることで構築された「女性らしさ」は伝統的な「女性らしさ」と重なるところがある。なお、「女子力」を表す他の語（語句）は以下の表 4-4 にまとめる。

表 4-4　「女子力」を表す語

性格・外見・様子	おしゃれ、えらい、すばらしい、ピンクチック、艶やか、主婦的、女子らしい、女性的、心優しい、清潔、優しい、
家事・料理	家事うまい、料理が上手
気配り・態度	気が利く、きちんとした、気を遣える、細やか、抜かりない

「女子力」を表す語（語句）は「女子力」からの連想語（語句）と同じく、【性格・外見・様子】【家事・料理】【気配り・態度】という 3 つのカテゴリーに分けられる。【性格・外見・様子】に当てはまる語には「女子らしい」「女性的」という直接に「女性らしさ」と結び付ける語が挙げられる。そして、「おしゃれ」「艶やか」「清潔」「心優しい」「優しい」といった様子、性格を表す語も挙げられる。また、「主婦的」という性別役割分業と関わりを持つことばも「女子力」を表す語として挙げられる。米澤（2014 : 191）は「女子力」は「「女子」として生きていくための原動力となっているものである。装いの力によって、女は「女子」となる。妻や母といった社会的役割、良妻賢母規範を軽やかに脱ぎ捨てるファッション誌の「女子力」はもっと評価されるべきであろう」と述べたが、ファッション誌という紙面から離れた「女子力」は伝統的な性別役割分業の一端が見られ、「女子力」により、「妻や母といった社会的役割、良妻賢母規範を軽やかに脱ぎ捨てる」ことはできず、「女子力」そのものは女性の社会的役割やジェンダー規範を再生産することがうかがえる。

国立国語研究所（1972）に記述されているように、形容詞の意味には、ものや人の性質や状態、動きの様子を表すものがある。4.3.1 節と 4.3.2 節の分析から、「女子力」からの連想語および「女子力」を表す語には、人の【性格・外見・様子】を表す形容詞が多いことが分かった。

「女子力」から連想される形容詞および「女子力」を表す形容詞は女性とどのような関わりを持つのかを明らかにするため、次節では、コロケーションの観点から、中立的な語感を持つ「女性」を修飾する形容詞にはどのようなものがあるのか、それは「女子力」から連想される形容詞および「女子力」を表す形容詞とどのような共通点と相違点があるのかを分析する。

4.3.3　「女性」と形容詞のコロケーション

「女性」はジェンダーを表すことばとして頻繁に使われている。具体的な使用では、下記の例に示したような連体成分に後続する「女性」の表現が数多く見られる。「女性」を修飾する連体成分においては、例（1）の「ベンチに座っている」のような動詞文も

あるが、例（2）の「美しい」のような形容詞も挙げられる[49]。後者の「形容詞＋女性」には、その女性はどのような女性であるか、つまり、女性の性質・状態を表すものがある。本節では、コロケーションの観点から、「女性」の直前にどのような形容詞がきて「女性」を修飾するのかを明らかにした上で、「女性」の直前に位置する形容詞の特徴と「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞の特徴とはどのように関わっているのかを分析する。

例：（1）ベンチに座っている女性は本を読んでいる。（作例）
　　（2）美しい女性は本を読んでいる。（作例）

4.3.3.1　「女性」に関する先行研究

本節では、女性の一般呼称である「女性」の直前にどのような形容詞が使用され、それを修飾するのかを明らかにする。女性の一般呼称として、「女性」の他に、「婦人」「女」なども挙げられる。「女性」は「婦人」「女」と比べて、どのような特徴があるのか、「女性」はどのような意味合いを担っているのかは「女性」に対する先行研究からまとめたい。

「女性」は「にょしょう」から「じょせい」に移ってきたことばである（遠藤 1983）。京極（1994）は「女性」の多用について、「意味」という実際的な側面、「語感」という感覚的な側面および「言葉と政治」の側面から論じている。まず、「女性」は成人の女性、または既婚の女性のみを指す「婦人」より、女性全体を指すことができ、意味的には「婦人」より広いと指摘している。そして、語感的には、古い感じの「婦人」、または卑俗な感じの「女」と比べて、「女性」はより新しく、改まった上品な感じがすると述べている。また、「言葉と政治」の側面から見れば、「女性」が多用されるのは、「戦後の女性の政治的、社会的地位の大きな変動を背景に、行政機関の名称等のいわば公的言語において、男女対等の用語を採用しようという意識がある」（京極 1994：21）ためで

---

[49] ここの「連体修飾」の説明については奥津（2004）を参考した。「X と N（名詞）という二つの要素があり、それが[XN]の順に並んで、X が N にかかり（修飾し）、N は X を受け（修飾され）て、N と同じ性質のまとまり、名詞句（「連体名詞句」と呼ぶ）となるような言語現象を「連体修飾」という。この場合の X を「連体成分」、N を「主名詞」と呼ぶことにする」（奥津 2004：6）。詳しくは奥津（2004）を参照されたい。
なお、本研究の「連体修飾」と関わる言語現象の呼び方は奥津（2004）に従う。

あるとする。自称・対称を含め、女性の公式的な呼び方は近代日本で「婦人」から「女性」へと推移した（鹿野 1989：10）。また、徐（2014：55）は「女性」は「女性というジェンダー」という知的な側面の意味と「新しい、中立、改まった」という情意的な側面の意味を担っている」と指摘している。このように、「女性」ということばは女性全体を指し、ジェンダーを表す語においては、より中立的な語感を持つことばであると先行研究では指摘されている。では、中立的な語感を持つ「女性」の直前にはどのような形容詞がきてそれを修飾するのだろうかを本章で分析する。

4.3.3.2　データと分析方法

本節では、「女性」のデータを現代日本語の書き言葉の全体像を把握することができる『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から抽出する[50]。テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェア KH Coder[51]で「女性」のデータから「女性」と形容詞のコロケーションを抽出して、分析する。

コロケーションの定義は立場により異なっており、堀（2009：7）はコロケーションを「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する習慣的な共起関係を言う」と定義する。山田（2007：48）はコロケーションを名詞と動詞（バラが咲く）、形容（動）詞と名詞（きれいなバラ）、副詞と動詞（ひっそり咲く）といった異なる品詞に属する語が結び付いた表現と捉えている。本研究のコロケーションは山田（2007）が指摘している形容（動）詞と名詞、具体的には形容（動）詞と「女性」が結び付いた表現を指している。

本節の分析手順としては、まず、「女性」に対する形容詞の共起ネットワーク図を出力して、データの全体像を把握する。次に、「女性」を修飾し、直前に位置する形容詞にはどのようなものがあるのかを洗い出す。最後に、「女性」と形容詞のコロケーションの特徴と「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞の特徴はどのような相違点、共通点があるのかを明らかにする。

---

[50] 検索アプリケーションは『中納言』である。そして、抽出の際、すべての年代、ジャンルを対象とした。具体的には、『中納言』の「短単位検索」で、キー「書字形出現形：女性」を入力し検索した。その結果合計 32,996 件の「女性」の用例が得られた。なお、検索日は 2018 年 4 月 25 日である。

[51] KH Coder は、樋口耕一によって開発されたテキスト型データを統計的に分析するための無料ソフトである。詳しくは樋口（2014）を参照されたい。

4.3.3.3　「女性」と共起する形容詞の全体像

KH Coder に搭載されている「関連語検索」[52]を利用して、「女性」に対する形容詞の共起ネットワーク図を出力して、全体的に「女性」はどのような形容詞と共起するのかというデータの全体像を把握する[53]。

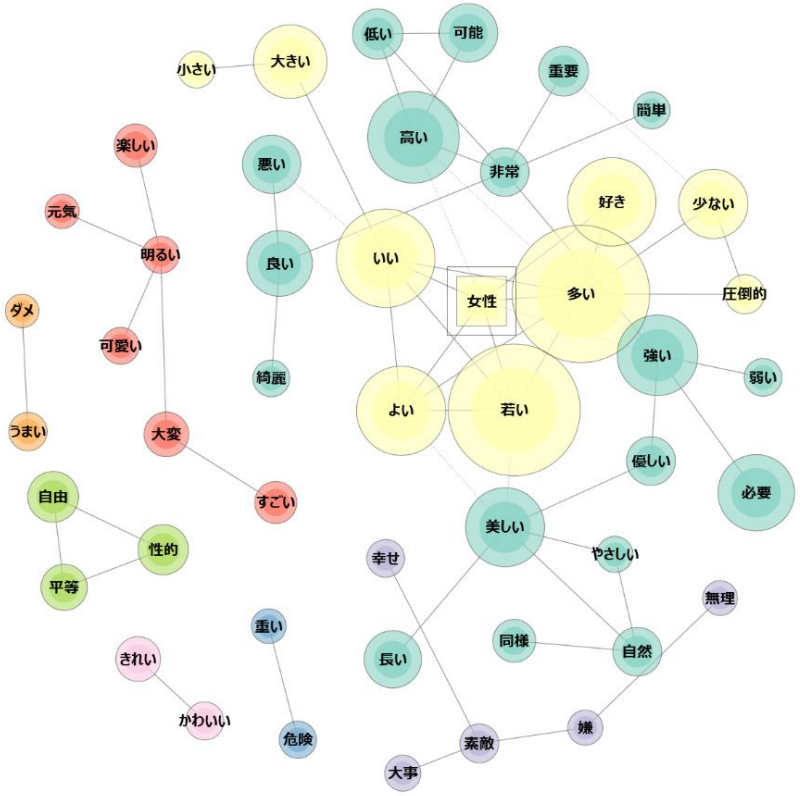

図 4-2　「女性」と関連が強い語の共起ネットワーク

樋口（2014：157）によると、共起ネットワークとは出現パターンの似通った語、すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークである[54]。出現数の多い語ほど大きい円で描画される。また、語の色分けは、比較的強くお互いに結び付いている部分が自動的に検出され、グループ分けが行われた結果を示すものである（樋口 2014：160）

---

[52] 樋口（2014）によると、このコマンドを用いれば、特定の語と強く関連しているのはどのような語か、あるいは、特定のコードと強く関連しているのはどのような語かを容易に探索できる。

[53] KH Coder の品詞体系における「形容動詞」「形容詞」（漢字を含む）「形容詞」（平仮名のみの語）を絞り込み、「女性」に対する形容詞の共起ネットワーク図を出力した。

[54] 樋口（2014）によると、近くに布置されているだけで、線で結ばれていなければ、強い共起関係はない。

[55]。「女性」と形容詞の共起ネットワークは、上の図 4-2 のような結果となった。検索条件としての「女性」は 2 重の正方形で囲んである。このネットワークは「女性」と関連の強い形容詞、すなわち「女性」を含む文からなるデータに特徴的に現れる形容詞を洗い出した結果である。上述したように、出現数の多い語ほど大きい円で描画されるため、「多い」「若い」「よい」「いい」「好き」「強い」「美しい」などが「女性」を含む文からなるデータに出現頻度が高い形容詞であると言える。そして、共起ネットワーク図から分かるように、「多い」「若い」「いい」「よい」「好き」は検索条件の「女性」と線で結ばれているので、「女性」と強い共起関係を有している。そして、「きれい」「かわいい」および、「やさしい（優しい）」「美しい」の性格や容姿を表す形容詞、力を表す「強い」「弱い」が「女性」を含む文からなるデータに特徴的に現れることがうかがえる。また、「きれい」と「かわいい」、「やさしい（優しい）」と「美しい」「強い」「弱い」は線で結ばれたので、「きれい」と「かわいい」、「やさしい（優しい）」と「美しい」「強い」「弱い」は強い共起関係を有していることが分かる。図 4-2 は、全体的には、「女性」は「多い」「若い」「よい」「いい」「好き」と強い共起関係を有することを示し、「かわいい」と「きれい」および、「やさしい（優しい）」「美しい」「強い」「弱い」は「女性」を含む文からなるデータにおいて、特徴的に現れることを示している。

4.3.3.4　「女性」の直前にある形容詞

図 4-2 は「女性」と形容詞のコロケーションの全体像で、文脈の全体から見て、「女性」がどのような形容詞と共起しているのかは分かったが、「女性」の直前にどのような形容詞が共起し、「女性」を修飾するかはまだ明らかではない。以下では、KH Coder に搭載されている「KWIC コンコーダンス」[56]を利用し、「女性」の直前に位置する語に絞り、「女性」と形容詞のコロケーションを考察する。ただし、「KWIC コンコーダンス」によって絞られた形容詞の中には、以下の例文のように「女性」の性質や様子を直接形容するとは言えない例もある。そこで、こうした例を除いて、「女性」の性質や様子を

[55] 樋口（2014）は、語の色分けはいずれも自動処理によって得られたものである。そのため、色分けに重要な意味があると深読せずに、グラフを解釈する時の補助として利用することが望ましいと指摘している。

[56] 樋口（2014）によると、「KWIC コンコーダンス」は分析対象ファイル内で抽出語がどのように用いられていたのかという文脈を探ることができる。

表す形容詞のみを取り出したものが表 4-5 である[57]。

例：(3) シングルであることに不安を感じている女性は多く、専業主婦志向が強い女性も少なくないというのが、私の実感です。(BCCWJ　PM41_01251『ダカーポ』総合/一般/総合誌)

(4) 仲のいい女性と隣同士に座って、そこから絶対動かない女性がいます。(BCCWJ　LBs1_00048『ハッピーな女性の「恋愛力」』1 哲学)

表 4-5　「女性」の直前に共起する形容詞とその頻度（頻度 5 回以上）[58]

形容詞＋「女性」（異なり語数：30）
若い（813）、美しい（103）、素敵（56）、きれい（51）、小柄（27）、可愛い（26）、素晴らしい（24）、強い（15）、新しい（12）、優しい（9）、優秀（9）、賢い（8）、知的（8）、立派（8）、いい（7）、エレガント（7）、健康（7）、ふさわしい（7）、貧しい（7）、有名（7）、大柄（6）、可愛いらしい（6）、大切（6）、不思議（6）、うら若い（5）、完璧（5）、元気（5）、しとやか（5）、真面目（5）、有能（5）

(　) 内は頻度を実数で示したものである

表 4-5 から 3 点が指摘できる。まず、直前に位置し、「女性」を修飾する形容詞においては、「若い」が最も出現頻度が高いことである。つまり、「若い女性」という形が用いられる回数が多いということである。この結果は、「女性」は「若さ」の視点から捉えられることを示している。また、「若い女性」は単に修飾・被修飾の関係にあるのではなく、「若い女性や子供たち」「若い女性を中心として」「若い女性客」のように、「若い女性」は定着度の高いカテゴリーとして用いられることが特徴的である。人間が日常生活において知覚し経験する様々な事物をグループにまとめる認識上のプロセスをカ

[57] 今回はただ主名詞である「女性」の直前に位置する連体成分が形容詞（形容詞・形容動詞）であるものを分析対象とする。「心の美しい女性」のような連体修飾は分析対象から割愛する。また、「若い女性職員」のような「若い」が人を指す「女性職員」という複合表現を修飾するものは分析対象とする。

[58] 表 4-5 の形容詞は表記を統一してまとめた結果である。例えば、「若い（813）」は「若い」および「わかい」と「女性」の共起回数を合わせてまとめた結果である。

テゴリー化という（河上 1996：27）が、「若い女性」は「女性」の下位レベルとして、「年齢」を基準に 1 つのグループにカテゴリー化されている。その実例としては、以下のものが挙げられる[59]。

例：(5) ナチュラルフードを扱う専門店も、若い女性や主婦たちでにぎわっているようです。（BCCWJ　LBj4_00016『農薬・添加物こうすれば安心して食べられる』4 自然科学）

(6) 数年前から「薬膳レストラン」と銘打った食事処が次々にオープンし、若い女性を中心としてなかなかの人気を集めているようだ。（BCCWJ OB3X_00188『こんなにヤセていいかしら』5 技術・工学）

(7) 中軽や南軽のペンションで、軽井沢気分を満喫した若い女性客は潮が引くように、都会へ引き上げて行った。（BCCWJ　LBs9_00108『軽井沢・京都殺人事件』9 文学）

2 つ目は、「女性」は「美しい」「きれい」「小柄」「可愛い」「可愛いらしい」「優しい」「大柄」「真面目」「エレガント」「しとやか」という容姿、性格、様子を表す語と共起している点である。今回の調査結果では「若い」に次いで、「女性」は「美しい」と共起する回数が多い。佐竹（2011）は『広辞苑』や『大辞林』クラスの中辞典の収録語には「美女・美人・ぶす」のように美醜の観点から女性を定義した語が多いと指摘している。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に出現した「女性」と形容詞のコロケーションにも同じ傾向が見られる。3 つ目として、「女性」は「素晴らしい」「優秀」「立派」「知的」「賢い」「有能」「完璧」および、「強い」という形容詞と共起することが挙げられる。このことは、中立的な語感を持つ「女性」の直前に位置する形容詞はバリエーションに富んでいて、「女性」は能力から捉えられ、評価されることを示している。

[59] 例文中の考察対象の表現には実線の下線を施す。また、考察対象以外の何らかの注目すべき表現には点線の下線を付す。

4.3.4　「女性」と形容詞のコロケーションと「女子力」

本節では、「女性」と形容詞のコロケーションおよび「女子力」から連想される形容詞と「女子力」を表す形容詞を比較し、その相違点および共通点を分析する。

「女子力」から連想される形容詞と「女子力」を表す形容詞および「女性」を修飾する形容詞においては、「美しい」「可愛い」「きれい」「優しい」「しとやか」が共通するものとして挙げられる。そして、「女子力」から連想される形容詞と「女性」を修飾する形容詞においては、「素敵」「可愛らしい」、「女子力」を表す形容詞と「女性」を修飾する形容詞においては、「素晴らしい」が共通している。これらから、「女子力」に内包される【性格・外見・様子】は「女性」ということばの直前に位置し、それを修飾する語と共通しているところがあって、「美しい女性」「可愛い女性」「きれいな女性」「優しい女性」といった様々な視点からカテゴライズされた「女性」の特質が「女子力」ということばに集約されることがうかがえる。

「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞および「女性」と形容詞のコロケーションの共通点としては、いずれも「女性らしさ」に関する項目と重なっている部分があることが挙げられる。その共通点を以下の図 4-3 に示す。

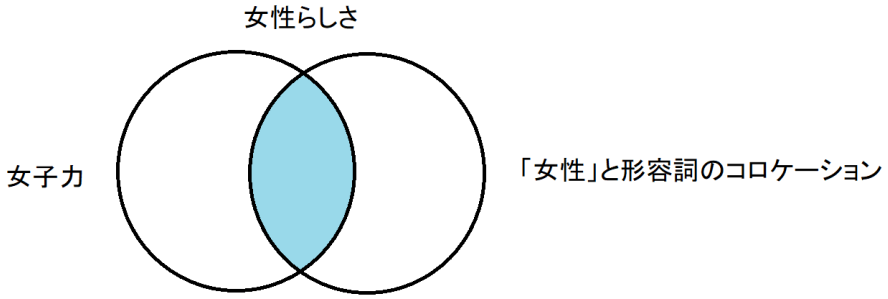

図 4-3　「女子力」と「女性」と形容詞のコロケーション

「女性」と形容詞のコロケーションと「女子力」から連想される形容詞と「女子力」を表す形容詞では、特徴的な違いとしては、「若い」という項目が挙げられる。「女性」は「若い」と共起する頻度が高いことが表 4-5 から分かるが、「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞には「若い」または「若さ」を表す語はなかった。この違いが見られる原因は 2 つあると考えられる。まず、「若い女性」が 1 つの定着度の高いカテゴリーとして捉えられていることから、「若い」と「女性」の共起回数が多くな

ると言える。2 つ目としては、「女子力」は能力の要素を持っていて、年齢を問わず、誰にでも見られる能力と考えられることが挙げられる。4.3.1 節で明らかにしたように、「女子力」は 3 つの領域と関わっている。その中の領域、特に、「気が利く」「気を遣える」「誠実」「丁寧」といった【人や物事に対する気配り・態度】の領域は年齢と関係なく、誰にでも見られる特徴であるので、「女子力」と「若さ」を表すことばのつながりが弱いと言える。

4.4　本章の小括

本章では、「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語に着目して分析した結果、「女子力」は【性格・外見・様子】【家事・料理】【人や物事に対する気配り・態度】という三領域から構成されていることが明らかになった。そして、「女子力」は、「女性らしさ」が構築され、作られるものを示していることばである。また、「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞をピックアップして、中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションと比較した結果、「女性」は「若い」と共起頻度が高いが、「女子力」と「若さ」を表すことばのつながりが弱いことが分かった。そこから、「女子力」は年齢に関わらず、誰にでも見られる能力として捉えられていると言える。

第 5 章　「女子力」の使用の様相

5.1　はじめに

「女子力」ということばは新語・流行語として誕生し、定着してきた。インターネットや雑誌、テレビといったメディアに飛び交っている一方、「女子力高いね」「女子力だね」のような表現は日常生活でもよく使われている。本章では、日常生活における「女子力」の使用に焦点を当て、「女子力」の使用の様相を明らかにしたい。

まず、5.2 節で、本章で扱うデータと分析方法について述べる。次に、5.3 節で「話し手」の視点から、「女子力」を使う相手[60]、「女子力」を使う対象となる事柄（「女子力」の対象）[61]、具体的な表現およびそれを使う意図、相手の反応などを示す。続いて 5.4 節では、「聞き手」の視点から、「女子力」を使った人[62]、「女子力」と言われる対象となった事柄（「女子力」の対象）、具体的な表現、意図、反応などを示す。そして、5.5 節では、「女子力が高いね」に対する応答に焦点を当てた分析を行う。最後に、5.6 節で本章を小括する。

5.2　データと分析方法

本章では、「女子力」についてのアンケート調査における以下の 3 つの調査項目から得られたデータを扱い、分析を行う。

問 6 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。

問 7 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使われたことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方でその時の自分の反応を具体的に教えてください。

---

[60] 誰に対して「女子力」を使ったかということである。
[61]「女子力」ということばによって形容されたもの・行為などを指す。
[62] 本研究の「「女子力」を使う/使用する」および「「女子力」が使われる/使用される」における「女子力」は具体的には「女子力」およびそれを含むことばを指している。例えば、「女子力が高いね」などである。

問 8 :「女子力が高いね」と言われたら、それに対しての返事はしますか。するなら、どのような発話をしますか。しないなら、その理由を教えてください。

この 3 つの調査項目から収集した文字データには、下記の例が示すように、引用が用いられながら、記述されたものが多い。「引用」という実践はメタ語用に位置づけられ（坪井 2016）、他の人または自分自身の以前のどこかでの語用をもとのコンテクストから切り離して、「再現（レプリカ）/具現化」する言語使用である（坪井 2016、小山 2009、Silverstein1993）。下記の例では、書き手が経験を想起しながら、自分自身の語用または他の人の語用を引用し、状況を描写しながら、「女子力」が使われるコンテクストを再現している。本章では、「引用」および「女子力」の使用を巡る当時の状況の描写に注目しながら、「女子力」の使用の分析を進めた。

例：（1）飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。
（2）母に女子力を磨きなさいと軽く言われた。面倒くさいな、と感じた。
（3）あんたも真似しろ！と冗談交じりに言う。

まず、5.3 節では、問 6 から得られたデータを取り上げ、「話し手」の視点から見る「女子力」の使用を分析する。次に、5.4 節では、問 7 から収集したデータを用い、「聞き手」の視点から見る「女子力」の使用を分析する。さらに、5.5 節では、問 8 から集めたデータを扱い、「女子力が高いね」に対する応答を分析する。なお、本研究の「話し手」および「聞き手」の定義は下記の通りである。

話し手：「女子力」の使用者を指す。
聞き手：「女子力」の対象となる主体を指す。

5.3 「話し手」の視点から見る「女子力」の使用

本節では、「話し手」の視点から見る「女子力」の使用を分析する。

5.3.1　データ

対象とするデータは、「「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。」という問いに対する回答である。回答なしが 11 人、「使ったことがない」または「あまり使わない」といった回答を記述した人が 13 人で、40 人から「話し手」の視点から見る「女子力」に関するメタ語用的データが得られた。そのメタ語用的データには、下記の例のように[63]、相手、「女子力」の対象、使用した表現の引用といった当時の状況に言及しながら、記述されたものが多い。以下の分析では、相手、「女子力」の対象、使用した表現および使用する意図、相手の反応の順で分析を進める。

例：飲み会の場で[サラダを取り分けてくれた男友達]にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。

5.3.2　相手

表 5-1　「女子力」を使用した相手と回答者数（数値は実数）

女性回答者		男性回答者	
相手	回答者数	相手	回答者数
女性	14	女性	7
男性	2	男性	8
男女問わず	1	男女問わず	1
言及なし	5	言及なし	2

表 5-1 は「女子力」を使用した相手の性別と回答者数を男女別にまとめたものである。表 5-1 から、女性は「女子力」を同性である女性に使ったという回答が多いこと、男性

[63] 本節のデータにおいて、枠で囲まれているのは、「女子力」を使った相手および「女子力」の対象となった事柄で、二重下線を引いているのは「女子力」を使用した具体的な表現の引用および引用動詞である。また、下線を引いているのは、「女子力」と言った後、相手の返事の具体的な表現の引用、引用動詞および相手の反応である。

は同性である男性に使ったという回答と異性である女性に使ったという回答が大凡同数であることが分かる。

表 5-2　「女子力」を使用した相手との関係と回答者数（数値は実数）

女性回答者		男性回答者	
相手	回答者数	相手	回答者数
友達	16	友達	10
言及なし	6	言及なし	8

表 5-2 は「女子力」を使用した相手との関係と回答者数を男女別にまとめたものである。表 5-2 から、女性も男性も友達に「女子力」を使うという回答が多いことが分かる。

表 5-1 および表 5-2 から、性別では、女性も男性もそれぞれ同性および異性に「女子力」を使うが、今回の調査範囲では、女性は異性である男性より、同性である女性に対して使うことが多いことが分かった。また、女性も男性も自分の友達に「女子力」を使うことが多いと言える。

5.3.3　「女子力」の対象

本節では、「女子力」の対象、つまり、相手に属するどのようなものや行為に向けて、「女子力」を使うのかを分析する。その上で、女性に対して用いられた「女子力」と男性に対して用いられた「女子力」の相違点を示す。

データにおける「女子力」の対象を観察すると、以下の例に示すように分類できる。

例：(1) ハンカチを持っていたり、ボタンが取れたときにさっと裁縫セットを取り出してボタンをつけたりしている女の子を見たときに女子力が高いと褒める。

「ハンカチを持つ」➡【所持物】

「裁縫セットを取り出す、ボタンをつける」➡【所持物】【器用さ】

(2) おしゃれな人に対して女子力高いね、と。

おしゃれ➡【外見】

(3) 女性の友達に対して。手料理をご馳走してもらった時。感心した様子で「女子力高いね～」ありがとうと嬉しそうにしていた。
手料理をご馳走してもらう➡【料理】【授受行動】

(4) 飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。
サラダを取り分けてくれる➡【授受行動】

上記の例から分かるように、1 つのデータには複数の事柄が見られる。例えば、例 (1) には、【所持物】と【器用さ】がそれぞれ観察できる。例 (3) から【料理】と【授受行動】がそれぞれ観察される。そして、【所持物】という事柄に属する項目はその【所持物】だけではなく、その「所持物を持つ」という行為も含まれる。また、「手料理をご馳走してもらう」といった授受が伴うデータは【料理】および【授受行動】にそれぞれに分類できる。ここで「持つ」「してもらう」という行為を強調するのは、第 3 章で述べたように、「女子力」はものだけではなく、行為にも具現化されているためである。

このような分類方法を用い、今回のデータにおいて「女子力」と見なされるものや行為を【所持物】【料理】【器用さ】【外見】【授受行動】という 5 つのカテゴリーに分けた。各カテゴリーおよびその定義を表 5-3 に示す。

表 5-3 「話し手」から見た「女子力」の対象のカテゴリーおよび定義

カテゴリー	定義
所持物	相手が持っているものおよびそれに関わる行為
料理	食べ物およびそれに関わる行為
器用さ	裁縫などの手芸に関わるものおよびそれに関わる行為
外見	髪型、服装、容貌、ファッションなどに関わるものおよび行為
授受行動	利益が伴う行動

以下では、「女子力」と見なされる対象となる事柄を分析する。まず、データにおいて上記の 5 つの事柄に当てはまる項目の全体像を示す。その上で、使われる相手の男女

別に分析する。データにおける「女子力」の対象の全体像は以下の表 5-4 に示した通りである。

表 5-4　「話し手」の視点から見た「女子力」の対象（全体像）[64]

所持物	絆創膏（を常備している）、ハンカチ（を持つ/出す）、裁縫セット（を取り出す）、ティッシュ（を持つ）、化粧品、メイク（を持つ）
料理	手料理、お弁当（を作る）、ケーキ（を焼く）、料理（を作る/がうまい）、お菓子作り好き、弁当の具材は冷凍食品ではない、手作り料理（の写真を SNS に）、ケーキを作るのが趣味、お菓子づくりが趣味、料理（が出来る/得意）
器用さ	アクセサリーを手作りするのが趣味、ボタンをつける、手芸（がうまい）、作ったイヤリングが可愛い
外見	おしゃれ、かわいらしさ、香り、毎日ヘアアレンジをしている
授受行動	絆創膏をもらう/くれる、気遣いをしてくれる、手料理をご馳走してもらう、ティッシュを渡してくれる、ウェットティッシュをくれる、ハンカチなどを貸してくれる、水やおしぼりを持ってきてくれる、サラダを取り分けてくれる、ハンカチをあげる

表 5-4 から、「話し手」は「絆創膏（を常備している）」「ティッシュ（を持つ）」「化粧品」という相手の所持物およびそれに関わる行為に向けて、「女子力」を使うことが分かる。そして、「手料理」「ケーキを作るのが趣味」「料理（が出来る/得意）」という相手の料理およびそれに関わる行為に向けて、「女子力」を使うことも読み取れる。また、「ボタンをつける」「手芸（がうまい）」「おしゃれ」「作ったイヤリングが可愛い」という相手の「器用さ」と「外見」およびそれらに関わる行為に向けて、「女子力」を使うことも分かる。最後に、「絆創膏をもらう/くれる」「気遣いをしてくれる」「手料理をご馳走してもらう」「ティッシュを渡してくれる」という授受が伴う行動に対して、「女子力」を使うことが分かる。表 5-4 は「女子力」とされる事柄の全体像であるが、それを

[64] ここの「全体像」には、相手の性別に言及せず、記入されている「女子力」の対象となる事柄も含まれる。

男女別に見れば、どのような異なりがあるだろうか。以下の分析でそれを示したい。

表 5-5　「女子力」の対象（女性に）

所持物	絆創膏、ハンカチ（を持つ）、裁縫セット（を取り出す）、ティッシュ、化粧品
料理	手料理、お弁当（を作る）、ケーキ（を焼く）、料理（を作る/がうまい）、お菓子作り好き
器用さ	ボタンをつける、手芸（がうまい）
外見	かわいらしさ、香り、毎日ヘアアレンジをしている
授受行動	絆創膏をもらう/くれる、気遣いをしてくれる、手料理をご馳走してもらう、ティッシュを渡してくれる、ウェットティッシュをくれる、ハンカチなどを貸してくれる

表 5-5 から、「話し手」は「女子力」を女性の所持物、料理、器用さ、外見、授受行動に対して使っていることが分かる。「女性」の「女子力」は、【所持物】【料理】【器用さ】【外見】【授受行動】に関わる事柄に表れると解釈できる。

表 5-6　「女子力」の対象（男性に）

所持物	ハンカチ（を持つ/出す）
料理	手作り料理（の写真を SNS に）、お弁当（を作る）、ケーキを作るのが趣味、お菓子づくりが趣味、料理（が出来る/得意）、お菓子作り好き
授受行動	水やおしぼりを持ってきてくれる、サラダを取り分けてくれる、ウェットティッシュをくれる、ハンカチをあげる

一方、表 5-6 から、「話し手」は、男性に対しては「女子力」を所持物、料理、授受行動に向けて使っていることが分かる。男性の「女子力」は【所持物】【料理】【授受行動】に表れている。ここから、男性に向けて「女子力」が使える範疇は女性より狭いことが分かる。以下の表 5-7 にそれを示す。

表 5-7　男女の「女子力」の比較

女性	男性
所持物、料理、授受行動、器用さ、外見	所持物、料理、授受行動

【所持物】

まず、「話し手」は相手の女性および男性の【所持物】に対して、「女子力」を使うことが共通している。具体的な所持物としては「ハンカチ」「ティッシュ」「絆創膏」「化粧品」が挙げられる。「女子力」は「ハンカチ」などのものに表れるだけではなく、それを「持つ」「出す」という行為にも表れていると言える。

【料理】

そして、「話し手」は相手の女性および男性の【料理】に対しても、「女子力」を使う。その具体的な表れには、「ケーキを焼く」「手作り料理の写真を SNS に」「お弁当を作る」「お菓子づくりが趣味」「料理ができる/料理が得意」といったものが挙げられる。

【授受行動】

もう 1 点、共通しているのは、「話し手」が相手の女性および男性の【授受行動】に対して、「女子力」を使うということである。その具体的な表れ方は授受（補助）動詞の使用が特徴的である。例えば、「気遣いをしてくれる」「ティッシュをすぐに渡してくれる」「水やおしぼりを持ってきてくれる」「絆創膏をくれる/もらう」「サラダを取り分けてくれる」というものが挙げられる。第 3 章で述べたように、これは行為化された「女子力」で、授受（補助）動詞によって表されているやり取りから、「女子力」の行為性が見られる。

【外見・器用さ】

今回のアンケート回答によって得られた「女子力」の使用に関するデータにおいては、「話し手」は相手の女性だけに対して【外見】【器用さ】について「女子力」を使う。その具体的な表れとしては、「かわいらしさ」「香り」「ボタンをつける」といったものが挙げられる。つまり、女性の「女子力」には【外見】および【器用さ】に関わるものが内包されるが、男性の「女子力」には、【外見】と【器用さ】に関わる事柄が含まれな

い。

上記の分析から、「話し手」が女性の【所持物】【料理】【器用さ】【外見】【授受行動】に対して「女子力」を使うことが分かる。また、これらのカテゴリーに当てはまる「ハンカチ（を持つ)」「裁縫セット（を取り出す)」「ボタンをつける」「お弁当/料理（を作る)」「かわいらしさ」「香り」「気遣いをしてくれる」などの事柄は、「女性らしさ」および「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性別役割分業[65]において、女性が担当することが多い項目とつながっていることが読み取れる[66]。言い換えれば、回答者である「話し手」は女性の「女性らしさ」につながる項目および伝統的な性別役割分業では、女性が担当することの多い事柄に向けて、「女子力」を使う傾向がうかがえる。一方、男性に向けて「女子力」が使える範疇は女性より狭く、回答者である「話し手」は【所持物】【料理】【授受行動】のみに向けて「女子力」を使うが、「ハンカチ（を持つ)」「サラダを取り分けてくれる」「料理が出来る」「お菓子づくりが趣味」といった具体的な事柄から揺れるジェンダー規範の一端がうかがえる。

5.3.4　表現および意図

本節では、「女子力」の使用を巡るメタ語用的データから、「女子力」を使用した表現、意図および相手の反応を分析する。「女子力」を巡るメタ語用的データには、下記の例のように、引用が用いられながら記述されたものが多い。

例：友達の手料理を食べて「女子力高いね」と言った。相手は嬉しそうだった。

このような引用を用いた記述は、女性にも男性にも観察される。女性と男性の回答における引用句の内容から、「女子力」を使用した表現は、以下の①から③までの 3 つの形にまとめられた。

---

[65]『新社会学辞典』によれば、「性別分業」は、「男女の性別役割の分化を、労働における分業という観点から捉えるとき、それを性別分業という。この定義からすれば、性別分業という語は、かなり広い現象に使用することができるが、通常は近代社会における「男は仕事、女は家庭」といった家族内での夫婦の役割分化に対応させた、市場労働と家事労働の夫婦間での分業」（p.871）を指す。

[66]「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性別役割分業においては、「女子力」と見なされる「ボタンをつける」「お弁当/料理（を作る)」は女性が担当することが多いと考えられる。

① 女子力ある（ね/よね）（女性・男性）

② 女子力高い（な/ね）（女性・男性）

③ 女子力貸して（女性）

女性の回答からは①～③の表現が、男性の回答からは①②の表現が見られた。これらから、「女子力」は高さを表す「高い」、存在を表す「ある」とコロケーションを有していることが分かる。また、女性の回答の場合には、「女子力」と「貸す」とのコロケーションも見られた。

女性、男性の記述における引用動詞は「言う」「ほめる」「頼む」「使う」という 4 種にまとめられる[67]。また、引用に伴う当時の文脈の描写および相手の反応の記述においては、「冗談」「感心」「嬉しそう」といった言語的標識が用いられている。ここで男女別にデータを提示し、分析を進めたい。下記の【データ 5-1】【データ 5-2】は女性、【データ 5-3】【データ 5-4】は男性の具体的な記述である。

【データ 5-1：女性➡女性】

(1) ハンカチを持っていたり、ボタンが取れたときにさっと裁縫セットを取り出してボタンをつけたりしている女の子を見たときに女子力が高いと褒める。（女性、20 代）

(2) 友達の手料理を食べて「女子力高いね」と言った。相手は嬉しそうだった。（女性、10 代）

(3) トイレで手を洗う時ハンカチを忘れたので友達に「女子力貸して」と頼んだことがある。ハンカチ=女子力の象徴として女子力を貸してと言った。（女性、20 代）

【データ 5-1】の（1）における引用動詞の「褒める」および（2）における相手の反応としての「嬉しそう」は、女性は同性である女性に対して「女子力が高い」を「ほめ」の効果のあることばとして使うことを示している。その「ほめ」の対象は「女子力」を表象する「ハンカチを持っていること」「裁縫セットを取り出してボタンをつけること」および「手料理」である。「女子力」と「貸す」のコロケーションが見られる（3）は、「女子力貸して」の形で使われるデータである。その貸し借りの対象は「ハンカチ」で

[67] データにおいては、「言ったら」「言った」「褒めたら」「褒めた」などの形で記入されているが、ここでは「言う」「ほめる」「頼む」「使う」という 4 種にまとめた。

ある。【データ 5-1】から、「女子力」を使用した記述には、「女子力」を象徴する相手の所持物や行為を評価する表現が見られるだけではなく「女子力」を貸し借りの対象とする依頼表現も見られることが分かる。これらの表現から「女子力」は外から評価される能力であると同時に、貸し借りのような相互行為の対象であるということも言えるだろう。

【データ 5-2：女性➡男性】

(1) 男の友達。料理が出来るなど。いや、男子だから。という反応。（女性、20 代）

(2) 男性の友人に、料理が得意だということに対して使った。そんなことないよと言った。（女性、20 代）

女性は男性に対して使用した具体的な表現については言及していないが、相手に関わる【料理】という事柄に向け、「女子力」を使うということが【データ 5-2】から読み取れる。そして、「いや、男だから」という話し手（書き手）が記入した相手の反応から、男性は「女子力」と言われると、否定（「いや」）および説明（「男だから」）を表す言語形式で回答することが分かる。

【データ 5-3：男性➡男性】

(1) 飲み会で冗談として、男性にも「女子力あるね/高いね」という旨の発言をした。その場の冗談として受け取られた。（男性、20 代）

(2) 男友達とご飯に行った際、水やおしぼりを持ってきてくれたときに「女子力高いね」とふざけて言ったりする。反応としては「でしょ?」とよく言われることが多い。（男性、20 代）

(3) 飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。（男性、20 代）

(4) ケーキを作るのが趣味の男の友達に「女子力があるね」と言いました。相手は「そんなことないよ」と謙遜していました。女子力は本来女子に使われる言葉なので、冗談に近かったです。（男性、20 代）

5.3.2 節の表 5-1 から、今回の調査範囲では、男性の 8 人は、同性の男性に対して「女

子力」を使用していることが分かった。そのうちの半数の 4 人は、【データ 5-3】のように「冗談」または「ふざけて」と発話意図に言及している。男性が男性に対して「女子力」を使用する時には、その場の「冗談」として、または、その場で「ふざけて」言う場合が多いことが分かる。また、引用標識の「ほめた」や、話し手（書き手）が解釈した相手の反応「照れていた」「「そんなことないよ」と謙遜していました」から、「女子力あるね」を「ほめ」の効果のあることばとしても使っていることがうかがえる。つまり、男性は同性の男性に対して、「女子力」を「冗談としてのほめ」として使用すると言えるだろう。

一方、男性は、女性に対して「女子力」を使う発話意図には言及していないが、下記の【データ 5-4】に表れる「感心」「ありがとうと嬉しそうにしていた」「照れくさそう」といった相手の反応の記述から、「女子力高いね」を「ほめ」の効果のある発話として使用していると言える。

【データ 5-4：男性➡女性】

(1) 女性の友達に対して。手料理をご馳走してもらった時。感心した様子で「女子力高いね～」ありがとうと嬉しそうにしていた。（男性、20 代）

(2) 毎朝お弁当を作っているクラスの女の子に「女子力高いね」と感心するように言いました。照れくさそうな反応をしました。（男性、20 代）

このように、「男性」は同性の男性に対しても異性の女性に対しても、「女子力高いね/あるね」を「ほめ」の効果のあることばとして使うところは共通するが、同性の男性に対しては、それを「冗談」の効果を持つことばとして使う点が特徴的である。「女子力」は、一種の能力として、その形式の「女子」が表すジェンダーの境界線を越え、男性のジェンダー領域にも入って男性に対しても用いられる。しかし、元々女性のジェンダー領域に属するものだという認識は、男性に対して「女子力」を用いることへの距離感を生み、それが「冗談」「ふざけて言う」につながっていると言える。このことは、【データ 5-3】に挙げた男性の「女子力は本来女子に使われる言葉なので、冗談に近かったです」という「女子力」に対する解釈によく表れている。

5.3.5　本節のまとめ

まず、性別に関しては、女性も男性も相手の性別を問わず、「女子力」を使うことが分かった。相手との関係に関しては、友達に使うことが多い。そして、「女子力」の対象に関しては、女性に対しては【所持物】【料理】【外見】【器用さ】【授受行動】という事柄に向け、男性に対しては【所持物】【料理】【授受行動】という事柄に向け、「女子力」を使うことが分かった。また、具体的な表現では、1)「女子力ある（ね/よね)」、2)「女子力高い（な/ね)」、3)「女子力貸して」が観察された。さらに、引用における引用標識の「ほめた」、および、その引用を巡る描写における「冗談」「ふざけて言う」といった言語的標識を軸にした分析から、「女子力あるね」「女子力高いね」などの表現を、女性は同性の女性に対して「ほめ」の効果があることばとして使うが、男性はそれを「冗談としてのほめ」として同性の男性に使うことが分かった。この違いから、男性が「女子力」に対して持つ距離感が垣間見える。

本節では、「話し手」（使う側）の視点から、「女子力」はどのように使われているのか、男女別にその特徴を分析した。「話し手」の視点から、「女子力」という語を使用した表現は「女子力ある」「女子力高い」「女子力貸して」というように「女子力」を評価する時および「女子力」を貸し借りの対象として捉える時に使われる表現のみが見られた。そして、「話し手」の女性は「女子力」を「ほめ」の効果を持つことばとして同性の女性に使い、「話し手」の男性は「女子力」を「ほめ」「冗談としてのほめ」として同性の男性に使うことを明らかにした。では、「聞き手」（使われる側）の視点から見て、「女子力」はどのような使用の様相を呈しているのだろうか。また、それは「話し手」の視点から見た「女子力」の使用の様相と同じなのだろうか、次節で分析する。

5.4　「聞き手」の視点から見る「女子力」の使用

5.3 節では、「話し手」（使う側）の視点から、「女子力」の使用の特徴を男女別に分析した。「聞き手」（使われる側）の視点から見て、「女子力」はどのような使用の様相を呈しているのだろうか。また、それは「話し手」の視点から見た「女子力」の使用の様相と同じなのだろうか。本節では、「聞き手」の視点から「女子力」の使用の様相を明らかにする。そして、「話し手」から見た「女子力」の使用の様相と「聞き手」の視点から見た「女子力」の使用の様相の共通点と相違点を論じたい。

5.4.1　データ

本節は、下記の調査項目に対する回答をデータとして取り上げて、分析する。

問 7 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使われたことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方でその時の自分の反応を具体的に教えてください。

この問いに対する回答では、回答なしは 15 人、「覚えていません」「言われたことはないです」といった回答を記述した人は 23 人で、26 人から「女子力」を巡る語用およびそれに関する解釈的なデータが得られた。そのデータには下記の例のように、回答者（聞き手）に対して①「女子力」を使用した人、②「女子力」ということばによって形容されたもの・行為など、③「女子力」を使用した表現、④「聞き手」の反応といった当時の状況に言及しながら記述されたものが多い[68]。本節では①～④に着目して、「聞き手」の視点から見た「女子力」の使用の様相を明らかにしていく。

例：（1）男性の友人①に ハンカチを使っていて②言われた。ありがとうと言った④。（女性、20 代）

（2）異性の友人①に女子力あるな③と言われたが、まぁ嬉しかった④。（男性、20 代）

5.4.2　分析

5.4.2.1　相手

表 5-8 は「女子力」ということばを使った人、つまり、「聞き手」に対して誰が「女子力」ということばを使用したかを男女別にまとめたものである。

[68] 枠で囲まれているのは、「聞き手」に対して「女子力」を使用した人および「女子力」の対象となった事柄で、二重下線を引いているのは「女子力」を使用した具体的な表現の引用および引用動詞である。また、下線を引いているのは、「女子力」と言われた後、「聞き手」の返事の具体的な表現の引用、引用動詞および反応である。

表 5-8　「女子力」を使用した人と回答者数（数値は実数）

女性回答者		男性回答者	
使用した人	回答者数	使用した人	回答者数
女性	3	女性	4
男性	2	男性	0
男女問わず	3	男女問わず	1
言及なし	9	言及なし	4

表 5-8 から、女性は同性である女性にも異性である男性にも「女子力」を使われたと回答していることが分かる。これは 5.3 節で観察された「話し手」の視点から見た女性の「女子力」を使う相手の性別の分布と同じ傾向を示している。一方、男性では、「男女問わず」と回答した人はいるが、男性から「女子力」を使われたと回答した人はいなかった。

表 5-9　「女子力」を使用した人との関係と回答者数（数値は実数）

女性回答者		男性回答者	
使用した人	回答者数	使用した人	回答者数
友達	10	友達	3
母	1	彼女	1
言及なし	6	言及なし	5

表 5-9 は「女子力」を使用した人と「聞き手」の関係をまとめたものである。表 5-9 から、今回の調査範囲では、「友達」から「女子力」を使われる場合が最も多いことが分かった。また、「目上の人（母）」から使われたという回答も 1 つあった。男性の場合は、女性と同じく、相手との関係に言及したデータでは「友達」から「女子力」を使われたとする回答が多い。今回の調査範囲から、回答者の「友達」「母」「彼女」が回答者に対して「女子力」を使用したということが分かった。これらの人はいずれも回答者と親しい関係にあり、遠慮なく回答者を「女子力」で評価することができるということが読み取れる。

5.4.2.2 「女子力」の対象

本節では、「女子力」を使われる対象となる事柄、つまり、「聞き手」のどのようなものや行為に向けて、「女子力」が使われたのかを分析する。その上で、5.3 節の結果と比較する。

データにおける「女子力」の対象を観察すると、5.3 節と同じく以下の例に示すように分類できる。

例：(1) ティッシュを差し出したら、女子力たかいね。といわれた。うれしかった。
「ティッシュを差し出す」➡【所持物】

(2) 髪型を可愛くした時に「女子力高いな」と言われて「ありがとう」と。
「髪型を可愛くする」➡【外見】

(3) 職場や大学に弁当を作って行ったら友達(男女)に言われた。また、字や絵、デコレーションがうまいので様々な場面で言われる。特に女子力という言葉自体には反応しない。
「弁当を作る」➡【料理】
「字や絵、デコレーションがうまい」➡【器用さ】

このような分類方法を用い、今回のデータに見られる「女子力」とされるものや行為を【所持物】【料理】【器用さ】【外見】【姿勢】【その他】という 6 つのカテゴリーに分けた。各カテゴリーおよびその定義を表 5-10 に示す。

表 5-10　「聞き手」の視点から見た「女子力」の対象のカテゴリーとその定義

カテゴリー	定義
所持物	自分が持っているものおよびそれに関わる行為
料理	食べ物およびそれに関わる行為
器用さ	裁縫などの手芸に関わるものおよび行為
外見	髪型、服装、容貌、ファッションなどに関わるもの、描写および行為
姿勢	体の構えなど
その他	その他

また、各カテゴリーに当てはまる具体的な事柄は表 5-11 のようにまとめることができる。

表 5-11　「女子力」の対象[69]

女性	所持物	ティッシュ（を差し出す）、ハンカチ（を持つ/使う/差し出す）
	料理	料理教室に通う、弁当（を作る）、お菓子（を作る）、自炊する
	器用さ	字、絵、デコレーションがうまい
	外見	髪型（を可愛くする）、服装
	姿勢	あぐらをかく
	その他	整理整頓が苦手、スポーツが得意、節約
男性	所持物	絆創膏（を持つ/渡す）、ティッシュやハンカチ（を持って歩く）、ホチキス（を貸す）
	料理	お菓子（を作る）、お菓子作りが好き、料理をする
	器用さ	ブックカバーを新聞紙で自作する

[69] 表 5-11 の「あぐらをかく」「整理整頓が苦手」「スポーツが得意」は「女子力」と見なされず、「女子力」の欠如と指摘される事柄であるが、「女子力」ということばの対象となった事柄なので、表 5-11 にまとめた。

表 5-11 から、女性は【所持物】【料理】【器用さ】【外見】【姿勢】【その他】について「女子力」を使われているが、男性が「女子力」を使われたのは【所持物】【料理】【器用さ】についてだけであることが分かる。

「ティッシュ」「ハンカチ」「絆創膏」といったものを持ったり、使ったりする事柄について女性も男性も誰かに「女子力」と言われていることが表 5-11 から分かる。そして、「お菓子」を作ったり、「料理」をしたりする事柄についても、男女ともに「女子力」と言われる。また、女性は「字・絵・デコレーションがうまい」という【器用さ】、男性は「ブックカバーを新聞紙で自作する」という【器用さ】に関わる事柄から、「女子力」と言われている。一方、女性の【外見】に関わる事柄は「女子力」と言われるが、男性は【外見】によって「女子力」と評価されないことが表 5-11 から分かる。これは、「話し手」の視点から見た男女の女子力の異なるところ（5.3 節）と同じである。つまり、「女子力」を使う回答および「女子力」を使われる回答から、男性の「女子力」は【外見】と関わらないということが言える。

上記の「ティッシュ（を差し出す）」「ハンカチ（を使う）」「お菓子（を作る）」などのいずれも「女子力」と評価される事柄である。一方、「あぐらをかく」「整理整頓が苦手」「スポーツが得意」は「女子力」と評価されない事柄である。これは「話し手」の視点から見た「女子力」とされる事柄（5.3 節）とは異なるところである。つまり、5.3 節で「話し手」の視点から見た「女子力」の対象はいずれも「女子力」と評価される事柄であるが、一方で、本節の「聞き手」の視点から見る「女子力」の対象には、「女子力」と評価される事柄も評価されない事柄も挙げられる。その具体的な評価表現および意図については次節で詳述する。

5.4.2.3　表現および意図

女性と男性の回答における引用句は、以下の①から⑥までの 6 つの具体的な表現にまとめられる[70]。ここでは、「女子力」は、高さを表す「高い」とその対義語の「低い」、存在を表す「ある」とその対義語の「ない」、また、「磨く」とのコロケーションが見られた。

---

[70] ①～⑥は表記および表現を統一してまとめた結果である。例えば、「女子力たかい」「女子力高い」は「女子力高い」とまとめた。

①女子力高い（ね/な）（女性・男性）

②女子力ある（ね/な）（女性・男性）

③女子力低い（女性）

④女子力がないぞ（女性）

⑤女子力（女性）

⑥女子力を磨きなさい（女性）

女性には①～⑥の表現がすべて使われたが、男性に使われたのは①②の表現のみである。以下では、男女別にデータを提示しながら、分析を進めたい。

【データ 5-5】【データ 5-6】は「「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使われたことがありますか」という問いに対する女性の回答である。【データ 5-7】は男性の回答である。

【データ 5-5：女性の回答①】

(1) ティッシュを差し出したら、女子力たかいね。といわれた。うれしかった。（女性、20 代）

(2) 男性の友人にハンカチを使っていて言われた。ありがとうと言った。（女性、20 代）

(3) ハンカチなどをしっかり持っていたとき。（女性、20 代）

(4) ハンカチを差し出した時に女子力～って言われました。（女性、20 代）

(5) 料理教室に通っている話をすると女子力高いと言われた。（女性、20 代）

(6) 職場や大学に弁当を作って行ったら友達（男女）に言われた。また、字や絵、デコレーションがうまいので様々な場面で言われる。特に女子力という言葉自体には反応しない。（女性、20 代）

(7) お菓子をつくったときに言われた。（女性、10 代）

(8) 女友達とひとり暮らしで自炊するかの話になって、「自炊してるよ、節約も兼ねて」「へー女子力高いね」。（女性、20 代）

(9) バレンタインのときお菓子を作って友達に渡したら「女子力あるね」と言われた。（女性、10 代）

(10) 友達。服装を褒められた時。喜んだ。（女性、20 代）

(11) 髪型を可愛くした時に「女子力高いな」と言われて「ありがとう」と。（女性、20 代）

（12）女友達が褒めてくれて少し照れた。（女性、20 代）
（13）友人（男女問わず）女子力高いね ありがとうと伝えた。（女性、20 代）

【データ 5-5】は女性の回答である。その中で、（1）～（4）は「ティッシュを差し出す」「ハンカチを使う/持つ/差し出す」という所持物に関わる事柄に向けて「女子力」が使用されている。（5）～（9）は「料理教室に通う」「弁当を作る」「お菓子をつくる」「自炊」という料理に関わる事柄に向けて「女子力」が使われている。（10）～（11）は「服装」「髪型を可愛くした」という事柄について「女子力」が使用されたデータである。また、（12）～（13）は具体的な事柄に言及せず「女子力」が使用されている。約半数が「友達」から言われたと明記しているが、他の例も「女子力」を使用したのは友達だと推測される。使用された表現は「女子力高い」「女子力ある」「女子力」である。また、「女子力」と言われた時、「聞き手」は、「ありがとう」と返事したり、「うれしかった」「喜ぶ」「照れる」という気持ちを抱いたりといった反応をすることが分かった。さらに、（10）と（12）には「褒められた」「褒めてくれる」という「ほめ」に関する動詞が見られた。【データ 5-5】に観察された「うれしかった」「喜ぶ」および「褒められた」「褒めてくれる」という反応から、「聞き手」は「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして受け取る場合があることが分かった。5.3 節では「話し手」の視点から見て、女性は同性の女性に対して、「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして使っていることを明らかにしたが、本節の分析からは、「聞き手」の視点から見ても、「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして受け取っていることが分かった。

【データ 5-6：女性の回答②】

（1）母に女子力を磨きなさいと軽く言われた。面倒くさいな、と感じた。（女性、10 代）
（2）男友達に、わたしが整理整頓が苦手でスポーツが得意なので、女子力が低いとからかわれた。君たちの男子力はどうなんだと、ふざけ半分で返した。（女性、20 代）
（3）あぐらをかいていたら、女子力がないぞと男女の友人に言われた。どちらにもほっとけと言った。（女性、20 代）
（4）友達に女子力高い/低いといわれることがある。どのぐらい美や性格において努力しているか思い出して意識する。（女性、10 代）

【データ 5-6】が示す「聞き手」から見た「女子力」の使用の様相は、5.3 節で観察された「話し手」から見た「女子力」の使用の様相とは異なっている。5.3 節では、「女子力」を使用した表現として「女子力高い」「女子力ある」「女子力を貸して」と「女子力」を評価するもののみが見られたが、「聞き手」の視点からは、「女子力高い」「女子力ある」といった「女子力」を評価する表現だけではなく、「女子力を磨きなさい」「女子力が低い」「女子力がないぞ」という、「聞き手」の「女子力」を評価しない表現も観察された。そして、「話し手」の視点からは、「女子力」は「ほめ」として使われていたが、「聞き手」が自分に言われた表現として記述した「女子力を磨きなさい」「女子力が低い」「女子力がないぞ」といった表現、および引用標識の「からかわれた」、「聞き手」の反応としての「面倒くさい」「君たちの男子力はどうなんだと、ふざけ半分で返した」「どちらにもほっとけと言った」から、「女子力」は「からかい」「忠告」「批判」の効果のあることばとして、使われていることが分かった。調査回答者の女性は「話し手」として、同性の女性に対して、「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして使っているが、「聞き手」としては、「同性の友達」にだけではなく、「異性の友達」「目上の人（母）」からも「女子力」を使われている。

【データ 5-5】と【データ 5-6】は女性の回答で、そこから異なる使用の様相が観察された。男性の回答はどうだろうか。以下では、男性の回答を分析する。

【データ 5-7：男性の回答】

(1) 女性に言われたことがある。絆創膏をたまたま持っていて渡したとき。言われて嬉しく思ったが、いじられてるなとも思った。（別に嫌だとは思わなかったけれど）。（男性、20 代）

(2) 女性の友人が、「誰かホチキス持ってないかな」と言い、自分がホチキスを貸したところ、「女子力高い」とその女性の友人から言われた。それに対し自分は、「まあねー」と肯定して受け入れた。（男性、20 代）

(3) ティッシュやハンカチを持ち歩いていることを指摘された時。（男性、20 代）

(4) 彼女に料理をしている時に 嬉しかった。（男性、20 代）

(5) 異性、同性の友達。お菓子などを作ったときに言われ、ありがとうと答える。（男性、20 代）

(6) 私はお菓子作りが好きなので、友達からサークルで言われたことがあります。（男

性、20 代）

（7）ブックカバーを新聞紙で自作したとき言われて素直に嬉しかった。（男性、10 代）

（8）異性の友人に女子力あるなと言われたが、まぁ嬉しかった。（男性、20 代）

（9）飲み会などの場で冗談として使われた。（男性、20 代）

【データ 5-7】は男性の回答である。（1）～（3）は「絆創膏を持って渡す」「ホチキスを貸す」「ティッシュやハンカチを持ち歩いている」という所持物に関わる事柄に向けて、（4）～（6）は「料理をしている」「お菓子などを作る」「お菓子作りが好き」という料理に関わる事柄に向けて、また、（7）は「ブックカバーを新聞紙で自作した」という事柄に向けて、「女子力」を使用されたデータである。（1）～（9）から主に異性の友達から「女子力」を使用されたことが分かった。そして、使用された表現としては「女子力高い」「女子力ある」が観察された。また、「女子力」と言われた時、「まあねー」「ありがとう」と返事したという回答があり、9 人中、4 人は「女子力」と言われた後、「嬉しい」という気持ちになったと回答した。

男性のこれらの回答から、次のようなことが読み取れる。まず、男性は「女子力」というものを価値のあるものとし、「女子力」があることはいいことだと考えている。そして、男性は、女性に「女子力」ということばで評価される時、否定的に受け取るのではなく、肯定的な評価として受け取っているということである。ここから、「女子力」は、「女性らしい」などの同じく女性とつながりを持つ概念とは異なる発話効力を持っていることもうかがえる。例えば、「女性らしいですね」「女性らしさがあるね」と言ったら、おそらく男性はそれに対して、「嬉しい」という感情を有さず、肯定的に受け取ることはないと考えられる。菊地（2016,2019）もこの点に触れている。菊地（2019：123）は従来の「女らしさ」「男らしさ」ということばが対象の性別と逆に言及される場合、肯定的な意味を持ちにくいが、「女子力」は男性に対しても用いられると述べている。そして、それは、「女らしさ」「男らしさ」は自然にもたれる生物的なもの、「女子力」は努力して後天的に身に付けられるものという認識があるためだとする。菊地（2016,2019）は「女らしさ」と「女子力」を対立概念として捉え、「男性」に対してなぜ「女子力」が用いられるのかということを解釈した。しかし、第 3 章では「女子力」は直接に「女性らしさ」として捉えられること、そして「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化することばであることを指摘した。男性が「女子力」と

言われた時にそれを肯定的に受け取る理由は、「女子力」が「女性らしさ」と全く関係ないからということではなく、接尾辞「力」によってこのことばにもたらされる能力の要素が「女性らしさ」の概念を和らげること、「絆創膏を持って渡す」「ホチキスを貸す」「ティッシュやハンカチを持ち歩いている」「料理をしている」「お菓子などを作る」「お菓子作りが好き」「ブックカバーを新聞紙で自作した」という事柄を能力として捉え直し、価値を付与したからである。

【データ 5-7】の男性の回答から観察された「女子力」の使用と【データ 5-5】の女性の回答から観察された「女子力」の使用とは似た様相を呈している。つまり、【データ 5-5】【データ 5-7】から、回答者の女性も男性もその所持物や料理に関わる事柄は「女子力」と評価され、「女子力高い」「女子力ある」と言われている。そして、それに対して、「ありがとう」と返事したり、「嬉しい」という気持ちを抱いたりする。全体的には、回答者の女性の一部と回答者の男性は「女子力」が使用されたことを「ほめ」のように描写し、「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして受け取ったことが分かる。その一方で、【データ 5-6】の女性の回答から観察された「女子力」の使用は異なる様相を呈している。「整理整頓が苦手」「スポーツが得意」「あぐらをかく」という事柄は「女子力」と評価されず、回答者の女性は「女子力を磨きなさい」「女子力ないぞ」「女子力低い」ということばで「忠告」「批判」されることもある。また、「面倒くさいな」「ほっとけ」「君たちの男子力はどうなんだ」という反応は、その「忠告」「批判」に対する回答者の女性の抵抗感も示している。

5.4.3 「女子力」の揺らぎ

上記の分析から、「聞き手」の視点から見る「女子力」の使用の様相と「話し手」の視点から見る「女子力」の使用の様相は共通点もあるが、相違点もあることが分かった。相違点は女性の回答のみに見られた。以下では、その相違点を反映する同一女性の「話し手」と「聞き手」としての回答を挙げて、なぜこのような共通点と相違点が見られるのかを分析したい。

【データ 5-8：同一人の回答】

（1）女性、20 代

「話し手として」：女の子の友達が料理や手芸などがうまかったとき。

「聞き手として」：男友達に、わたしが整理整頓が苦手でスポーツが得意なので、女子力が低いとからかわれた。君たちの男子力はどうなんだと、ふざけ半分で返した。

（2）女性、20 代

「話し手として」：アクセサリーを手作りするのが趣味だという子が作ったイヤリングがとても可愛かったので言った。真意はわからないが笑っていたと思う。

「聞き手として」：あぐらをかいていたら、女子力がないぞと男女の友人に言われた。どちらにもほっとけと言った。

（3）女性、10 代

「話し手として」：女友だちがケーキを焼いたので、女子力あるね~！と言ったことがある。彼女はすこし照れたが、嬉しそうであった。

「聞き手として」：母に女子力を磨きなさいと軽く言われた。面倒くさいな、と感じた。

【データ 5-8】の（1）（2）（3）は、同一の人がそれぞれ「話し手」と「聞き手」として回答した「女子力」の使用に関するデータである。これらのデータで調査回答者の女性は「話し手」や「聞き手」として、「女子力」に対して、異なる態度を示している。「話し手」としては、友達を「女子力」でほめていて、「女子力」がいいもので、評価に値するものだという態度を示している。一方、「聞き手」としては、「女子力が低い」「女子力がないぞ」「女子力を磨きなさい」ということばで「女子力」の欠如について指摘、批判された場面で、「君たちの男子力はどうなんだ」「ほっとけ」「面倒くさいな」と、その指摘・批判に対して拒否する発言をしている。ここでは、「女子力」にうんざりしているかのような、否定的な態度を示していることが読み取れる。このような対照的な態度は、「女子力」に対する揺らぎの心情を示している。

このような揺らぎの態度を示す理由としては、「女子力」ということばに混在するジェンダーの要素と能力の要素から解釈できる。繰り返しになるが、第 3 章では、「女子

力」イコール「女性らしさ」と捉える人もいること、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化することばであることを述べた。「女性らしさ」は「生得的」とされるもの、「女子力」は「後天的」とされるものなどの点では違いがあるが、その表象および社会的な評価から、「女子力」は「女性らしさ」と関連を持つものである。「女性らしいですね」「女性らしさがあるね」と言われたら、それを「ほめ」として受け取る人もいるが、「女性があるべき姿」という女性に対するステレオタイプや規範として抵抗感を示す人もいる。同じく「女子力」も社会に認められ評価される「ほめ」の効果のあることばとして使われる反面、女性に対するステレオタイプや規範を示すことばとしても用いられる。このことが「女子力」の欠如が批判されたり忠告されたりする場面、およびその批判・忠告に対する「聞き手」としての拒否的な反応（ことば）には表れている。

また、「女子力」ということばが持つ能力の要素も、なぜ調査回答者が「女子力」に対して揺らぎの態度をとるのかということの理由となる。「女子力」は「女性らしさ」と関連を持つ、ジェンダーに関わる現代日本語表現のキーワードであるが、語構成から見て、それは「想像力」「語彙力」などと同じように、接尾辞「力」による派生語で、接尾辞「力」は「女子力」とされる事柄に能力の要素をもたらしている。第 3 章では「女子力」を巡る解釈には、「できる」「得意」「優れている」「上手」などの能力を測定する言語的標識があると述べた。「女子力」は努力によって身に付けられるものという側面があるため、「女子力がない」などは、努力を怠っているという批判になり、「ほっとけ」などはそれに対する反発という側面もある。

総じて、調査回答者が「話し手」として、「女子力」を「ほめ」の効果のあることばとして使うのは、「女子力」が社会に認められ評価される「女性があるべき姿」に対する「ほめ」のことばであるとともに、「女子力」があることが能力を持つことにつながっているからである。一方、調査回答者が「聞き手」として、「女子力」を「批判」「忠告」の効果のあることばとして受け取っているのは、「女性があるべき姿」というステレオタイプや規範に対する拒否の意識、努力を怠っているという否定的な評価についての反発だと考えられる。

5.4.4　本節のまとめ

本節は、5.3 節で明らかにした「話し手」の視点から見た「女子力」の使用の様相と対照しながら、「聞き手」の視点から、「女子力」がどのように使われるのかを分析した。「話し手」の視点から見た「女子力」の使用および「聞き手」の視点から見た「女子力」の使用の共通点は、「女子力」の使用は友達同士の間でよく見られること、「女子力」は「ほめ」の効果のあることばとして使われるということである。相違点としては、目上の人（母）および異性から「女子力が低い」「女子力がない」「女子力を磨きなさい」のように「女子力」と評価されない時に使われる表現があることが「聞き手」の視点から観察された。この相違点は、10～20 代の女性回答者の「女子力」ということばに対する揺らぎの態度を示している。「女子力」があることは社会で評価される「女性があるべき姿」で、「料理」や「手芸」が上手だということは確かに一種の能力であると言える。一方、「女子力」は「女性らしさ」のように、「女性」に対してのステレオタイプを助長するものであり、規範でもある。

また、今回の調査から、男性は「話し手」として、同性および異性の友達に「女子力」を肯定的に使い、「聞き手」としても「女子力」をプラスに受け取ることが分かった。これは、「女子力」は「女性らしさ」とつながっているだけではなく、能力の要素も入っているためであろう。

5.5　「女子力が高いね」に対する返答の様相

5.3 節および 5.4 節から、「女子力が高いね」は女性に対しても男性に対しても使われることが分かる。では、「女子力が高いね」と言われる時、どのような応答が見られるのか、その様相を本節で分析したい。

5.5.1　データ

本節は、下記の調査項目に対する回答をデータとして取り上げて、分析する。

問 8 :「女子力が高いね」と言われたら、それに対しての返事はしますか。するなら、どのような発話をしますか。しないなら、その理由を教えてください。

「「女子力が高いね」と言われたら、それに対しての返事はしますか。」という問いに

対しては、64 人全員の回答があった。また、57 人から、「するなら、どのような発話をしますか。しないなら、その理由を教えてください」という問いに対する回答のデータが得られた。

5.5.2　分析

「女子力が高いね」という発話に対して「応答する」と回答した人、および「応答しない」と回答した人の割合を下記の表 5-12 に示す。

表 5-12　「応答」および「応答しない」の割合

パターン / 性別	応答する	応答しない	合計
女性	91%	9%	100%
男性	87%	13%	100%

表 5-12 に示すように、「女子力が高いね」と言われた際、女性のうち、91%の人はそれに対して応答をし、9%の人は応答をしなかった。一方、男性のうち、「女子力が高いね」と言われた際、87%の人はそれに対して応答をし、13%の人は応答をしないと回答した。以下では、まず、「女子力が高いね」に対して「応答しない」理由を見る。その上で、「応答する」発話内容およびそれを巡るメタ語用的データを分析する。

5.5.2.1　「応答しない」およびその理由

今回の調査から、女性の回答者にも男性の回答者にも「女子力が高いね」に対して、「応答しない」ことが観察された。その割合は、それぞれの性別の回答者の中で 9%（3 人）と 13%（4 人）を占めることが上記の分析から分かった。その中の 4 人から、以下のような「応答の不在」の理由が得られた。

【データ 5-9】「応答しない」理由

(1) 広げるほどの話の内容を自分が持っていないから。（女性、10 代）

(2) 女子じゃないので。（男性、20 代）

(3) はずかしい。（男性、20 代）

(4) なんと反応すればよいかわからない。(男性、10 代)

「女子力が高いね」に対する「応答しない」理由としては「広げるほどの話の内容を自分が持っていないから」「はずかしい」「女子じゃないので」「なんと反応すればよいかわからない」といったものがある。これらはいずれも「女子力」に対して距離感を持っていることを示す回答である。しかし、その理由の内容を分析して見れば、距離感の要因は異なっている。「広げるほどの話の内容を自分が持っていないから」という理由からは、「女子力」に対するなじみがないことが回答者の女性の距離感のもとになっていることが分かる。一方、男性が「女子力」に距離感を持っているのは「ジェンダー」および「はずかしさ」によるものだと考えられる。このことは「女子力」の前接語である「女子」を否定する言語形式「女子じゃないので」を用い、「女子力」に関わるジェンダー領域は自分と無関係であることを表明した回答 (2)、および「はずかしい」「なんと反応すればよいかわからない」という心理状態を述べた回答 (3) (4) から分かる。

5.5.2.2 「応答」およびその内容

今回の調査から、女性の回答者の中でも男性の回答者の中でも「女子力が高いね」に対して、「応答する」傾向が強いことが表 5-12 から観察された。その具体的な回答の内容においては、以下の例 (1) (2) のように、直接応答の発話を記入したデータが多く見られる。そして、以下の例 (3) のように、発話を記入しつつ、その発話を巡る解釈を記入したデータも見られる。さらに、例 (4) のように、発話ではなく解釈的なものを記入したデータもある。本節では、例 (1) (2) のような直接に記入された発話のデータ、例 (3) のような解釈が伴う発話内容のデータ、および例 (4) のような直接記入された解釈的なデータのいずれも射程に入れて、分析を行う。

例 : (1) ありがとう。

(2) そんなことないよ。

(3) 「やったね」とか「でしょ？笑」とか、とりあえず喜ぶ。

(4) 女子力が高いということはいい意味だと思うので、肯定して受け入れる発言をする。

また、今回収集したデータから、「女子力が高いね」に対して、「肯定的な応答」「否定的な応答」「疑問的な応答」「回避的な応答」が観察された。以下では、その応答の内容をそれぞれ分析したい。

表 5-13　「女子力が高いね」に対する応答①

肯定的な応答
①ありがとう。（女性・男性）
②ありがとう！ もっと女子力高くなれるよう頑張る！（女性）
③どうも。（男性）
④まあね～（女性・男性）
⑤だろ？でしょ？（男性）
⑥女子力ある系男子だから。（男性）
⑦「やったね」とか「でしょ？笑」とか、とりあえず喜ぶ。（女性）
⑧でしょー（肯定する）。自分の行為に対して誉められた気分になるから（私自身が男なので、女子力が高いと言われると誉められたように感じる）。（男性）
⑨友だち同士であれば冗談で威張るような返事をする。（女性）
⑩お礼を言う。（女性）
⑪女子力が高いということはいい意味だと思うので、肯定して受け入れる発言をする。（男性）

表 5-13 は「女子力が高いね」に対する応答の具体的な発話およびそれを巡る評価・解釈的なデータのまとめである。「女子力が高いね」に対して、女性および男性の応答には、感謝、賛同および同意を表す表現が見られる。「とりあえず喜ぶ」という女性の、「自分の行為に対して誉められた気分になるから」という男性の解釈的な回答から、「女子力が高いね」を肯定的に受け入れる場合もあることが分かる。これは 5.3 節、5.4 節の分析結果と同じ傾向を示している。また、⑨⑩⑪は直接発話を記入せず、解釈的な回答を記入したデータである。⑨の「友だち同士であれば冗談で威張るような返事をする」から、「女子力が高いね」に対して、どのような返答をするのか相手によって異なることが読み取れる。⑪の「女子力が高いということはいい意味だと思うので、肯定して受

け入れる発言をする」は、回答者の男性は「女子力が高いね」に対していい意味の発話として肯定的に受け入れることを示している。

表 5-14　「女子力が高いね」に対する応答②

疑問的な応答
①そう？（女性）
②あっ、そうかな。（女性）
③そうかな？（男性）
④そうですか？等聞き返すような返答。（男性）
⑤えー？本当？？ありがとう！（女性）
⑥え、そう？ 性格は男っぽいからせめてちょっとは気にしないと。（女性）
⑦「本当？そんなことないよ」と謙遜します。（男性）

表 5-14 は「女子力が高いね」に対する応答で、その応答の具体的な発話内容は「そう？」「あっ、そうかな」「そうかな？」「そうですか？」といったものが挙げられる。これらの表現から、女性も男性も「女子力が高いね」という発話に対して、疑問の意味を表す表現で応答することが分かる。

表 5-15　「女子力が高いね」に対する応答③

否定的な表現
①そんなことないよ。（女性・男性）
②高くないよ。（女性・男性）
③そんなに高くないと思う。（男性）
④僕は〈女子〉ではありません。（男性）
⑤「僕、男だよ」と返答します。（男性）
⑥いや俺男やし(笑)。（男性）

表 5-15 から、「女子力が高いね」に対して、女性も男性も「そんなことないよ」で否定的な応答をすることが見られる。そして、女性も男性も「女子力が高いね」における

述語の「高い」を否定し「高くないよ」「そんなに高くないと思う」といった形式で「女子力が高いね」に対して、不賛成の発話をすることが観察された。

一方、男性の回答では、「僕は〈女子〉ではありません」という否定的な表現を用い、「女子力が高いね」に対して不賛成の態度を表すものが見られる。「僕、男だよ」という男性が多用する一人称詞「僕」、およびジェンダーを表すことばの「男」で自分のジェンダー・アイデンティティを主張する表現が見られ、「いや俺男やし（笑）」で「女子力が高いね」に対して不賛成の発話をすることも観察された。この回答から、「いや」という否定を表すマーカーで「女子力が高いね」に対し不賛成の態度を表した後、男性が多用する一人称詞の「俺」およびジェンダーを表すことばの「男」を用い、ジェンダー・アイデンティティを主張することが見られる。このように、男性は否定的なマーカーの「ではありません」を用いて、「女子力」の前接語の「女子」を否定し、また、否定的なマーカーの「いや」を用いて、「女子力が高いね」を否定し、その上で、一人称詞の「俺」およびジェンダーを表すことばの「男」を用いて、ジェンダー・アイデンティティを主張することが分かる。

表 5-16　「女子力が高いね」に対する応答④

回避的な応答
①　あんたも真似しろ！と冗談交じりに言う。（女性）
②　女子力についての議論。（男性）

「女子力が高いね」に対する「応答」における回避的な表現は、今回集めたデータでは、①②があった。①の「あんたも真似しろ！」から、話の焦点を相手に変えて、相手に対し働きかけ、命令の意味のある言語形式で「女子力が高いね」ということばを回避したことが観察される。また、その「冗談交じりに言う」というメタ語用的解釈から分かるように、この応答は「冗談」とつながり、「女子力が高いね」ということばを回避するストラテジーとして機能している。また、②は男性の回答で、「女子力が高いね」と言われたら、焦点を「女子力」ということばに当て、直接返答をしないことが見られる。

5.5.3　考察とまとめ

今回の調査から、「女子力が高いね」という発話に対して、「応答」および「応答しない」という 2 つのパターンが見られた。

「応答しない」の理由から、「女子力」ということばに対し距離感を持つ女性や男性がいることが分かった。その中で、男性が「女子力」に対して、距離感を持っていることは、ジェンダーという側面から解釈できる。「女子じゃないので」という理由から、「女子力が高いね」ということばに対し、男性はジェンダー・アイデンティティを主張することが今回の分析から分かった。Stoller（1964）はジェンダー・アイデンティティについて、以下のように述べている。

Gender identity is the sense of knowing to which sex one belongs, that is, the awareness ‘I am a male ’or ‘I am a female’.

（ジェンダー・アイデンティティは自分がどの性別に属するかということを知る感覚である。つまり、それは、「私は男性である」または「私は女性である」という意識のことを指す。）

（Stoller 1964：220 日本語訳筆者）

つまり、ジェンダー・アイデンティティは自分の所属する性別についての感覚や意識のことである。佐々木他(2007 : 253)は、ジェンダー・アイデンティティを「斉一性・連続性をもった主観的な自分の性別が, まわりからみられている社会的な自分の性別と一致するという感覚」と定義している。また、中村（2001:111）はジェンダー・アイデンティティについて、「主体が「ジェンダー・イデオロギー」だけでなくディスコースに設定されている様々な社会的カテゴリーや社会的意味を資源としてディスコース実践において能動的に作り上げる多様なアイデンティティを指す」と指摘している。回答者の男性は「女子力」ということばの形式に見られる「女子」が表すジェンダーと自分が所属しているジェンダー・アイデンティティの不一致の感覚を理由として、「女子じゃないので」という応答をしたのだろう。

「女子力」は一種の能力であり、能力に関わる肯定的な評価の意味を表すことばには「高い」とのコロケーションが見られる。例えば、「英語力が高い」ということばは評価として、相手に対し「英語力が高いね」という形で使われる場合がある。同じように、

「女子力が高いね」は評価の効果のあることばとして使う場合もある。それに対しての「応答」は、「ありがとう」「でしょう」「まあね～」といった肯定的な表現が見られる。そして、「そう？」「そうかな？」「そうですか？」といった疑問的な表現、および「そんなことないよ」「高くない」といった否定的な表現も観察された。一方、興味深いのは、男性が記入した「応答」には、「僕は〈女子〉ではありません」「僕、男だよ」「いや俺男やし(笑)」というジェンダー・アイデンティティを主張する表現が見られることである。これは、上に述べたように、「女子力」に関わるジェンダーと自分の所属するジェンダー・アイデンティティの不一致の感覚によるものである。第 3 章および、本章の 5.3 節、5.4 節で述べたように、能力としての「女子力」はその形式に表れるジェンダーの境界線を越え、男性にも見られる。そして、それに関わる言語表現はプロトタイプの使用対象である女性に限らず、拡張された使用対象の男性にも使われるが、男性はそれに対して距離を置くことが「僕、男だよ」「いや俺男やし(笑)」という否定的な態度を表す表現からうかがえた。

5.6　本章の小括

本章では、「女子力」の使用の様相を明らかにした。「女子力」が、「ほめ」の効果のあることばとして使われることは、「話し手」と「聞き手」のどちらから見ても観察できた。一方、「女子力」は「からかい」「忠告」「批判」の効果のあることばとして使われることが女性の「聞き手」の視点からの分析で浮き彫りになった。女性も男性も「女子力」を肯定的に使ったり、受け取ったりしているが、女性の場合は「女子力」を否定的に使われたり、受け取ったりすることが特徴的である。このことは、「女子力」の揺らぎを示している。

「女子力が高いね」およびそれに対する「応答」を分析した結果、「女子力が高いね」に対して、「応答」および「応答の不在」という 2 つのパターンが見られた。女性も男性も「女子力が高いね」に対する距離感があることが「応答しない」理由の分析から示された。具体的には、女性が「女子力」に対して距離感を示した原因は、「女子力」に対してのなじみがないことであり、男性が「女子力」に対して距離感を示した原因は、「女子力」ということばに関わるジェンダーの要素であることが明らかになった。また、「女子力」に対しての「応答」に見られる具体的な表現には「肯定」「疑問」「否定」をそれぞれ表す表現が観察された。「女子力が高いね」に対し、男性はジェンダー・アイデ

ンティティを主張することから、「女子力」はジェンダーの境界線を越え、用いられる対象は男性に拡張しているが、男性がそれに対して距離を置くこともあることが明らかになった。

第 6 章　「女子力」に対する評価の様相

6.1　はじめに

第 3 章、第 4 章では、「○○力」における「女子力」の位置づけ、「女子力」の意味および、「女子力」の三領域などの分析で「女子力」は「どのような」ものかということを述べた。また、第 5 章では、そのような「女子力」は日常会話では「どのように」使われるのかという女子力の使用の様相を明らかにした。第 3 章の分析から、「○○力」という語彙グループにおいては、「女子力」を「想像力」「経済力」「語彙力」といった他の「力」による派生語と比べると、「女子力」は社会的要因と関わり、「女子力」にはジェンダーの要素と能力の要素が混在するという点が特徴的であること、「女子力」は、「女性らしさ」を構築する動的プロセスを可視化し、「女性らしさ」のありかを示すことばだということ、「女子力」は一種の能力として評価され、その能力の内容から、「女子力」は伝統的なジェンダー規範を維持、構築する側面があることが分かった。そして、第 4 章の分析では、「女子力」ということばには【性格・外見・様子】【家事・料理】【人や物事に対する気配り・態度】という 3 つの領域が内包されることが明らかになった。第 5 章では、日常会話では、「女子力」は「ほめ」「冗談としてのほめ」および「批判」「忠告」の効果のあることばとして使われていることの分析を通して、「女子力」の揺らぎを分析した。このように、「女子力」ということばはその意味、関わる領域、使用の様相のどの点から見ても、一面的ではない。このことばの捉え方、考え方も一様ではないように見える。本章では、「女子力」の捉え方を示す内容における語彙・表現に着目して、「女子力」に対してどのような態度が示され、「女子力」はどのように語られるのかを分析した上で、「女子力」の特徴を明らかにしたい。

6.2 節で、「評価」の捉え方について述べる。次に、6.3 節で、本章で扱うデータと分析の枠組みを示す。続いて 6.4 節、6.5 節では、「女子力」の捉え方の全体像を把握した上で、「女子力」に対する評価に見られる表現を分析する。そして、6.6 節では、第 3 章、4 章、5 章の分析結果を用いて、「女子力」に対する捉え方の二面性を論じる。最後に、6.7 節では、本章のまとめを述べる。

6.2　「評価」「評価表現」の捉え方

「評価」という用語には様々な捉え方がある。樋口（2001:43）は物の意義を明らかに

する人間の意識的な活動のことを「評価」として捉えている。八亀（2003）は樋口の定義を踏まえて、「評価」について「この部屋広いね」という例を挙げて説明している。「「この部屋広いね」と言うとき、「広い」という特性は、「この部屋」に客観的に備わっている特徴として差し出される一方で、話し手の中のなんらかの基準との比較のなかでもとらえられている」（p.17）結果であると述べている。関崎（2013:112）は評価をある事柄を特定の基準に照らし「いい」「悪い」「きれい」「汚い」など、特定の人、もの、事の価値を明らかにする活動と捉えている。

また、佐野（2012a）は「評価」および「評価表現」を以下のように定義している。

評価は個人もしくはコミュニティの価値観や規範の構築・保持・拡散・縮小・変更・破壊を施行するための社会システムであり, 評価表現は評価を実現するための言語資源である。

（佐野 2012a：9 下線筆者）

本章の評価および評価表現は佐野（2012a）を参考にして、以下のように定義したい。

評価は「女子力」にまつわる価値や規範に対して、意見・考え方を述べることで、評価表現は「女子力」について意見・考え方を述べる時に使われる語彙・表現などの言語資源である。

6.3　データと分析の枠組み

6.3.1　データ

本章では、「女子力」についての記述式のアンケート調査における次の調査項目に対する回答を取り上げて分析する。

問 4 :「女子力」に対してどのようなイメージを持っていますか。

- □ いいイメージ
- □ どちらかというといいイメージ
- □ よくないイメージ
- □ どちらかというとよくないイメージ
- □ 特にイメージは持っていない

その理由：

「どのようなイメージを持っていますか」という問いに対しては 64 人全員から回答を得た。そして、そのうちの 52 人からそのようなイメージを持つ理由のデータが得られた。

6.3.2　分析の枠組み

本章では、「女子力」の捉え方を示す語彙・表現から「女子力」の特徴を明らかにするため、分析の枠組みとして、アプレイザル理論（Appraisal theory）を用いる。アプレイザル理論（Appraisal theory）では、評価を engagement（形勢・やり取り）、attitude（態度評価）、graduation（程度評価）の 3 つに分けている[71]。それぞれの定義を以下の表 6-1 に示す。

表 6-1　アプレイザル理論における評価の分類およびその定義

分類	定義
engagement（形勢・やり取り）:	評価者の立場と読み手・テクストのディスコースに含まれる第三者の立場との距離を示すことで表される評価である。
attitude（態度評価）:	評価極性を示すことで表される評価であり、ここには感情表現を示すことで表される評価も含まれる。
graduation（程度評価）:	漸次的な表現（「とても」・「すごく」など）を用いることで示される評価である。

佐野（2010）をもとに筆者作成

表 6-1 から、アプレイザル理論における評価は、主に、評価者の立場と読み手、第三者の立場との距離を示すもの、評価極性（肯定か否定か）、感情を示すもの、「とても」「すごく」といった程度を示すもので表されることが分かる。本章は「女子力」に対する態度を示す記述における語彙・表現に着目するため、表 6-1 で示されている attitude（態度評価）の枠組みに基づき、分析を行う。なお、attitude（態度評価）はさらに評価

[71] 括弧内の日本語訳は佐野（2010）を引用した。

極性、評価基準、表現の直接性/間接性という 3 つの観点から捉えられる。その詳細を下記の表 6-2 に示す。

表 6-2　attitude（態度評価）の詳細

観点	詳細
評価極性	positive（**肯定**）：肯定的な評価を表す表現 negative（**否定**）：否定的な評価を表す表現
評価基準	affect（**感情**） **評価表現**：楽しむ、悲しむ、安心するなどの評価者の心情を示す語句
	judgement（**規範・世評**） **評価対象**：人の習慣・性格・行動 **評価表現**：評価対象の特徴・性質を示す表現および、道徳・一般性・能力・信頼性を基準とする表現 例：不健康、非人道的、偏屈、勇敢など
	appreciation（**反応・構成・価値**） **評価対象**：事象 **評価表現**：評価対象の特徴・性質を示す表現および、美学・構成の良し悪し・価値・有効性を基準とする表現 例：面白い、明瞭、単調、大切、効果的など
表現の直接性/間接性	inscribe（**直接評価**） **評価表現**：態度語彙 invoke（**間接評価**） **評価表現**：比喩表現、漸次的表現、修辞的質問、逆説、評価を呼び起こす可能性のある事実を示す表現

佐野（2010）をもとに筆者作成

本章では、表 6-2 で示されている評価基準の affect（感情）、judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）および、表現の直接性/間接性の枠組みに基づき、分析を行う[72]。分析にあたっては、まず、「女子力」ということばに対してのイメージの全体像を把握する。そして、アプレイザル理論に基づき、「女子力」に対する態度を示す内容における語彙・表現を分析して、「女子力」に対する評価表現の分布を明らかにする。最後に「女子力」に対する評価表現およびその分布から「女子力」の特徴を探る。

6.4　結果と分析

本節では、「女子力」の捉え方の全体像および評価表現を分析する。

6.4.1　「女子力」の捉え方の全体像

大学生・大学院生の「女子力」に対しての捉え方については、「いいイメージ」「どちらかというといいイメージ」「よくないイメージ」「どちらかというとよくないイメージ」「とくにイメージは持っていない」という五段階評価で調査した。その結果の全体像は下記の図 6-1 のようである。

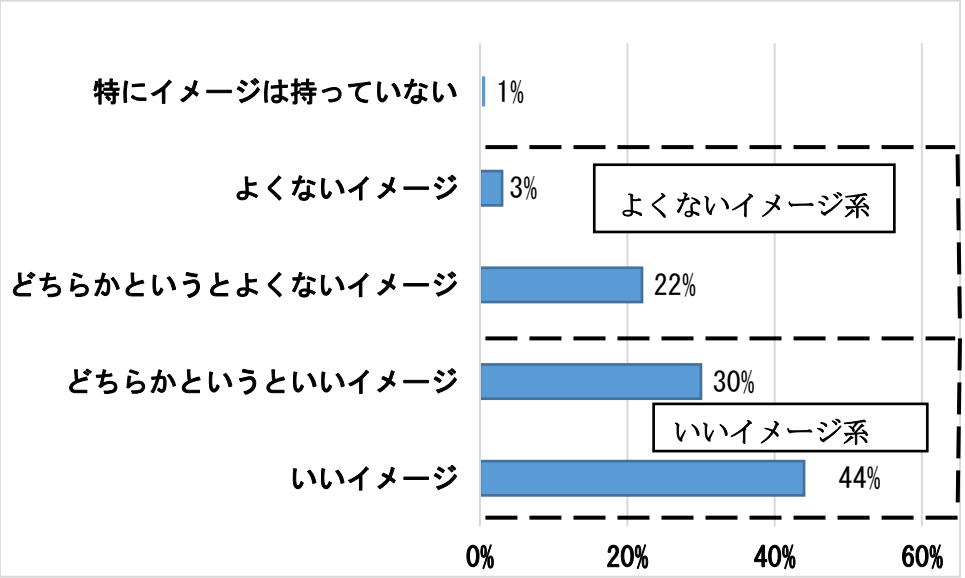

図 6-1　「女子力」の捉え方の全体像

[72]「女子力」を巡る評価の分析にあたっては、どのような語りでどのような語彙・表現があるかに焦点を当て分析するため、全体的には質的に進める。統計的分析は行わない。

図 6-1 から、「女子力」に対してのイメージの相違が見られ、「女子力」の捉え方は一様ではないことがうかがえるが、「特にイメージは持っていない」から「いいイメージ」までの回答者数の割合の純増傾向を示している。今回の調査範囲では、「女子力」に対する「いいイメージ」を持つ回答者の割合が最も多いことが読み取れ、その次は「どちらかというといいイメージ」である。「いいイメージ」と「どちらかというといいイメージ」を「いいイメージ系」に、「よくないイメージ」「どちらかというとよくないイメージ」を「よくないイメージ系」にまとめてみると、「いいイメージ系」は 74%を占め、「よくないイメージ系」は 25%にとどまる。男女別の傾向の結果は以下の表 6-3 に示す。

表 6-3　男女別に見る「女子力」の捉え方

	いいイメージ系	よくないイメージ系	合計
女性	66%（22）	34%（11）	100%（33）
男性	81%（25）	19%（6）	100%（31）

表 6-3 に示したように、女性のうち、「女子力」に対して全体的に「いいイメージ」を持つ傾向は「よくないイメージ」を持つ傾向より強いと言える。そして、男性のうち、「いいイメージ」を持つ傾向も「よくないイメージ」を持つ傾向より強い。このようなイメージを持つ理由はどこにあるのか、その理由の内容において、どのような評価表現が見られるのかを明らかにするために、次節では、回答者が記入した理由の内容を提示しながら、「女子力」の捉え方に関する理由における評価表現を見る。

6.4.2　「女子力」を巡る評価表現

本節では、「いいイメージ」から「よくないイメージ」の順で、6.3 節で述べたアプレイザル理論の枠組みに基づき「女子力」を巡る評価表現に焦点を当て、分析を行う。

まず、いいイメージを持つ理由における評価表現を見る。

【データ 6-1：いいイメージを持つ理由における評価表現】[73]

（1）プラスの時にしか使っているように思えないから。（男性、10 代）

[73] データに二重下線で引いているのは、評価表現を指す。以下は同様である。

(2) その人の頑張りを評価してくれるものだから。(男性、20 代)

(3) 細部まで気を遣う、きちんとした、よくできた人間という感じがするので。(男性、10 代)

(4) 女子力のある女性に惚れるから。(男性、20 代)

(5) 褒め言葉だと思っているから。(女性、20 代)

(6) 女子力がある人はいろいろなことに気をつけてる人が多いと思うので、素敵だと思うから。(女性、10 代)

(7) 女の子らしさは自分にはなくて憧れるから。(女性、10 代)

(8) 女子力を上げようと、自分磨きをしているから。(女性、10 代)

「いいイメージ」を持つ理由においては、回答者(評価者)は肯定的な態度を示す評価表現を用いていることが今回収集したデータから読み取れる。

例えば、【データ 6-1】の(1)〜(4)は「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ男性の理由のデータの一部である。(1)(2)では、「女子力」ということばの使用(事象)を「プラスの時」「人の頑張りを評価してくれるもの」(appreciation)として肯定的に評価している。(3)では、「女子力」の持ち主(人の習慣・性格・行動)を評価対象とする「細部まで気を遣う」「きちんとした」「よくできた」といった特徴・信頼性・能力を表す肯定的な評価表現(judgement)が見られる。そして、(4)は「女子力のある女性」を対象に、「惚れる」という「評価者の心情(affect)」を肯定的に示す表現で「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ理由を述べている。(1)〜(4)に見られる表現はいずれも「直接表現」である。つまり、「プラスの時」「人の頑張りを評価してくれるもの」「よくできた」「惚れる」といった明確に態度を示す表現で「女子力」に対しての捉え方を示している。

(5)〜(8)は「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ女性の理由のデータの一部である。まず、(5)では、「女子力」ということば(事象)に対して「褒め言葉」という評価表現が見られる。(6)では、「女子力」の持ち主(人の習慣・性格・行動)を評価対象とする「いろいろなことに気をつけてる」「素敵」という評価表現が見られる。そして、(7)では、「女の子らしさ」へ「憧れる」という「評価者の心情(affect)」を示す表現で「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ理由を述べている。また、(8)は「女子力」の持ち主に対して「自分磨きをしている」という表現で肯定的に評価している。

表現の「直接性/間接性」では、(5) ～ (8) はいずれも「直接表現」で、つまり、「褒め言葉」「いろいろなことに気をつけてる」「素敵」「憧れる」「自分磨きをしている」という明確に態度を表す表現で直接的に「女子力」を評価している。

今回収集した「いいイメージ」を持つ理由の内容から観察された評価表現は以下の表 6-4 にまとめることができる。

表 6-4　「いいイメージ」を持つ理由における評価表現

女性/男性	直接/間接	評価表現
女性	直接表現	affect（**感情**）:憧れる judgement（**規範・世評**）: いろいろなことに気をつけてる、素敵、自分に自信が持てる、周りから良い印象を持たれる、自分磨きをしている appreciation（**反応・構成・価値**）: きれい、褒め言葉、良い意味で使う、単語が可愛い
	間接表現	なし
男性	直接表現	affect（**感情**）:惚れる、好感を持つ judgement（**規範・世評**）: 可愛いらしい、かわいい、能力高い、気を遣う、きちんとした、よくできた、家事ができる、いいイメージ appreciation（**反応・構成・価値**）: きれいに見える、プラス時に使う、人の頑張りを評価してくれる
	間接表現	お付き合いしていそうな人は女子力が高そうなイメージがある

表 6-4 から、「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ理由では、「affect（感情）」「judgement（規範・世評）」「appreciation（反応・構成・価値）」のいずれの項目にも評価表現が観察された。つまり、評価者の心情を表す表現、「女子力」の持ち主の「習慣・性格・行動」を評価対象とする「特徴・能力・信頼性」を表す表現、「女子力」ということば自体の内容および使用を評価する表現が「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ理由から見られる。

これらの評価表現から、「いいイメージ」を持つ回答者は「女子力」ということばと「女子力」の持ち主の両方に肯定的評価を示していることが分かる。

【データ 6-2：どちらかというといいイメージを持つ理由における評価表現】

(1) 女子力あるねと言われると嬉しいが、からかっているようにも聞こえることがある。（女性、10 代）

(2) 身だしなみがきちんとしていて、清潔感があるイメージがあるから。（女性、20 代）

(3) 女性性の価値観の決めつけや押し付けという面はあるかもしれないが、女子力が高いこと自体は生きていく上で困るものではないように感じるから。（女性、20 代）

(4) 男子だから女子力があると言われると嬉しいから。（男性、20 代）

(5) ちょっと皮肉めいたニュアンスも含まれている。（男性、20 代）

(6) 女の子としてどれだけ優れているかということを表しているようだから。（男性、20 代）

【データ 6-2】の（1）～（6）が示すように、「どちらかというといいイメージ」を持つ理由においては、肯定的な態度を示す評価表現だけではなく、否定的な態度を示す評価表現も見られる。

（1）～（3）は「どちらかというといいイメージ」を持つ女性の理由のデータの一部である。(1）では、「女子力あるね」という発言に対して「嬉しい」という「評価者の心情（affect)」を示す表現で肯定的な態度が示されることが見られる一方、「からかっているように聞こえる」という否定的な態度を示す評価表現も見られる。(2）では、「女子力」の持ち主（人の習慣・性格・行動）を評価対象とする「身だしなみがきちんとしていて」「清潔感がある」といった評価表現が見られる。(3）では、まず、「女性性の価値観の決めつけや押し付け」の表現で「女子力」ということば（事象）に対して否定的な態度が示されるが、認識のモダリティーの「かもしれない」でその否定的な態度を和らげている。そして、逆接を表す「が」で「生きていく上で困るものではない」という肯定的な態度が示される表現にシフトしたことが分かる。「嬉しい」「からかっているようにも聞こえる」および「女性性の価値観の決めつけや押し付け」「生きていく上で困るものではない」から、「どちらかというといいイメージ」を持つ理由においては、評価表現に一貫性が保たれていないことが見られ、そこから「女子力」ということばの二面

性が読み取れる。

（4）～（6）は「どちらかというといいイメージ」を持つ男性の理由の一部のデータである。(4）では、「女子力がある」と言われることに対して「嬉しい」という「評価者の心情（affect)」を示す評価表現が見られる。(5）は「皮肉めいたニュアンス」で「女子力」ということば（事象）に対して否定的に評価していることが分かる。そして、(6）では、「優れている」という形で、「女子力」の持ち主に対して肯定的に評価していることが見られる。なお、今回収集した「どちらかというといいイメージ」を持つ理由における評価表現は以下の表 6-5 にまとめられる。

表 6-5　「どちらかというといいイメージ」を持つ理由における評価表現

女性/男性	直接/間接	評価表現
女性	直接表現	affect（**感情**）: 嬉しい、からかっているようにも聞こえる judgement（**規範・世評**）: 持てる、誉められる、魅力、身だしなみがきちんとして、清潔感がある appreciation（**反応・構成・価値**）: 良い、気が利いた行動、皮肉、女性性の価値観の決めつけや押し付け、生きていく上で困るものではない
	間接表現	なし
男性	直接表現	affect（**感情**）: 嬉しい judgement（**規範・世評**）: 気配りができる、女子力のある人の方が良い、優れている appreciation（**反応・構成・価値**）: 良いこと、悪い言葉として使われた場面を見た事がない、皮肉のニュアンス
	間接表現	なし

表 6-5 から、「女子力」に対して「どちらかというといいイメージ」を持つ理由においては、「affect（感情）」「judgement（規範・世評）」「appreciation（反応・構成・価値）」のいずれの項目にも評価表現が観察された。つまり、「評価者の心情」を示す表現、「女子力」の持ち主（習慣・性格・行動）を評価対象とする「特徴・能力・信頼性」を示す表

現、「女子力」ということばの内容および使用を評価する表現が「女子力」に対して「どちらかというといいイメージ」を持つ理由に見られる。これは「女子力」に対して「いいイメージ」を持つ理由に観察された評価表現の分布と同じであるが、その具体的な表現においては、「嬉しい」「良い」「悪い言葉として使われた場面を見た事がない」といった肯定的な態度が示される表現が見られる一方、「からかっているようにも聞こえる」「皮肉のニュアンス」という否定的な態度が示される表現もある。ここから、「女子力」の二面性が浮上してきた。つまり、「女子力」に対して肯定的に捉えられる部分と否定的に捉えられる部分の両方が見られる。

【データ 6-3：どちらかというとよくない・よくないイメージにおける評価表現】

(1) めんどくさそう。（女性、20 代）

(2) 定義が曖昧だから。女はこうあるべき、男はこうあるべきでないと規定するようでジェンダー的に問題がある言葉だから。（女性、20 代）

(3) 女子力と言われるものは、特に女性だけでなく、人として必要な能力や振る舞いだと思うから。（女性、20 代）

(4) 〈紋切り型の女性像に基づく表現だから時代に合っていないため。（男性、10 代）

(5) ステレオタイプを助長しているように思えるから。（男性、20 代）

(6) 自分があまり女子力が高い女子ではなく、からかわれたりしたことがあるから。（女性、20 代）

(7) 差別されてるようにかんじる。（女性、20 代）

「どちらかというとよくないイメージ」および「よくないイメージ」を持つ理由においては、回答者（評価者）は否定的な態度を示す評価表現を用いている。例えば、上記の（1）～（3）は、「女子力」に対して「どちらかというとよくないイメージ」を持つ女性の理由の一部のデータである。(1) では、「女子力」に対しての否定的な態度が「めんどくさそう」という「評価者の心情（affect)」を表す表現により示されている。そして、(2) では、「女子力」に対する否定的な態度が「定義が曖昧」および「ジェンダー的に問題がある」という表現より示されている。また、(3) は「女子力」の内容は「特に女性だけでなく、人として必要な能力や振る舞いだ」という「間接表現」で、「女子力」に対する否定的な態度が示される。

（4）と（5）は「女子力」に対して「どちらかというとよくないイメージ」を持つ男性の理由の一部である。（4）では、「女子力」に対しての否定的な態度は「紋切り型の女性像に基づく表現」および、「時代に合っていない」という表現で示されている。そして、（5）では、「ステレオタイプを助長している」で「女子力」に対しての否定的な態度が示されている。また、今回の調査範囲では、「女子力」に対して「よくないイメージ」を持つと回答したのは女性のみに見られる。その理由は上記の（6）と（7）が示したようである。（6）（7）から、「女子力」に対する否定的な態度が「からかわれる」「差別される」という「評価者の心情（affect）」を表す評価表現で示されている。

今回収集した、「どちらかというとよくないイメージ」および「よくないイメージ」を持つ理由における評価表現は以下の表 6-6 のようにまとめられる。

表 6-6「どちらかというとよくない・よくないイメージ」を持つ理由における評価表現

女性/男性	直接/間接	評価表現
女性	直接表現	affect（**感情**）:めんどくさそう、からかわれる、差別される judgement（**規範・世評**）:なし appreciation（**反応・構成・価値**）: 定義が曖昧、ジェンダー的に問題がある、女性らしくあるべきだという概念を無意識的に押し付けている、大変、女性らしさの押し付け、「女子」に固定する必要は無い
	間接表現	女子力と言われるものは、特に女性だけでなく、人として必要な能力や振る舞いだ
男性	直接表現	affect（**感情**）:なし judgement（**規範・世評**）: なし appreciation（**反応・構成・価値**）: 意味するところ、定義するところが曖昧、ステレオタイプを助長している、差別的な意味を含む、時代に合っていない
	間接表現	「やばい」のように人によって捉え方が異なっている

表 6-6 から、「女子力」に対して「どちらかというとよくないイメージ」を持つ理由においては、「affect（感情）」「appreciation（反応・構成・価値）」の項目には評価表現が観

察されたが、「judgement（規範・世評）」の項目には評価表現が見られなかった。つまり、「評価者の心情（affect）」を示す表現、「女子力」ということばの意味、内容、および使用を評価する表現は見られるが、「女子力」の持ち主の「習慣・性格・行動」を評価対象とする「特徴・能力・信頼性」を表す表現は観察されなかった。また、「評価者の心情（affect）」を示す表現は女性の評価のみに見られた。このことから、「女子力」が否定的に捉えられるのは、「女子力」の持ち主ではなく、その語に関わる「ジェンダー」の問題からであると言える。

6.5　分析の小括

以上の「女子力」の捉え方の分布および、その理由における評価表現の分析を小括する。

今回の調査範囲では、「女子力」に対するイメージにおいては、「いいイメージ」から、「どちらかというといいイメージ」「どちらかというとよくないイメージ」「よくないイメージ」のいずれにも回答の分布が観察され、かつその分布の割合が「いいイメージ」から「よくないイメージ」にかけて累減する傾向が見られる。このことから、「女子力」に対するイメージにはバリエーションが見られ、「女子力」の捉え方が一様ではないことが分かる。しかし、全体的には、「いいイメージ系（74%）」が「よくないイメージ系（25%）」より多い傾向を示している。

「いいイメージ」「どちらかというといいイメージ」を持つ理由における評価表現は「affect（感情）」「judgement（規範・世評）」「appreciation（反応・構成・価値）」のいずれの項目にも分布が観察された。「どちらかというとよくないイメージ」では、「affect（感情）」「appreciation（反応・構成・価値）」に属する評価表現は見られたが、「judgement（規範・世評）」に当てはまる表現は観察されなかった。また、「よくないイメージ」を回答したのは女性のみで、その理由に観察された評価表現は「affect（感情）」を示すものだけである。

具体的な表現としては、「女子力」に対する肯定的な捉え方（いいイメージ系）では、「憧れる」「惚れる」「好感を持つ」「嬉しい」という評価者の心情を表す表現が挙げられる。また、「可愛らしい」「きちんとした」「能力高い」「よくできた」といった「女子力」の持ち主の「習慣・性格・行動」を評価する表現も挙げられる。「褒め言葉」「良い意味で使う」「生きていく上で困るものではない」といった「女子力」ということば自体お

よびその内容に対する評価が示されている。これらの評価表現から、「女子力」に対して肯定的な捉え方を示すのは、「女子力」の持ち主に見られる「習慣・性格・行動」の側面および、「女子力」の意味やことばとしての働きによるものであることが分かる。一方、「女子力」に対する否定的な捉え方（よくないイメージ系）では、「めんどくさそう」および「差別される」「からかわれる」という評価者の心情を表す表現が挙げられる。注目に値するのは、男性の否定的な捉え方を示す評価表現には、評価者の心情を表す表現は観察されなかったところである。「女子力」という「力」による派生語の前接語の「女子」が表すように、「女子力」ということばが直接関与している主体は女性である。したがって、女性は評価される側として「めんどくさそう」および「差別される」「からかわれる」という心情を表す表現で、「女子力」ということばに対して否定的な態度を示している。

「女子力」に対する否定的な捉え方では、「定義が曖昧」「ジェンダー的に問題がある」「女性らしさの押し付け」「ステレオタイプを助長している」といった「女子力」ということば自体およびその内容（事象）に対する評価表現が見られる。これらの評価表現は女性にも男性にも観察される。つまり、「女子力」ということばの定義が曖昧、ジェンダー的に問題があることは「よくないイメージ系」を持つ女性と男性の共通認識である。また、「女子力」に対しての「よくないイメージ系」の理由には人の「習慣・性格・行動（judgement）」を評価対象とする評価表現は観察されなかったことから、「女子力」に対して否定的な態度を示すのは、「能力高い」「きちんとした」「気を遣う」「可愛らしい」といった「女子力」に表象される「習慣・性格・行動」そのものによることではなく、女性との結び付きというそのことばのジェンダーの問題があるためである。これは、「「女子」に固定する必要は無い」という評価表現によく表れている。なお、「女子力」に対する評価に見られる態度を示す表現の特徴および評価の対象は以下の表 6-7 にまとめられる。

表 6-7　「女子力」に対する評価のまとめ

	イメージ	評価表現	評価対象
いいイメージ系	いい	肯定的	❶ことば ❷持ち主
	どちらか	肯定的、否定的	
よくないイメージ系	どちらか	否定的	ことば
	よくない	否定的	

6.6　「女子力」に対する捉え方の二面性

上記の分析から、「女子力」ということばを巡る評価には、肯定的な態度を示す語彙・表現もあるが、否定的な態度を示す語彙・表現も見られる。このような対照的な態度を示す表現は「女子力」の二面性を示している。以下では、第 3 章、4 章、5 章の分析結果を挙げながら、なぜ「女子力」は二面性を持つかを分析したい。

第 3 章の分析では、「女子力」ということばにジェンダーの要素と能力の要素が混在していることを示した。「女子力」イコール「女性らしさ」と捉える人もいること、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化することばであることを明らかにした。「女子力」が肯定的および否定的に捉えられるのは、「女子力」は「女性らしさ」と関連を持つからである。「女子力」は「女性らしさ」と同じく、社会に認められ評価される「女性があるべき姿」という側面があると同時に、「女性」に対するステレオタイプ、規範という側面もある。したがって、「女子力」を巡る評価には、「憧れる」「好感を持つ」「素敵」「誉められる」「魅力」「きちんとした」という肯定的な態度を示す語彙・表現がある一方、「ジェンダー的に問題がある」「女性らしさの押し付け」「「女子」に固定する必要は無い」「めんどうくさそう」「差別される」という否定的な態度を示す語彙・表現も見られる。そして、「女子力」ということばの持つ能力の要素も「女子力」が二面性を持つ理由になる。第 3 章では、「女子力」は一種の能力として評価され、「女子力」があることは能力を持つことにつながっていることを述べた。そのため、今回「女子力」を巡る評価にも「能力高い」「きちんとした」「よくできた」「人の頑張りを評価してくれる」「自分磨きをしている」「優れている」といった肯定的な態度を示す表現がある。一方、「めんどうくさそう」という否定的な態度を示す表現も見られる。このように、「女子力」ということばに混在するジェンダーの要素と能力の要素は、「女子力」に対する評価の二面性の理由になる。

また、第 4 章の分析では、「女子力」は【性格・外見・様子】【家事・料理】【人や物事に対する気配り・態度】という 3 つの領域と関わっていることを示した。その中で、【人や物事に対する気配り・態度】に属する「抜かりない」「誠実」「整う」などが表す内容は「対他者」および「対物事」において評価される品格だと述べた。したがって、「女子力」を巡る評価に、特に人の「習慣・性格・行動（judgement）」を評価対象とするカテゴリーには、「気配りができる」「気を遣う」「生きていく上で困るものではない」「いろいろなことに気をつけてる」という肯定的な態度を示す語彙・表現が見られる。さらに、「女子力」が「ほめ」の効果のあることばとして使われることは、「話し手」と「聞き手」のどちらから見ても、観察された。また、「からかい」「忠告」「批判」の効果のあることばとして使われることが女性の「聞き手」の視点からの分析で浮き彫りになった。これらは、第 5 章の「女子力」の使用の分析から分かった。本章の「女子力」を巡る評価には、「人の頑張りを評価してくれる」「良い意味で使う」「褒め言葉」ということばを評価対象に肯定的な態度を示す表現が見られるとともに、「からかわれる」「からかっているようにも聞こえる」という否定的な態度を示す表現も見られる。

6.7　終わりに

本章では、「女子力」がどのように評価され、語られるのかを分析した。「女子力」に対する肯定的な捉え方と否定的な捉え方から「女子力」の二面性が浮き彫りになった。

本章では、アプレイザル理論における attitude（態度評価）を分析の枠組みとして利用して、「女子力」を分析した。調査項目の「「女子力」に対してどのようなイメージを持っていますか。」という設問のように、今回の評価対象は「女子力」ということばである。一方、具体的な評価においては、「女子力」を対象として直接評価するデータもあるが、「女子力」の機能、「女子力」と関連する概念、および「女子力」の持ち主などを対象に評価を示すこともある。つまり、評価対象には、上位と下位の区分が見られ、そこから読み取れる評価対象とそれに対する評価表現をそれぞれ judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）に分類した。例えば、「細部まで気を遣う、きちんとした、よくできた人間」は judgement（規範・世評）に、「褒め言葉だ」は appreciation（反応・構成・価値）に分類した。一方、これらはいずれも設問にある「女子力」ということばに対する評価なので、データごとに分類した上で、「女子力」ということばに対する評価として帰結させた。この分析のプロセスは、言語資源を用いて評価という行為を

行う際に、評価対象に上位と下位の区分があることを示している。そして、その中の上位区分は場合によって、文字に出ず、隠されていることもある。評価対象には上位と下位の関係が存在する場合、どのように扱われるかということは、アプレイザル理論ではまだ明確に提示されていない。

また、attitude（態度評価）における affect（感情）、judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）という 3 つの評価基準の中で、judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）の評価対象はそれぞれ「人の「習慣・性格・行動」」「事象」である。一方、affect（感情）の評価対象は明確に提示されていない。今回の分析では、回答者（評価者）の心情を示す表現には「惚れる」「嬉しい」「からかっているようにも聞こえることがある」などがある。その中で、「惚れる」の評価対象は「女子力のある女性」で、つまり「人」になる。一方、「嬉しい」「からかっているようにも聞こえることがある」の評価対象は「女子力あるね」という発言になる。このように、affect（感情）の評価対象には、judgement（規範・世評）の評価対象である「人」も見られるが、appreciation（反応・構成・価値）の評価対象である「事象」も存在する。ここでは、affect（感情）の評価対象のカテゴリーを設ける必要性および、attitude（態度評価）の affect（感情）、judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）を並列させるのではなく、上位カテゴリーと下位カテゴリーを設けることの必要性があることを示唆している。

第 7 章　本研究のまとめと今後の展望

終章である第 7 章では、まず、本研究のまとめを行う。次に、本研究の意義と今後の展望を述べる。

7.1　本研究のまとめ

本研究は、「女子力」ということばの表現の面と使用の面の特徴を、多角的な視点から明らかにした。以下では、本研究の研究課題を改めて提示しながら、分析結果をまとめる。

まず、「力」による派生語から見る「女子力」の位置づけおよび「女子力」についての意味分析という課題である。

「女子力」の形成、広がり、定着において社会的要因、ジェンダーの課題と関わることは、「力」による派生語の他の語と比べて、「女子力」を特徴づけるところである。「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化し、「doing gender（ジェンダーする）」という行為を表すことばである。具体的には、単純語である「力（ちから）」を切り口に、「力」による派生語を【ありか】【性質】【用途・目的・影響先】【その他】という 4 つの分類に大別できる。「女子力」は【ありか】に位置づけられる。一方、同じく【ありか】に位置づけられる「背筋力」「軍事力」「チーム力」と比べて、「女子力」は意志を持つ主体がその力の【ありか】となる。また、「女子力」は社会的要因、ジェンダーの課題と絡めるのは特徴的である。「女子力」を巡る記述における「女性らしさ」といった言語的標識から、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化し、「doing gender（ジェンダーする）」という行為を表すとともに、「女性らしさ」のありかを示していることが明らかになった。「できる」「優れている」といった言語的標識およびそれに対応する「家事」「料理」といった表象から、「女子力」は伝統的ジェンダー規範を維持し、構築する側面があることを示した。

次に、「女子力」からの連想語、「女子力」を表す語から見る「女子力」と「女性らしさ」の関連、「女子力」に関わる領域および、「女子力」と「女性」と形容詞のコロケーションを比較することから見る「女子力」の特徴という課題である。

「女子力」からの連想語と「女子力」を表す語から、「女子力」に関わる三領域を示した。また、「女子力」からの連想語と「女子力」を表す語における形容詞をピックアッ

プして、中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションを比較した結果、「女子力」は年齢を超え、誰にでも見られる能力のことを示唆している。具体的には、「女子力」からの連想語から、「女子力」は【性格・外見・様子】【家事・料理】【人や物事に対する気配り・態度】という三領域と関わっていて、この 3 つの領域は「個人」「家庭」「社会」に広がっていることがうかがえた。そして、「女子力」は「女性らしさ」を構築するのに、利用できる手段・資源であることを「女子力」から連想される語、「女子力」を表す語における形容詞の分析から示した。また、「女子力」から連想される形容詞、「女子力」を表す形容詞と中立的な語感を持つ「女性」と形容詞のコロケーションを比較した結果、共通点としては、いずれも「女性らしさ」に関する項目と重なっている部分があることが挙げられる。異なるのは、「女性」と形容詞のコロケーションと対照的に、「女子力」と「若さ」を表すことばのつながりが弱いことである。そこから、「女子力」は能力として年齢に関わらず、誰にでも見られると考えられる。

続いて、「女子力」はどのような使用の様相を呈しているのかという研究課題である。この課題について、語用・メタ語用の観点から分析を行った。その結果は下記の通りにまとめることができる。

「話し手」の視点から分析した結果、まず、性別では、女性も男性も相手の性別を問わず、「女子力」を使うことが分かった。相手との関係では、友達のみに使う。そして、「女子力」を使う対象となる事柄では、女性より、男性に使える「女子力」の対象の範疇は狭いことが分かった。また、具体的な表現では、1)「女子力ある（ね/よね)」、2)「女子力高い（な/ね)」、3)「女子力貸して」が観察された。さらに、引用における引用標識の「ほめた」、および、その引用を巡る描写における「冗談」「ふざけて言う」といった言語的標識を軸にした分析から、「女子力あるね」「女子力高いね」などの表現を、女性は同性の女性に対して「ほめ」の効果があることばとして使うが、男性はそれを「冗談としてのほめ」として同性の男性に使うことが分かった。この違いから、男性が「女子力」に対して持つ距離感が垣間見える。「女子力」はその形式の「女子」の表すジェンダーの境界線を越え、男性のジェンダー領域にも入って男性に対しても用いられる。しかし、元々女性のジェンダー領域に属するものだという認識は、男性に対して「女子力」を用いることへの距離感を生み、それが「冗談」「ふざけて言う」という解釈で浮き彫りになった。

「聞き手」の視点から分析した結果、まず、相手との関係では、女性は友達に「女子

力」を使われただけではなく、目上の人（母）にも使われたことが分かった。男性は友達、彼女に「女子力」を使われたことが分かった。具体的な表現としては、「女子力高い（ね/な）」「女子力ある（ね）」といった「女子力」と評価される時に使われる表現があるだけではなく、「女子力低い」「女子力ないぞ」「女子力を磨きなさい」という「女子力」と評価されない時に使われる表現もあった。これは「話し手」の視点から見た具体的な表現と異なっている。そして、「女子力」は「ほめ」の効果のあることばとして使われただけではなく、「批判」や「忠告」の効果のあることばとしても使われたことが「聞き手」の視点から分かった。

つまり、「女子力」の使用においては、「ほめ」の効果のあることばとして使われることは、「話し手」と「聞き手」のどちらから見ても、観察されたところである。一方、「女子力」は「忠告」「批判」の効果のあることばとして使われることが女性の「聞き手」の視点からの分析で浮き彫りになった。女性も男性も「女子力」を肯定的に使ったり、受け取ったりしているが、女性の場合は「女子力」を否定的に使われたり、受け取ったりすることが特徴的である。このことは、「女子力」の揺らぎを示している。

「女子力が高いね」およびそれに対する「応答」を分析した結果、「女子力が高いね」に対して、「応答」および「応答の不在」という 2 つのパターンがあった。女性も男性も「女子力が高いね」に対する距離感が「応答しない」理由の分析から示された。具体的には、女性が「女子力」に対して距離感を示したのは、「女子力」に対してのなじみがないことからであり、男性が「女子力」に対して距離感を示したのは、「女子力」ということばに関わるジェンダーの要素からであることが明らかになった。また、「女子力」に対しての「応答」に見られる具体的な表現には「肯定」「疑問」「否定」をそれぞれ表す表現が観察された。「女子力が高いね」に対し、男性はジェンダー・アイデンティティを主張し、そこから「女子力」はジェンダーの境界線を越え、使う対象は男性に拡張して、男性に対しても「女子力」が使えるが、男性はそれに対して、距離を置くことが「応答」における「僕」「俺」といった人称詞、否定的なマーカーである「いや」および、ジェンダーを表す「男」からの分析から明らかになった。

最後に、「女子力」はどのように評価され、そこにはどのような評価表現が見られ、「女子力」に対しての捉え方の特徴は何かという課題である。この課題に関して、アプレイザル理論を分析の枠組みとして、論じた。

「女子力」の捉え方の全体像としては、「いいイメージ」から、「どちらかというとい

いイメージ」「どちらかというとよくないイメージ」「よくないイメージ」のいずれにも回答の分布が観察された。これは、「女子力」に対するイメージにはバリエーションが見られ、「女子力」の捉え方が一様ではないことを示した。そして、アプレイザル理論を用いて、評価表現を分析した結果、「いいイメージ系」を持つ回答者は「女子力」ということばと「女子力」の持ち主の両方に肯定的評価を示している一方、「よくないイメージ系」を持つ回答者は「女子力」ということばのみに否定的評価を述べている。このことから、「女子力」の二面性が浮上していることが分かった。

以上は本研究の分析結果のまとめである。以下では、本研究の意義について述べる。

7.2　本研究の意義

本節では、言語とジェンダー研究、語彙の研究、ジェンダー表現への理解の面、社会的な意義の面から本研究の意義を述べる。

<u>言語とジェンダー研究の面</u>

本研究は表現の面および言語使用の面から、「女子力」を分析した。先行研究における「ジェンダー表現研究」は表現の面だけに着目して、女性を指す語およびそれと男性を指す語の異なり、非対称性などの観点から論じたものがほとんどである。これに対して、本研究は「女子力」を表現の面から、その意味、「女性らしさ」との関連、関わる領域、「力」による派生語の全体像における位置づけを明らかにした上で、語用・メタ語用の視点からその使用の特徴も明らかにした。これは、「ジェンダー表現研究」「言語使用とジェンダー研究」という 2 つの流れを融合させた研究で、ジェンダーに関わることばをより複眼的に追及する可能性を示した。また、複眼的な視点を持ち、「女子力」を表現の面および使用の面からその特徴を解明することで、「女子力」と「女性らしさ」の関連、「女子力」と「ジェンダー規範」およびその再生産のことが明らかになった。つまり、本研究の分析を通して、「女子力」ということばに潜むジェンダーの要素が浮き彫りになった。例えば、「女子力」は「女性らしさ」を構築するプロセスを可視化することばであるとともに、「doing gender（ジェンダーする）」という行為を表すことばでもある。そして、「女子力」は「女性らしさ」を構築するのに利用できる資源・手段であることを明らかにした。このような「女子力」と「女性らしさ」の関連を明らかにすることで、「女性らしさ」はつくられ、構築されたものであるということにより一層の

裏付けを与えた。つまり、本研究の分析結果は「女性らしさ」は本来的に備わっているものではないということへの根拠を提供した。

語彙の研究の面

ある対象の位置づけを明らかにするために、その対象を内包する体系の全体像を明らかにする必要がある。本研究は研究対象である「女子力」の位置づけを明らかにするために、それを内包する「力」による派生語の全体像を把握した。「力」の造語力は非常に高いと言え、それによる造語は数多く挙げられる。本研究の第 3 章では、言語コーパスのデータを扱い、「力」による派生語の全体像を述べた。この結果は、語彙の研究における漢語接尾辞「力」およびそれによる派生語の全体像の把握することに寄与することができると考えられる。また、本研究はジェンダーに関わる現代日本語表現「女子力」を取り上げて、多角的な視点から分析を行った。このアプローチは語彙の研究における新しい可能性を示した。つまり、本研究は語彙の量的な特徴および体系的な特徴に重きを置くのではなく、ことばとジェンダーの接点に位置づけられる「女子力」を巡って、その意味、使用、それに対する評価といった角度から多面的に分析した。このようなアプローチはより一層ことばの特徴を多角的に、連動的に見ることができ、語彙の研究における新しい方向性を示唆している。

ジェンダー表現への理解の面

雑誌、バラエティー番組といったメディアを利用して、日本語のレベルを上達させる日本語学習者も数多くいる。「女子力」もこれらのメディアに頻繁に登場している。日本語学習者は雑誌などのメディアの文脈からのみ「女子力」を認識するのは不十分で、このことばに関わるジェンダーの側面を見逃す恐れがある。本研究は「女子力」の意味と使用、「女子力」に対する評価を明らかにすることで、日本語学習者の「女子力」に対する理解の一助になることができる。また、「ジェンダー平等」が国際的な課題として取り上げられているため、言語とジェンダーの問題は各側面からさらに取り組む必要があり、日本語教育もこれを避けることはできないと考えられる。本研究の分析結果は「女子力」を糸口に、日本語教育、特に語彙の教育に導入されたジェンダーに関わることばを一側面だけではなく、そのことばがどのようにジェンダーの問題と関わっているのかを学習者に紹介する必要性を示唆している。さらに、ジェンダーと関わる「女子力」

は「言語と社会文化」「日本語の現代事情」という授業、課題に位置づけられ、それについて理解することで「老人力」「鈍感力」「人間力」とともに、日本社会および文化の一端を学ぶことができると思われる。

社会的な意義

「女子力」の分析結果は、人々の「女性らしさ」に対する認識の変化および男女格差の縮小に貢献できることが望ましい。「「女らしさ」「男らしさ」という自然の性差が存在するという信念は、女と男に別々の行為規範（ジェンダー規範）にのっとったふるまいを要請する」（佐竹 2018：44）。本研究の分析は「女子力」を向上させることにより、「女性らしさ」が構築されることを示した。この結果が人々の「女性らしさ」の認識、男女格差の縮小に役に立つことが望まれる。また、「女子力」の捉え方における評価表現から、「女子力」は「ステレオタイプの助長」「女性らしさの押し付け」の恐れがあることが明らかになった。このような実態の中、女性、男性はそれぞれ自分の価値観によって、性別に関わらず一種の能力としての「女子力」に関わるものを決めることができ、女性に「女子力」を強要しない社会が望まれることを示唆している。

7.3　今後の展望

本研究は、さらに以下のような課題に発展させる可能性がある。

まず、中国語の“力”と対照しながら、漢語接尾辞「力」の造語のメカニズムをさらに究明することが期待される。本研究は「女子力」の位置づけを明らかにするため、言語コーパスのデータを扱い、「力」による派生語の全体像を把握した。一方、他言語と対照することで、日本語の特徴をより一層明確にすることができると考えられる。中国語にも“想象力”“影响力”などの“力”による派生語が挙げられるが、その造語のメカニズムは日本語とどのような共通点と相違点があるのか、そこから見える日中両言語における「力」による造語の特徴を明らかにすることが今後の課題である。

今後は、データを充実させて、「女子力」に関する考察を深めていきたい。本研究の調査回答者の年代は 10 代～20 代の大学生・大学院だけで、「女子力」への解釈、「女子力」の捉え方における年代差および職業による差を見ることができなかった。今後は調査対象を拡大させ、年代、職業などの条件が異なると、「女子力」の捉え方はどのような違いを見せるのかを研究する。また、本研究は、調査項目の広がりおよびデータの量

的な側面を考慮して、アンケート調査の形でデータを収集した。今後はインタビューの形でデータを収集して、「女子力」についての質的な研究を行いたい。その質的な研究を通し、「女子力」と「ジェンダー規範」の再生産、「女子力」と男性性の研究に展開したい。

また、今後は、研究対象を拡大させ、研究を進めたい。本研究は「女子力」のみを取り上げて、多角的に分析を行った。「ワーキングママ」「イクメン」「○○ガール」「○○女子」「○○男子」といったジェンダーに関わる新語はまだ多数挙げられる。今後では、ジェンダーに関わる新語を語構成、意味、使用などの角度から体系的に分析したい。これらを明らかにすることにより、言語とジェンダー研究、語彙の研究に対する更なる貢献が期待される。

本研究の第 6 章では、アプレイザル理論における attitude（態度評価）を枠組みとして、「女子力」を巡る評価における語彙・表現を分析した。アプレイザル理論の運用で、「女子力」が肯定的および否定的に評価される各側面が浮き彫りになった。しかし、この理論には不足しているところもあると思われる。例えば、attitude（態度評価）の judgement（規範・世評）および appreciation（反応・構成・価値）の評価対象は「人の「習慣・性格・行動」」および「事象」であるが、それらと並列する affect（感情）の評価対象ははっきりしていないこと、judgement（規範・世評）、appreciation（反応・構成・価値）、affect（感情）という 3 つは並列させていいのか、上位、下位に区分する可能性などは今回の運用でうかがえた。affect（感情）の評価対象を明確に提示すれば、より何/誰について、そのような affect（感情）を持つかということをはっきりさせることができる。今後はより多くのデータを用い、アプレイザル理論を検証し、発展させるとともに、評価表現の視点から語彙を研究する。

付録Ⅰ－調査票

「女子力」に関する調査

本調査へのご回答の内容は学術的な目的以外に使用することは決してございません。また皆様の個人情報を他者に見せることもございません。個人情報の保護に最大限の配慮をいたします。皆様が記入してくださるご回答は「女子力」に関する研究において、貴重な参考資料やデータとなりますので、ご協力をお願いいたします。

筑波大学人文社会科学研究科　国際日本研究　馬雯雯

Ⅰ ご自身のことについて

1. **性別**

☐ 女性

☐ 男性

☐ 答えたくない

2. **年齢**

☐ 10 代

☐ 20 代

☐ 30 代

☐ 40 代

☐ 50 代

☐ 答えたくない

3. **職業・身分**

II 調査項目

問 1:「女子力」ということばを知っていますか。知っているなら、どのようにして知ったのかを教えてください。

☐ 知っている

☐ 知らない

どのようにして知ったのか。（複数選択可）

☐ 雑誌

☐ テレビ

☐ インターネット・SNS

☐ 授業・教科書

☐ 周りの人

☐ その他

問 2: 問 1 で「知っている」と答えた方におたずねします。あなたが考える「女子力」とは何ですか。

問 1 で「知らない」と答えた方におたずねします。「女子力」とは何だと思いますか。

問 3:「女子力」から連想する形容詞を挙げてください。

問 4:「女子力」に対してどのようなイメージを持っていますか。

☐ いいイメージ

☐ どちらかというといいイメージ

☐ よくないイメージ

☐ どちらかというとよくないイメージ

☐ 特にイメージは持っていない

その理由：

問 5 :「女子力」を表す形容詞を挙げてください。

問 6 :「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。

問 7 :「女子力」及びそれを含むことばを誰かに使われたことがありますか。ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方でその時の自分の反応を具体的に教えてください。

問 8 :「女子力が高いね」と言われたら、それに対しての返事はしますか。するなら、どのような発話をしますか。しないなら、その理由を教えてください。

☐ する

☐ しない

するなら、どのような発話をするのか教えてください。

しないなら、その理由を教えてください。

問 9 :「女子力」に関して考え方や意見があれば、自由にご記入ください。

（なお、アンケート調査は Google フォームを利用して行った）

付録Ⅱ－「力」の派生語リスト

頻度順位 51～

総数：7,304　異なり語数：867

順位	語（頻度）	異なり語数
51	語学力（83）	1
52	資金力（78）、感染力（78）	2
53	財政力（75）	1
54	構想力（74）	1
55	対抗力（73）、消防力（73）	2
56	観察力（72）	1
57	求心力（71）	1
58	戦闘力（70）	1
59	組織力（69）、交渉力（69）、総合力（69）	3
60	包容力（66）、回復力（66）	2
61	潜在力（65）、ブランド力（65）、防御力（65）、供給力（65）	4
62	吸収力（63）	1
63	販売力（62）	1
64	収納力（61）	1
65	教育力（59）	1
66	適応力（58）	1
67	営業力（57）	1
68	吸引力（56）	1
69	企画力（55）	1
70	神通力（54）、生活力（54）、経営力（54）	3
71	歌唱力（53）、カバー力（53）	2
72	復元力（52）	1
73	読解力（51）	1

74	霊能力（50）	1
75	起電力（49）、持続力（49）、地域力（49）	3
76	集客力（48）、守備力（48）	2
77	回転力（47）	1
78	決定力（45）	1
79	減衰力（44）	1
80	文章力（42）、発想力（42）	2
81	情報力（40）、資本力（40）	2
82	警察力（39）、繁殖力（39）	2
83	計算力（38）	1
84	工業力（37）、慣性力（37）、爆発力（37）、海軍力（37）、執行力（37）、親和力（37）	6
85	耐久力（36）、得点力（36）	2
86	牽引力（35）、打撃力（35）、自衛力（35）、地震力（35）、防災力（35）、制動力（35）	6
87	直感力（34）、結束力（34）、反発力（34）	3
88	保湿力（33）	1
89	分析力（32）、保水力（32）、統率力（32）、商品力（32）、コミュニケーション力（32）	5
90	航続力（31）	1
91	応用力（30）、自給力（30）	2
92	粘着力（29）、構成力（29）、介護力（29）、弾性力（29）	4
93	意志力（28）、チーム力（28）、競技力（28）、解像力（28）	4
94	収縮力（27）、人間力（27）、操舵力（27）	3
95	結合力（26）、背筋力（26）、動員力（26）、証明力（26）、団結力（26）	5
96	保存力（25）	1

97	加圧力（23）、国語力（23）、出生力（23）	3
98	直観力（22）、自然力（22）、殺傷力（22）	3
99	推理力（21）、実践力（21）、パンチ力（21）、 投手力（21）、空気力（21）、長打力（21）	6
100	段取り力（20）	1
101	統制力（19）、会話力（19）、駆動力（19）、 認識力（19）、提案力（19）、捜査力（19）	6
102	抗菌力（18）、機械力（18）、空想力（18）、 担保力（18）、収容力（18）、電磁力（18）、 光子力（18）	7
103	洗浄力（17）、衝撃力（17）、科学力（17）、 調達力（17）、一行力（17）、基礎力（17）、 収集力（17）	7
104	描写力（16）、抑制力（16）、殺菌力（16）、 浸透力（16）、せん断力（16）、財務力（16）、 仕事力（16）、担税力（16）、	8
105	説明力（15）、生存力（15）、アップ力（15）、 水平力（15）、絶対力（15）、中心力（15）	6
106	感化力（14）、形成力（14）、記銘力（14）、 魔導力（14）、保温力（14）、キープ力（14）、 グリップ力（14）、磁気力（14）、制球力（14）	9
107	作用力（13）、活動力（13）、再生力（13）、 発信力（13）、吸水力（13）、出産力（13）	6
108	批判力（12）、跳躍力（12）、取材力（12）、 移動力（12）、コントロール力（12）、リスニング力 （12）	6
109	起動力（11）、ジャンプ力（11）、公信力（11）、 有形力（11）、論理力（11）、保持力（11）、 イメージ力（11）、けん引力（11）、ものづくり力	11

	(11)、治ゆ力（11)、調整力（11）	
110	消化力（10)、主導力（10)、独占力（10)、意思力（10)、貫通力（10)、文法力（10)、読書力（10)、支持力（10)、媒体力（10)、デザイン力（10)、マーケティング力(10)、屈折力(10)、整理力(10)、訴求力（10）	14
111	熱水力（9)、負担力（9)、行政力（9)、国防力（9)、規制力（9)、キック力（9)、喚起力（9)、恋愛力（9)、認知力（9)、展開力（9)、シュート力（9)、圧縮力（9)、運営力（9)、語彙力（9）	14
112	鑑賞力（8)、予備力（8)、消費力（8)、企業力（8)、識別力（8)、知覚力（8)、掌握力（8)、吸着力（8)、通用力（8)、独創力（8)、自制力（8)、防犯力（8)、発展力（8)、発見力（8)、把握力（8)、鈍感力（8)、バランス力（8)、暗記力（8)、加速力（8)、還元力（8)、前後力（8）	21
113	上昇力（7)、接着力（7)、空軍力（7)、造形力（7)、酸化力（7)、選択力（7)、摂取力（7)、輸出力（7)、保障力（7)、勃起力（7)、文化力（7)、透過力（7)、カール力（7)、マネジメント力（7)、演奏力（7)、革新力（7)、管理力（7)、言語力（7)、子育て力（7)、先行力（7)、調節力（7）	21
114	探求力（6)、浄化力（6)、迫真力（6)、学習力（6)、計画力（6)、伝染力（6)、宣伝力（6)、蒸気力（6)、固定力（6)、運動力（6)、把持力（6)、電気力（6)、人間関係力（6)、現場力（6)、個人力（6)、実現力（6)、設定力（6)、断面力（6）	18
115	透視力（5)、潮汐力（5)、速読力（5)、感応力（5)、演出力（5)、凝集力（5)、創作力（5)、抱擁力（5)、	40

	市場力（5）、運搬力（5）、公定力（5）、金融力（5）、前進力（5）、外交力（5）、連想力（5）、突破力（5）、提供力（5）、活性力（5）、順応力（5）、咬合力（5）、咀嚼力（5）、妄想力（5）、萌芽力（5）、分節力（5）、統一力（5）、アピール力（5）、スプリント力（5）、ダッシュ力（5）、デッサン力（5）、育成力（5）、引張力（5）、加持力（5）、解決力（5）、回避力（5）、鬼神力（5）、受容力（5）、集票力（5）、創出力（5）、耐寒力（5）、代謝力（5）	
116	読心力（4）、数学力（4）、運用力（4）、霊視力（4）、風圧力（4）、結集力（4）、精霊力（4）、復原力（4）、志向力（4）、作文力（4）、共感力（4）、評価力（4）、哺乳力（4）、労動力（4）、魔法力（4）、保護力（4）、粘性力（4）、伝達力（4）、適合力（4）、プロデュース力（4）、育種力（4）、活用力（4）、規範力（4）、脚筋力（4）、区民力（4）、検出力（4）、購売力（4）、採用力（4）、潤滑力（4）、女子力（4）、精進力（4）、製品力（4）、折衝力（4）	33
117	ディフェンス力（3）、救済力（3）、探究力（3）、統御力（3）、感受力（3）、自活力（3）、夫婦力（3）、産業力（3）、起爆力（3）、神道力（3）、貫徹力（3）、解読力（3）、生殖力（3）、解答力（3）、呪縛力（3）、神秘力（3）、調査力（3）、呪術力（3）、物理力（3）、マーチャンダイジング力（3）、仮説力（3）、扶養力（3）、拮抗力（3）、毛管力（3）、防護力（3）、編集力（3）、分解力（3）、腹筋力（3）、武装力（3）、父親力（3）、付着力（3）、飛翔力（3）、濃縮力（3）、入居力（3）、統治力（3）、締結力（3）、カット力（3）、コメント力（3）、シナジー力（3）、ストロー	69

	ク力（3）、そしゃく力（3）、ソフト力（3）、ネットワーク力（3）、ホールド力（3）、育児力（3）、印象力（3）、隠ぺい力（3）、許容力（3）、緊張力（3）、軍備力（3）、健康力（3）、研磨力（3）、公示力（3）、斬撃力（3）、質問力（3）、授業力（3）、集金力（3）、潤い力（3）、常識力（3）、水軍力（3）、制作力（3）、政策力（3）、切替力（3）、先見力（3）、選定力（3）、操作力（3）、増殖力（3）、対話力（3）、着回し力（3）	
118	鑑識力（2）、予見力（2）、設計力（2）、作句力（2）、即応力（2）、構築力（2）、浮揚力（2）、基本力（2）、拡張力（2）、解釈力（2）、展望力（2）、防禦力（2）、禅定力（2）、殺虫力（2）、致傷力（2）、促進力（2）、増幅力（2）、独裁力（2）、保証力（2）、誘引力（2）、聴取力（2）、自浄力（2）、プランニング力（2）、弁別力（2）、散布力（2）、金銭力（2）、占有力（2）、剪断力（2）、論争力（2）、連携力（2）、流動力（2）、率先力（2）、抑圧力（2）、養成力（2）、養育力（2）、予言力（2）、忘却力（2）、募集力（2）、保冷力（2）、文明力（2）、噴出力（2）、分散力（2）、物体力（2）、復興力（2）、負債力（2）、美白力（2）、販促力（2）、発酵力（2）、爆破力（2）、売場力（2）、内燃力（2）、内省力（2）、同化力（2）、闘争力（2）、転換力（2）、定着力（2）、亭主力（2）、追及力（2）、沈降力（2）、直覚力（2）、コーディネート力（2）、サービス力（2）、サポート力（2）、ジェット力（2）、セット力（2）、タイミング力（2）、ブレーキ力（2）、ポンプ力（2）、ランダム力（2）、暗示力（2）、暗唱力（2）、押し付け力（2）、温泉力（2）、加重力（2）、家族力	105

	(2)、海・空軍力（2)、換気力（2)、環境力（2)、競合力（2)、凝縮力（2)、区別力（2)、継続力（2)、警備力（2)、検討力（2)、巧打力（2)、考察力（2)、資産力（2)、失敗力（2)、守護力（2)、集光力（2)、消臭力（2)、証拠力（2)、侵食力（2)、新聞力（2)、診断力（2)、遂行力（2)、制御力（2)、製造力（2)、静電力（2)、接客力（2)、耐震力（2)、断行力（2)、知識力（2)、着こなし力（2)、目測力（2)	
119	都市力、集散力、理知力、抗カビ力、遊泳力、息子力、更新力、印刷力、領導力、争闘力、ポテンシャル力、反応力、呼吸力、修辭力、魅惑力、格闘力、技巧力、行軍力、祈禱力、集注力、システム力、治水力、涵養力、保全力、作成力、肉体力、主砲力、識字力、遺伝力、呼応力、解明力、発現力、読譜力、排斥力、処理力、搭載力、右脳力、励起力、振動力、遡及力、後続力、制約力、越冬力、燃焼力、作動力、アクセス力、明察力、統合力、強打力、瞑想力、溯上力、撥水力、嚥下力、論述力、老い力、霊媒力、霊感力、冷却力、緑茶力、流通力、陸海軍力、理智力、理性力、螺旋力、要約力、予測力、融資力、融合力、誘導力、誘起力、優先力、輸入力、癒し力、目利き力、無限力、無形力、夢現力、民度力、密着力、翻訳力、防腐力、防水力、防止力、膨張力、砲兵力、砲戦力、砲撃力、放湿力、包摂力、補完力、募債力、捕球力、弁識力、勉強力、返済力、変容力、変更力、変革力、平衡力、平行力、分離力、分泌力、物語力、福祉力、風水力、浮上力、普選力、品揃え力、描画力、表面力、漂白力、飛躍力、秘法力、比較力、反響力、発話力、発毛力、発動力、発揮力、	360

	発芽力、迫力力、拍出力、排出力、排泄力、排気力、馬券力、農民力、納税力、入札力、乳化力、内容力、内包力、読破力、読影力、特効力、動物力、投票力、登坂力、伝承力、転職力、転向力、天然力、天才力、適用力、締付力、通信力、追究力、追い越し力、諜報力、成形力、Ａｍａｚｏｎ力、ＤＦ力、アメフト力、インプット力、エンジン力、おかず力、オフェンス力、オペレーション力、くちびる力、クラブ力、クレンジング力、ゲンキ力、ジャーナリズム力、ジョギング力、スタイリング力、ストレート力、スパーク力、スプリング力、セールス力、セレブ力、つながり力、つまみ力、テコ力、ドライヴ力、ドリブル力、ナニワ力、パフォーマンス力、ヒアリング力、ビジネス力、フィード力、ウォータープルーフ力、プレゼン力、プレゼンテーション力、ヘゲモニー力、ボリューム力、マナー力、メッセージ力、ロングラッシュ力、ラッセル力、リード力、リカバリー力、リバウンド力、レシーブ力、ろ過力、圧送力、圧着力、安定力、威嚇力、維新力、英文力、駅伝力、下降力、化学力、加工力、家庭力、華やぎ力、介入力、会合力、解析力、界面力、開拓力、概念力、獲得力、覚知力、学校力、活着力、感覚力、感情力、感銘力、漢字力、監察力、監視力、監督力、看護力、艦戦力、観光力、希釈力、祈念力、規律力、記述力、技能力、吸湿力、吸盤力、吸油力、供与力、共生力、強権力、教学力、教師力、教授力、緊縛力、屈伸力、君臣力、係留力、傾聴力、兄妹力、啓発力、撃退力、結界力、血液力、検索力、研究力、見栄え力、見積もり力、減塩力、減速力、抗ガン	

	力、抗病力、航空力、行使力、合格力、国際力、作業力、削減力、策定力、刷新力、察知力、雑談力、散逸力、産出力、姉妹力、市民力、思弁力、指揮力、指南力、支援力、視察力、事業力、時間力、磁界力、自信力、自生力、自給自足力、自立力、実務力、射撃力、社会力、遮光力、邪視力、邪霊力、受け入れ力、受信力、受胎力、呪験力、需給力、修辞力、修復力、習得力、集魚力、出入力、駿足力、初見力、除水力、渉外力、省察力、省略力、証言力、上向き力、情緒力、植物力、触発力、伸展力、人事力、人前力、垂直力、推察力、推測力、推認力、推論力、水泳力、睡眠力、世渡り力、制裁力、征服力、清浄力、製作力、積載力、接地力、先導力、専門力、洗脳力、戦略力、染毛力、選句力、組成力、雇用力、想起力、捜索力、早食い力、相対力、装備力、走塁力、造型力、造船力、即断力、存在力、駄載力、対向力、耐酸力、大人力、脱脂力、脱水力、単語力、段取力、値引き力、蓄財力、蓄熱力、着火力、聴解力、調停力	

参考文献

【日本語文献】

井出祥子（1997）「女性語の世界－女性語研究の新展開を求めて－」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.1-14 明治書院

伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子（2019）『女性学・男性学－ジェンダー論入門－』（第3版）有斐閣アルマ

今西恭子（2006）「スポーツ記事にあらわれる主観性－日豪の新聞記事の比較を通して－」『時事英語学研究』45, pp.15-28 日本メディア英語学会

内田伸子（1997）「会話行動に見られる性差」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.74-93 明治書院

遠藤織枝（1982）「辞書と新聞にみる男性と女性」『ことば』3, pp.1-20 現代日本語研究会

遠藤織枝（1983）「女性を表わすことば（2）－明治 20 年代を中心に－」『ことば』4, pp.1-27 現代日本語研究会

遠藤織枝（1997）「女性を表す語句と表現－新聞の人物紹介と雑誌広告の欄から－」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.94-113 明治書院

遠藤織枝（2002）「男性のことばの文末」現代日本語研究会（編）『男性のことば・職場編』pp.33-45 ひつじ書房

王淑琴（2000）「接尾辞「的」の意味と「的」が付く語基との関係について－名詞修飾の場合－」『日本語教育』104, pp.50-59 日本語教育学会

大上真礼・寺田悠希（2016）「「女子力」と「男らしさ・女らしさ」に違いはあるか－測定語の変遷に着目して－」『田園調布学園大学紀要』11, pp.169-188 田園調布学園大学

奥津敬一郎（2004）「連体修飾とは何か」『日本語学』23（3），pp.6-16 明治書院

尾崎喜光（1997）「女性専用の文末形式のいま」現代日本語研究会（編）『女性のことば・職場編』pp.33-58 ひつじ書房

影山太郎（2007）「接尾辞「-化」，-ize，-ify の属性叙述機能」『人文論究』57（2），pp.19-36 関西学院大学

金丸芙美（1993）「人称代名詞・呼称」『日本語学』12（6），pp.109-119 明治書院

金丸芙美（1997）「人称代名詞・呼称」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.15-32 明治書

院
鹿野政直（1989）『婦人・女性・おんなー女性史の問いー』岩波書店
河上誓作（1996）『認知言語学の基礎』研究社
河原和枝（2012）「「女子」の意味作用」馬場伸彦・池田太臣（編）『「女子」の時代！』pp.17-35 青弓社
神田靖子（2013）「過渡期にある男性性ーブロガーの「草食男子」への評価からみる男らしさー」神田靖子・高木佐知子（編）『ディスコースにおける「らしさ」の表象』pp.1-34 大阪公立大学共同出版会
菊地夏野（2016）「「女子力」とポストフェミニズムー大学生の「女子力」使用実態アンケート調査からー」『人間文化研究』25, pp.19-48 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
菊地夏野（2019）『日本のポストフェミニズムー「女子力」とネオリベラリズムー』大月書店
金光成（2014）「評価的意味を表わす日本語複合動詞の用法と文脈」『日語日文學』64（64）, pp.43-61 大韓日語日文學會
近藤優衣（2014）「「女子力」の社会学ー雑誌の質的分析からー」『女子学研究』4, pp.24-34 甲南女子大学女子学研究会
京極興一（1994）「「女性」の語誌ー明治初期から中期に至るー」『上田女子短期大学紀要』17, pp.21-29 上田女子短期大学
小川早百合（1997）「現代の若者会話における文末表現の男女差」日本語教育論文集小出詞子先生退職記念編集委員会（編）『日本語教育論文集ー小出詞子先生退職記念ー』pp.205－220 凡人社
国立国語研究所（1972）『国立国語研究所報告 44 形容詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
ことばと女を考える会（1985）『国語辞典にみる女性差別』三一書房
小林美恵子（1997）「自称・対称は中性化するか？」現代日本語研究会（編）『女性のことば・職場編』pp.113-137 ひつじ書房
小林美恵子（2016）「「日常生活」における自称詞ー特徴と使い分けー」現代日本語研究会 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・髙橋美奈子（編）『談話資料ー日常生活のことばー』pp.41-72 ひつじ書房

小山亘（2009）『記号の思想－現代言語人類学の一軌跡シルヴァスティン論文集－』 三元社

小山亘（2016）「メタコミュニケーション論の射程－メタ語用的フレームと社会言語科学の全体－」『社会言語科学』19（1），pp.6-20 社会言語科学会

斎藤倫明（2016）「語彙総論」斎藤倫明（編）『講座 言語研究の革新と継承 日本語語彙論Ⅰ』pp.1-31 ひつじ書房

桜井隆（2002）「「おれ」と「ぼく」」現代日本語研究会（編）『男性のことば・職場編』pp.121-132 ひつじ書房

佐々木掌子・尾崎幸謙（2007）「ジェンダー・アイデンティティ尺度の作成」『パーソナリティ研究』15（3），pp.251-265 日本パーソナリティ心理学会

佐々木瑞枝（2000）『女と男の日本語辞典（上巻）』東京堂出版

佐々木瑞枝（2003）『女と男の日本語辞典（下巻）』東京堂出版

佐々木瑞枝（2006）「日本語の男性を表す語句と表現－資料からみる日本語の変遷－」日本語ジェンダー学会（編）『日本語とジェンダー』pp.1-19 ひつじ書房

佐々木瑞枝（2018）「ジェンダーから見た日本語の現在」『日本語学』37（4），pp.2-10 明治書院

佐竹久仁子（2011）「フェミニズムと語彙」斎藤倫明・石川正彦（編）『これからの語彙論』pp.189-200 ひつじ書房

佐竹久仁子（2018）「ことばの規範とジェンダー－こどもたちが学ぶこと－」『日本語学』37（4），pp.44-54 明治書院

佐竹秀雄（2001）「女性冠詞の根本問題は解決していない」遠藤織枝（編）『女とことば－女は変わったか、日本語は変わったか－』pp.73-79 明石書店

佐野大樹（2010）「ブログにおける評価表現の使い分けの特徴－アプレイザル理論からみた評価基準と表現の直接性/間接性の関係－」『計量国語学』27（7），pp.249-269 計量国語学会

佐野大樹（2012a）「日本語アプレイザル評価表現辞書（JAppraisal 辞書）～態度評価編～Version1.2 仕様説明書，及び，評価表現分類表」大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所 コーパス開発センター <https://www.gsk.or.jp/files/catalog/GSK2011-C/JAppraisal1.2_READMEONLY-release1.0.1-active.pdf>

佐野大樹（2012b）「アプレイザル理論を基底とした評価表現の分類と辞書の構築」『国立国語研究所論集』3，pp.53-83 国立国語研究所
寿岳章子（1979）『日本語と女』岩波書店
徐微潔（2012b）「新聞記事からみた女性標示語「女流～」の現在」『ことば』33，pp.50-68 現代日本語研究会
徐微潔（2013a）「日本語における女性標示語「女子～」」『日本語と日本文学』55，pp.22-37 筑波大学日本語日本文学会
徐微潔（2013c）「女性標示語としての「女～」と“女（nv）～”－日中対照研究の試み－」『ことば』34，pp.43-58 現代日本語研究会
徐微潔（2014）「現代日本語におけるジェンダー表現－「女性標示語」を中心に－」筑波大学人文社会科学研究科博士（言語学）学位請求論文
鈴木英夫（1998）「現代日本語における女性の文末詞」佐々木峻・藤原与一（編）『日本語文末詞の歴史的研究』pp.139-164 三弥井書店
鈴木睦（1997）「女性語の本質－丁寧さ、発話行為の視点から－」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.59-73 明治書院
関崎博紀（2013）「日本人大学生同士の雑談に見られる否定的評価の言語的表現方法に関する一考察」『日本語教育』155，pp.111-125 日本語教育学会
関洋平（2014）「コミュニティ QA における意見分析のためのアノテーションに関する一検討」『自然言語処理』21（2），pp.271-299 言語処理学会
高井範子・岡野孝治（2009）「ジェンダー意識に関する検討－男性性・女性性を中心にして－」『太成学院大学紀要』11，pp.61-73 太成学院大学
高橋準（2014）『ジェンダー学への道案内』（四訂版）北樹出版
田中和子（1984）「新聞にみる構造化された性差別表現」磯村英一・福岡安則（編）『マスコミと差別語問題』pp.179-201 明石書店
田中和子・女性と新聞メディア研究会（2006）「新聞において女性はどのように表現されているか－「新聞紙面にあらわれたジェンダー」第四回調査を中心に－」『国学院法学』43（4），pp.69-162 国学院大学法学会
田中和子・女性と新聞メディア研究会（2009a）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在－「新聞紙面にあらわれたジェンダー」第五回調査を中心に－」『国学院法学』46（4），pp.55-134 国学院大学法学会

田中和子・女性と新聞メディア研究会（2009b）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在（その 2）－第五回調査データの多変量解析と投書欄、テレビ面・ラジオ面、「少年」の用法の分析を中心に－」『国学院法学』47（3），pp.1-83 国学院大学法学会

田中和子・女性と新聞メディア研究会（2011）「ミレニアムを通過した新聞ジェンダー表現の現在（その 3）－「延べ語数」と「異なり語数」の経年分析および「言語計画」の観点から－」『国学院法学』48（4），pp.127-231 国学院大学法学会

田中和子・女性と新聞メディア研究会（2017）「新聞紙面にあらわれたジェンダー－第六回調査の量的分析を中心に－」『国学院法学』54（4），pp.15-130 国学院大学法学会

田野村忠温（2009）「コーパスからのコロケーション情報抽出－分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作－」『阪大日本語研究』21，pp.21-41 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座

因京子（2003）「マンガに見るジェンダー表現の機能」『日本語とジェンダー』3，pp.17-36 日本語ジェンダー学会

因京子（2006）「談話ストラテジーとしてのジェンダー標示形式」日本語ジェンダー学会（編）『日本語とジェンダー』pp.53-72 ひつじ書房

趙麗君（2013）「漢語接尾辞「-化」の成立と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35，pp.89-110 岡山大学大学院社会文化科学研究科

辻幸夫（2013）『新編 認知言語学キーワード事典』研究社

坪井睦子（2016）「メタ・コミュニケーションとしてのメディア翻訳－国際ニュースにおける引用と翻訳行為の不可視性－」『社会言語科学』19（1），pp.118-134 社会言語科学会

中島晶子（2010）「新造語における「度」「系」「力」」の用法」大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル（編）『漢語の言語学』pp.159-175 くろしお出版

中島悦子（1997）「疑問表現の様相」現代日本語研究会（編）『女性のことば・職場編』pp.59-82 ひつじ書房

中村桃子（1995）『ことばとフェミニズム』勁草書房

中村桃子（2001）『ことばとジェンダー』勁草書房

中村桃子（2002）「「言語とジェンダー研究」の理論」『言語』31（2），pp.24-31 大修館

書店
中村桃子（2006）「言語イデオロギーとしての「女ことば」－明治期「女学生ことば」の成立－」日本語ジェンダー学会（編）『日本語とジェンダー』pp.121-138 ひつじ書房
中村桃子（2007a）『「女ことば」はつくられる』ひつじ書房
中村桃子（2007b）『＜性＞と日本語－ことばがつくる女と男－』日本放送出版協会
中村桃子（2012）『女ことばと日本語』岩波書店
野村雅昭（1978）「接辞性字音語基の性格」『電子計算機による国語研究』9，pp.102-138 国立国語研究所
馬場伸彦（2012）「いまなぜ女子の時代なのか？」馬場伸彦・池田太臣（編）『「女子」の時代！』pp.9-16 青弓社
樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』ナカニシヤ出版
樋口文彦(2001)「形容詞の評価的な意味」言語学研究会（編）『ことばの科学』10，pp.43-66 むぎ書房
広井多鶴子（1999）「「婦人」と「女性」－ことばの歴史社会学－」『群馬女子短期大学紀要』25，pp.121-136 群馬女子短期大学
堀正広（2009）『英語コロケーション研究入門』研究社
マグロイン・花岡直美（1997）「終助詞」井出祥子（編）『女性語の世界』pp.33-41 明治書院
益岡隆志（2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30（5），pp.26-32 大修館書店
増田祥子（2016）「女性文末形式の使用の現在－『女性のことば・職場編』調査と比較して－」現代日本語研究会 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・髙橋美奈子（編）『談話資料－日常生活のことば－』pp.131-154 ひつじ書房
水本光美（2006）「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダーフィルタ」日本語ジェンダー学会（編）『日本語とジェンダー』pp.73-94 ひつじ書房
宮崎あゆみ（2016）「日本の中学生のジェンダー－人称を巡るメタ語用的解釈－変容するジェンダー言語イデオロギー－」『社会言語科学』19（1），pp.135-150 社会言語

科学会
八亀裕美（2003）「形容詞の評価的意味と形容詞分類」『阪大日本語研究』15，pp.13-40 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現－日本語語用論入門－』明治書院
山下喜代（2011）「字音接尾辞「式・風・的」の意味－プロトタイプとスキーマ－」『青山語文』41，pp.130-142 青山学院大学日本文学会
山下喜代（2015）「漢語接尾辞「系・派」について－人物を表す派生語の分析を中心にして－」『青山語文』45，pp.112-125 青山学院大学日本文学会
山田進（2007）「コロケーションの記述と名詞の意味分類」『日本語学』26（12），pp.48-57 明治書院
吉田理加（2011）「法廷談話実践と法廷通訳－語用とメタ語用の織り成すテクスト－」『社会言語科学』13（2），pp.59-71 社会言語科学会
米澤泉（2014）『「女子」の誕生』勁草書房
林玉恵（2009）「女性の一般呼称を表す日中同形語の意味分析－「女子」「女性」「婦女「婦人」を中心に－」『日本語研究センター報告 』16，pp.73-94 大阪樟蔭女子大学

【英語文献】

Derewianka, B. (2007). Using Appraisal Theory to Track Interpersonal Development in Adolescent Academic Writing. In A McCabe, M O'Donnell, & R Whittaker (Eds.), *Advances in Language and Education* (pp.142-165). London: continuum.
Hanks, W. F. (1993). Metalanguage and Pragmatics of Deixis. In John A. Lucy (Eds.), *Reflexive Language: Reported Speech and Metapragmatics* (pp.127-157). Cambridge: Cambridge University Press.
Harvey, A. (2004). Charismatic Business Leader Rhetoric: From Transaction to Transformation. In L. Young, & C. Harrison (Eds.), *Systemic Functional Linguistics and Critical Discourse Analysis: Studies in Social Change* (pp.247-263). New York: continuum.
Ide, S. (1990). How and Why Do Women Speak More Politely in Japanese. In S. Ide, & N.H. McGloin (Eds.), *Aspects of Japanese Women's Language* (pp.63-79). Tokyo: Kurosio Publishers.

Martin, J.R. (2000). Beyond Exchange: APPRAISAL Systems in English. In S. Hunston, & G Thompson (Eds.), *Evaluation in Text* (pp.142-175). Oxford: Oxford University Press.

Martin, J. R., & White. P. R. R. (2005). *The Language of Evaluation: Appraisal in English*. New York: Palgrave Macmillan.

Nakamura, M. (1990). Woman's Sexuality in Japanese Female Terms. In S. Ide, & N.H. McGloin (Eds.), *Aspects of Japanese Women's Language* (pp.147-163). Tokyo: Kurosio Publishers.

Painter, C. (2003). Developing attitude: An ontogenetic perspective on APPRAISAL. *Text & Talk, 23(2),* 183-209.

Silverstein, M. (1993). Metapragmatic Discourse and Metapragmatic Function. In John A. Lucy (Eds.), *Reflexive Language: Reported Speech and Metapragmatics* (pp.33-58). Cambridge: Cambridge University Press.

Stoller, R. J. (1964). A CONTRIBUTION TO THE STUDY OF GENDER IDENTITY. *The International Journal of Psychoanalysis, 45,* 220–226.

West, C., & Zimmerman, D. H. (1987). Doing Gender. *Gender & Society*, *1*(2), 125-151.

【中国語文献】

徐微洁（2012a）〈日语中"女性标示语"使用现状考察－以『朝日新闻』的报道为例－〉《日语学习与研究》第 1 期，pp.37-43．《日语学习与研究》杂志社

徐微洁（2013b）〈日语女性标示语"婦人～"的流变及用法考察〉《外语研究》第 2 期，pp.41-47．《外语研究》杂志社

参考資料

赤瀬川原平（1998）『老人力』筑摩書房

新村出（編）（2018）『広辞苑』（第七版）岩波書店

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2014 年度版）

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2015 年度版）

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2016 年度版）

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2017 年度版）

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2018 年度版）

自由国民社（編）『現代用語の基礎知識』（2019 年度版）

松村明（編）（2006）『大辞林』（第三版）三省堂

森岡清美・塩原勉・本間康平（編集代表）（1993）『新社会学辞典』有斐閣

参考ウェブサイト

（1）「現代用語の基礎知識」選　ユーキャン新語・流行語大賞

＜https://www.jiyu.co.jp/singo/>（2020 年 5 月 18 日閲覧）

（2）KH Coder ＜https://khcoder.net/＞ （アクセス期間：2018 年 4 月～2020 年 9 月）

使用データ

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）

＜https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search＞

コーパス検索アプリケーション『中納言』

博士論文に関わる研究発表活動

第 1 章、第 2 章

新規執筆

第 3 章

馬雯雯（2019c）「日本語におけるジェンダー表現－「女子力」に関するパイロット調査を中心に－」現代日本語研究会第 28 回武蔵嵐山ワークショップ 口頭発表 2019 年 6 月 22 日 国立女性教育会館にて

馬雯雯（2019e）「ジェンダーに関わる表現「女子力」についての考察－「女子力」を巡る記述における言語標識を中心に－」『ことば』40，pp.90-105 現代日本語研究会

第 4 章

馬雯雯（2018a）「日本語におけるジェンダー表現の一考察－「女性」とそのコロケーションから－」現代日本語研究会第 27 回武蔵嵐山ワークショップ 口頭発表 2018 年 6 月 16 日 国立女性教育会館にて

馬雯雯（2018b）「「女性」の使用実態についての一考察－コーパスのコロケーションから－」東京外国語大学国際日本研究センター主催夏季サマースクール－2018「言語・ 文学・社会－国際日本研究の試み」口頭発表 2018 年 7 月 12 日 東京外国語大学にて

馬雯雯（2018c）「日中両言語における「女性」 の使用実態についての一考察－コーパスのコロケーションから－」第 10 回漢日対比言語学シンポジウム 口頭発表 2018 年 8 月 19 日 蘇州大学にて 《第十届汉日对比语言学研讨会会议手册》pp.60

馬雯雯（2018d）「日本語におけるジェンダー表現－「女性」「男性」と形容詞のコロケーションを中心に－」『ことば』39，pp.36－51 現代日本語研究会

馬雯雯（2019a）「日本語におけるジェンダー表現の一考察－「女性」「男性」のコロケーションを中心に－」社会言語科学会第 43 回研究大会 ポスター発表 2019 年 3 月 16 日 筑波大学にて 『社会言語科学会第 43 回大会発表論文集』pp. 154-157

馬雯雯（2019b）「「女性」の使用実態についての一考察－コーパスのコロケーションから－」『日本語・日本学研究』9, pp.212 東京外国語大学国際日本研究センター（発表要旨）

第 5 章

馬雯雯（2020a）「日本語におけるジェンダーに関わる表現の考察－「女子力」及び「女子力が高いね」に対する返答を中心に－」社会言語科学会第 44 回研究大会 大会開催中止、ウェブでの質疑応答参加『社会言語科学会 第 44 回大会発表論文集』pp.190-193

馬雯雯（2020b 印刷中）「ジェンダーに関わる表現「女子力」の考察－「聞き手」の視点からみるその使用の様相を中心に－」『ことば』41, 現代日本語研究会

第 6 章

馬雯雯（2019d）A Study of Gender Expressions in Japanese　第 3 回 European Association for Japanese Studies 日本会議 口頭発表（英語）2019 年 9 月 15 日筑波大学にて

第 7 章

新規執筆

（なお、すべての既刊論文および学会発表に加筆・修正を施している）

謝　辞

本論文を執筆するにあたり、多くの方のご指導とご助力をいただきました。ここに深謝の意を表します。

本論文を執筆するにあたり、始終ご指導や激励を賜りました主指導教員の小野正樹先生には、心より感謝の意を表します。博士後期課程に入学して以来、研究者としての成長を見守ってくださいました。そして、博士論文を執筆するにあたり、いつもご支援、激励のお言葉をいただいき、最後まで頑張ることができた原動力をくださいました。小野正樹先生のおかげで、筑波大学でたくさんの成長を得ました。ここに厚く御礼申し上げます。

本論文の副査を引き受けていただいた沼田善子先生、井出里咲子先生にも大変お世話になりました。先生方の授業に参加させていただき、発表のチャンスをくださったおかげで、研究を前へ進めることができました。博士論文を執筆するにあたり、貴重なご意見、ご助言をいただき、励ましのお言葉をいただき、この場を借りて、心より御礼申し上げます。

博士論文について、貴重なご意見、ご助言をくださった論文審査委員会の田中洋子先生、日頃からお世話になっている伊藤秀明先生にもここに深く感謝の意を表します。ネイティブチェックをしてくださった飯田朋子さん、大槻薫子さん、大竹春菜さんにも深く感謝いたします。そして、日本語教育プログラムの先生方、国際日本研究専攻事務室の職員の皆様、小野ゼミの皆様、データ収集にご協力くださった皆様、グローバルヴィレッジのルームメートの皆様、励ましをくださった同窓の皆様、大変お世話になりました。感謝の意を表します。

また、留学についてご支援くださった中国国家留学基金委、奨学金を賜った日本文部科学省に心より感謝いたします。

最後に、これまで自分の思う道を進むことに対して、いつも温かく見守ってくれた家族に心から感謝します。

馬 雯雯

2020 年 12 月 筑波大学宿舎にて